



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

MIRAI



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 FC システム

燃料電池車の特徴・注意など

3 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

4 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

5 運転

運転に必要な操作やアドバイス

6 室内装備・機能

室内装備の使い方など

7 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

8 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

9 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

燃料電池車で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	26
安全なドライブのために	28
シートベルト	30
SRS エアバッグ	34
お子さまの安全のために	42
チャイルドシート	43
1-2. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	63
オートアラーム	64

2 FC システム

2-1. 燃料電池車について	
燃料電池車の特徴	70
燃料電池車の注意	74
燃料電池車運転の アドバイス	86
2-2. 外部電源供給システムについて	
外部電源供給システム	88

3 メーターの見方

3. 計器の見方	
警告灯／表示灯	98
計器類	102
マルチインフォメーション ディスプレイ	107

4 各部の操作

4-1. キー	
キー	118
4-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	121
トランク	127
スマートエントリー& スタートシステム	131
4-3. シートの調整	
フロントシート	137
マイコンプリセット ドライビングポジション システム	139
ヘッドレスト	144
4-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	147
インナーミラー	149
ドアミラー	151
4-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	155

5 運転

5-1. 運転にあたって

運転にあたって	160
荷物を積むときの注意	169

5-2. 運転のしかた

パワースイッチ	170
トランスミッション (動力伝達装置)	177
方向指示レバー	183
パーキングブレーキ	184

5-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	186
オートマチック ハイビーム	189
リヤフォグランプスイッチ	194
ワイパー&ウォッシャー	195

5-4. 燃料充てんのしかた

燃料充てん口(補給口)の 開け方	198
---------------------------	-----

5-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....	203
PCS (プリクラッシュ セーフティ)	208
LDA (レーン ディパーチャーアラート [ステアリング 制御機能付き])	219
RSA (ロードサインアシスト)	230
レーダークルーズ コントロール	234
先行車発進機能	246
BSM (ブラインド スポットモニター)	249
クリアランスソナー	255
パーキングサポートブレーキ (静止物)	263
運転を補助する装置	275
5-6. 運転のアドバイス 寒冷時の運転	281

6 室内装備・機能

6-1. エアコンの使い方

オートエアコン	286
ステアリングヒーター／ シートヒーター	296

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	299
・ インテリアランプ	300
・ パーソナルランプ	300

6-3. 収納装備

収納装備一覧	302
・ グローブボックス	303
・ コンソールボックス	303
・ カップホルダー	305
・ ボトルホルダー	306
・ 小物入れ	307
・ カードホルダー	307
トランク内装備	308

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	310
・ サンバイザー	310
・ バニティミラー	310
・ 時計	311
・ アームレスト	312
・ コートフック	313
・ アシストグリップ	314
・ アクセサリーソケット	315
・ アクセサリー コンセント	316
・ おくだけ充電 (ワイヤレス充電器)	322
ステアリングスイッチ	328
ETC2.0 ユニット (VICS 機能付)	330

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	350
内装の手入れ	354

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	357
ガレージジャッキ	360
ウォッシャー液の補充	362
タイヤについて	363
タイヤの交換	366
タイヤ空気圧について	372
エアコンフィルターの 交換	374
電子キーの電池交換	376
ヒューズの点検・交換	378
電球（バルブ）の交換	381

8 万ーの場合には

8-1. まず初めに

故障したときは	388
非常点滅灯 （ハザードランプ）	389
発炎筒	390
車両を緊急停止するには	392
水没したときは	393

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	394
警告灯がついたときは	400
警告メッセージが 表示されたときは	404
パンクしたときは	412
FC システムが 始動できないときは	426
正常に給電できないときは	428
電子キーが正常に 働かないときは	430
補機バッテリーが あがったときは	433
オーバーヒートしたときは	439
スタックしたときは	444

9 車両情報

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ （指定燃料・液量など）	448
--------------------------------	-----

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	451
--------------------------	-----

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	459
------------------	-----

さくいん

こんなときは （症状別さくいん）	462
車から音が鳴ったときは （音さくいん）	465
アルファベット順さくいん	467
五十音順さくいん	469
燃料電池車さくいん	486

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

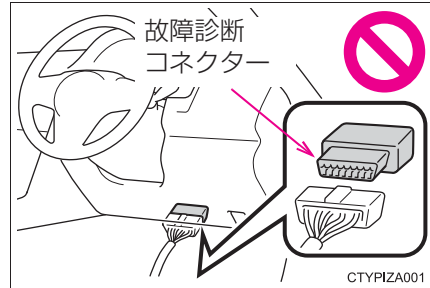
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

- ・ エンジン回転数 / 電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システム (ABS、プリクラッシュセーフティなど) の作動状況
- ・ 前方カメラの画像情報

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティ作動時のデータは残りません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDRデータの情報開示

次の場合を除き、トヨタはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- FC システム
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



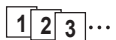
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

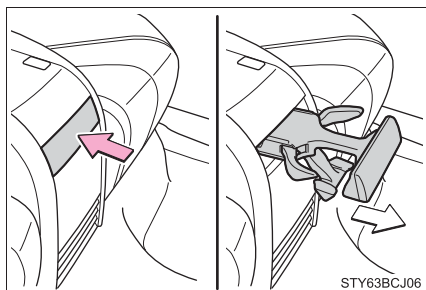
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

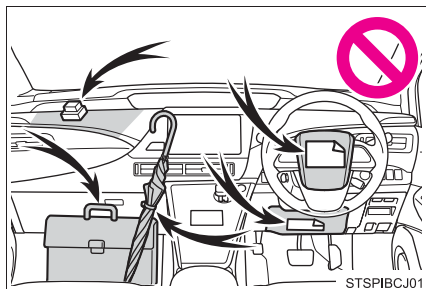
➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。



“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



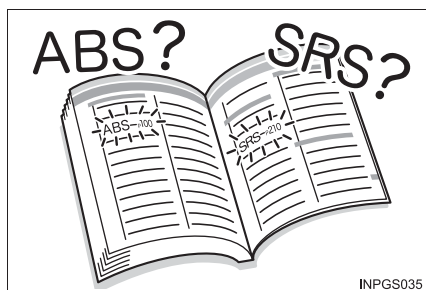
知識

機能や操作方法の説明以外で知っていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

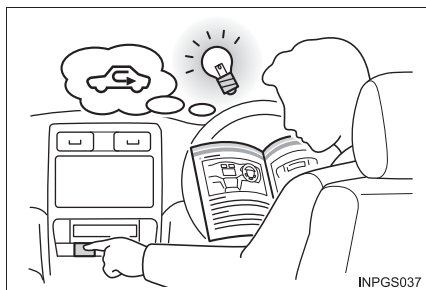
- ・ 五十音順さくいん469
- ・ アルファベット順
さくいん467



INPGS035

■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



INPGS037

■ 症状や音から探す

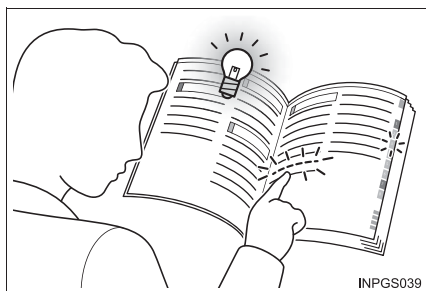
- ・ こんなときは
(症状別さくいん)462
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)465



INPGS038

■ タイトルから探す

- ・ 目次2

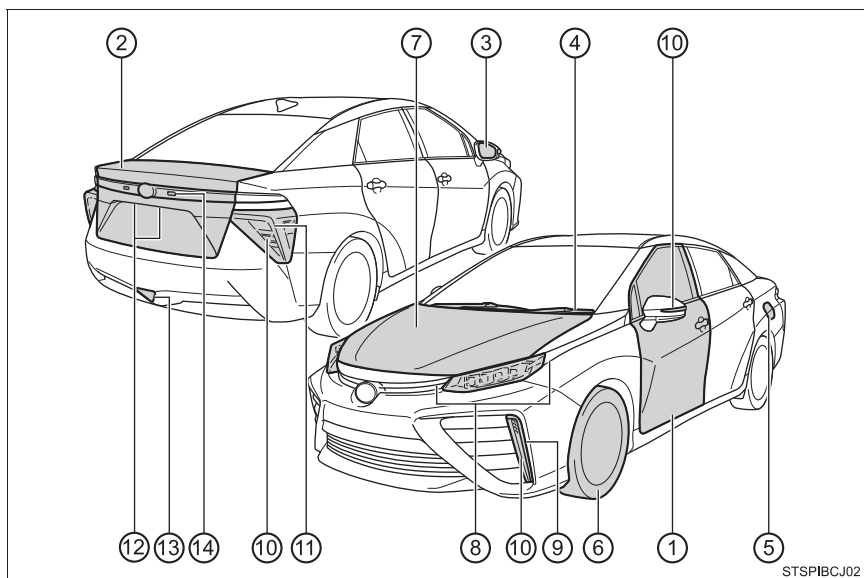


INPGS039

■ 燃料電池車さくいん486

イラスト目次

■ 外観



- ① ドアP. 121
 施錠／解錠P. 121, 123
 ドアガラスの開閉P. 155
 メカニカルキーでの施錠／解錠P. 430
 警告灯・警告メッセージP. 402, 404
- ② トランクP. 127
 車内から開けるP. 127
 車外から開けるP. 127
 警告灯・警告メッセージP. 402, 404
- ③ ドアミラーP. 151
 鏡面の角度調整P. 151
 ミラーの格納P. 151
 調整位置の登録（ポジションメモリー）P. 140
 曇りを取る（ミラーヒーター）P. 289

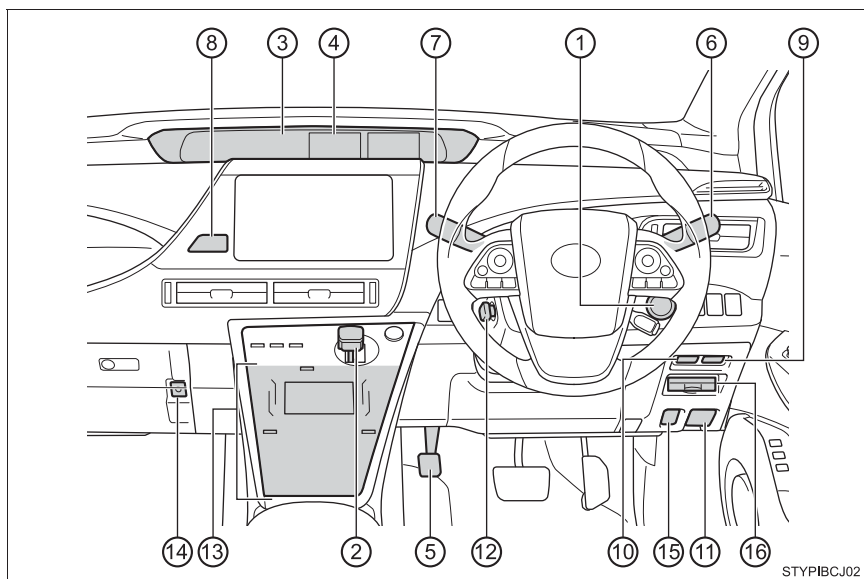
④	ワイパー	P. 195
	冬季の注意	P. 281
	洗車時の注意	P. 352
⑤	燃料充てん扉	P. 198
	燃料充てん方法	P. 198
	燃料の種類・燃料タンク容量	P. 448
⑥	タイヤ	P. 363
	サイズ・空気圧	P. 450
	冬用タイヤ・タイヤチェーン	P. 281
	点検・ローテーション	P. 363
	パンク時の対処	P. 412
⑦	ボンネット	P. 357
	開け方	P. 357
	オーバーヒート時の対処	P. 439

走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領：P. 381, ワット数：P. 450)

⑧	ヘッドランプ	P. 186
⑨	車幅灯・LED デイライト	P. 186
⑩	方向指示灯	P. 183
	非常点滅灯	P. 389
⑪	尾灯	P. 186
⑫	番号灯	P. 186
⑬	リヤフォグランプ★	P. 194
⑭	後退灯	
	シフトポジションを R にする	P. 177

■ インストルメントパネル

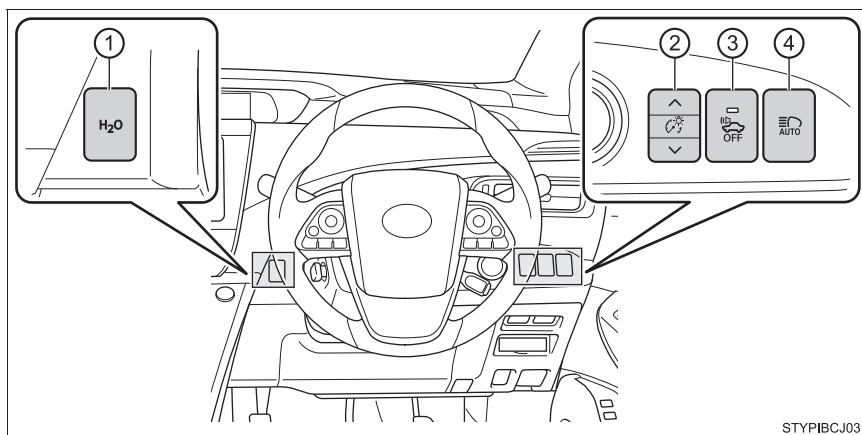


STYPIBCJ02

- ① **パワースイッチ**P. 170
 - FC システムの始動・モード切りかえ.....P. 170
 - FC システムの緊急停止.....P. 392
 - FC システムが始動できないときの対処.....P. 426
 - 警告メッセージ.....P. 404
- ② **シフトレバー**P. 177
 - シフトポジションの切りかえ.....P. 177
 - けん引時の注意.....P. 394
- ③ **メーター**P. 102
 - 見方・明るさの調整P. 102, 104
 - 警告灯／表示灯.....P. 98
 - 警告灯点灯時の対処P. 400

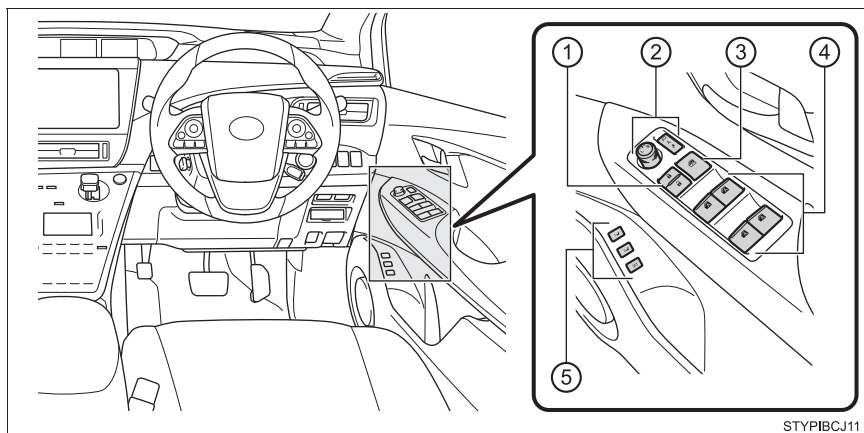
④	マルチインフォメーションディスプレイ	P. 107
	表示内容	P. 107
	エネルギーモニター	P. 109
	警告メッセージ表示時の対処	P. 404
⑤	パーキングブレーキ	P. 184
	かける・解除する	P. 184
	冬季の注意	P. 282
	警告ブザー・警告メッセージ	P. 404
⑥	方向指示レバー	P. 183
	ランプスイッチ	P. 186
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯	P. 186
	リヤフォグランプ★	P. 194
⑦	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 195
	使い方	P. 195
	ウォッシャー液の補充	P. 362
⑧	非常点滅灯スイッチ	P. 389
⑨	トランクオープナースイッチ	P. 127
⑩	燃料充てん扉オープナースイッチ	P. 200
⑪	ボンネット解除レバー	P. 357
⑫	ハンドル位置調整スイッチ	P. 147
	調整方法	P. 147
	調整位置の登録（ポジションメモリー）	P. 140
⑬	オートエアコン	P. 286
	操作方法	P. 286
	リヤウインドウの曇り取り （リヤウインドウデフォッガー）	P. 289
	ウインドシールドデアイザー★	P. 289
⑭	トランクオープナーメインスイッチ	P. 128
⑮	DC OUT スwitch	P. 89
⑯	ETC2.0 ユニット	P. 330

■ スイッチ類

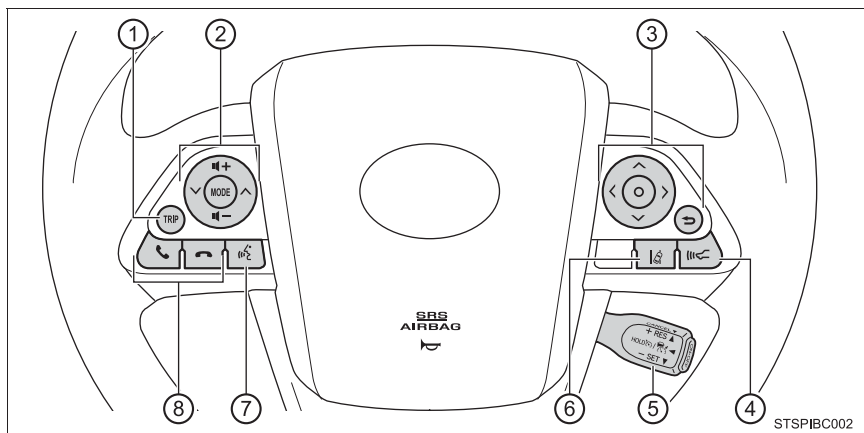


STYPIBCJ03

- ① H₂O スイッチ.....P. 171
- ② インストルメントパネル照度調整スイッチ.....P. 104
- ③ 車両接近通報一時停止スイッチ.....P. 76
- ④ オートマチックハイビームスイッチ.....P. 189

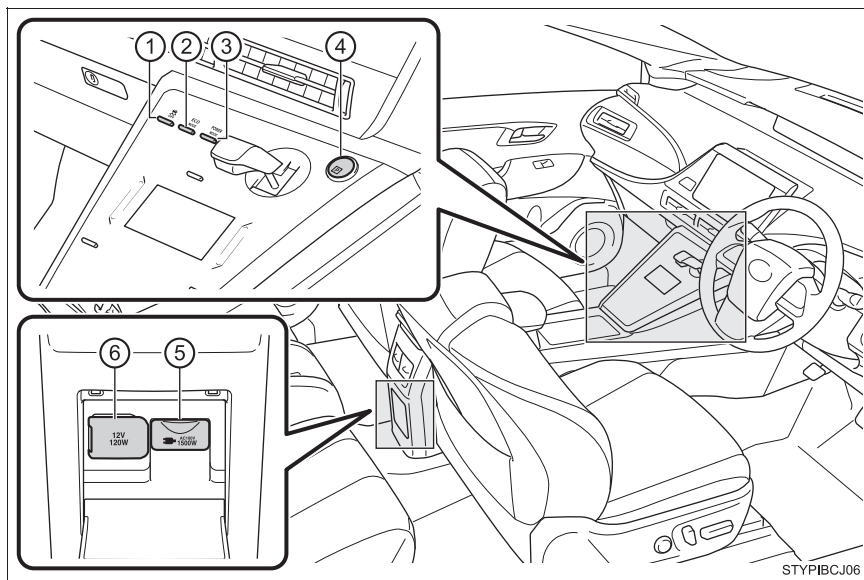


- ① ドアロックスイッチP. 123
- ② ドアミラースイッチP. 151
- ③ ウィンドウロックスイッチP. 155
- ④ パワーウィンドウスイッチP. 155
- ⑤ ドライビングポジションメモリースイッチ.....P. 140



STSPIBC002

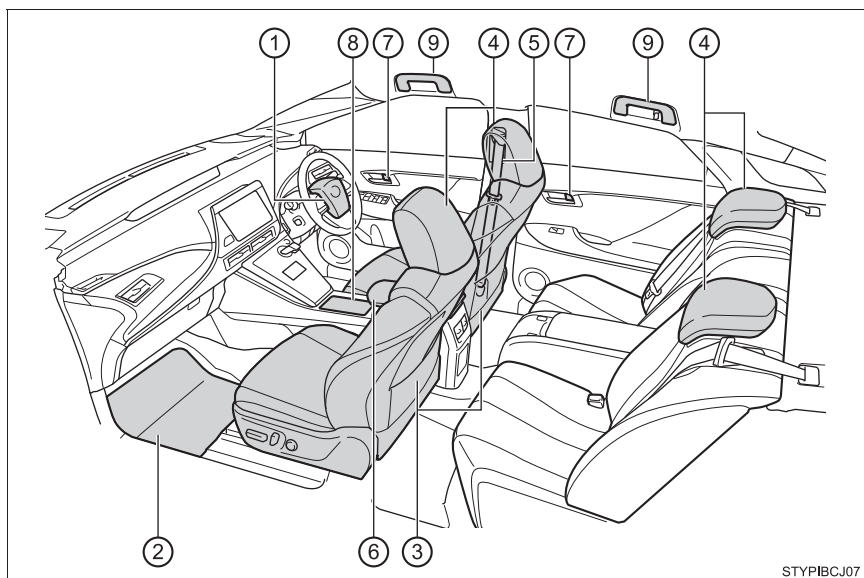
- ① オドメーター／トリップメーター
切りかえ・トリップメーターリセットボタン.....P. 103
- ② オーディオスイッチP. 328
- ③ メーター操作スイッチ.....P. 108
- ④ 車間距離切りかえスイッチP. 234
- ⑤ クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール.....P. 234
- ⑥ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチ.....P. 219
- ⑦ トークスイッチ.....P. 328
- ⑧ 電話スイッチP. 328



STYPIBCJ06

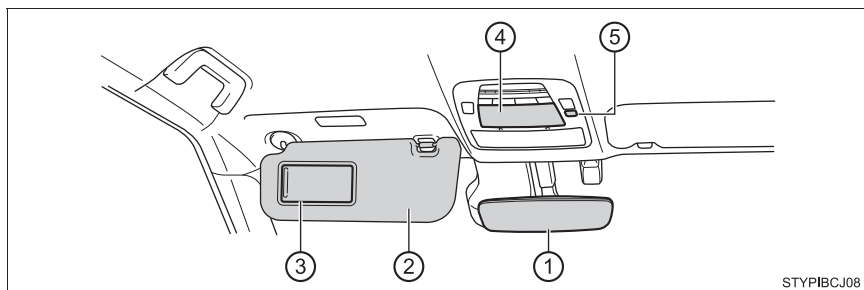
- ① VSC OFF スイッチP. 276
- ② ECO MODE スイッチP. 179
- ③ POWER MODE スイッチ.....P. 179
- ④ P ポジションスイッチ.....P. 178
- ⑤ アクセサリーコンセントP. 316
- ⑥ 12V アクセサリーソケットP. 315

■ 室内



STYPIBCJ07

- | | |
|-------------------|--------|
| ① SRS エアバッグ | P. 34 |
| ② フロアマット | P. 26 |
| ③ フロントシート | P. 137 |
| ④ ヘッドレスト | P. 144 |
| ⑤ シートベルト | P. 30 |
| ⑥ コンソールボックス | P. 303 |
| ⑦ ロックレバー | P. 123 |
| ⑧ カップホルダー | P. 305 |
| ⑨ アシストグリップ | P. 314 |



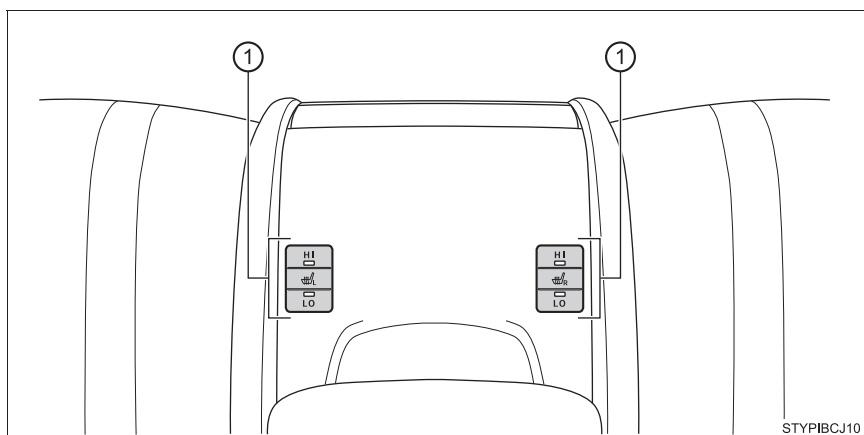
STYPIBCJ08

- ① インナーミラーP. 149
- ② サンバイザー ※¹P. 310
- ③ バニティミラーP. 310
- ④ インテリアランプ ※²P. 300
- パーソナルランプP. 300
- ⑤ 侵入センサー OFF スイッチP. 66

※¹ : やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P. 49)

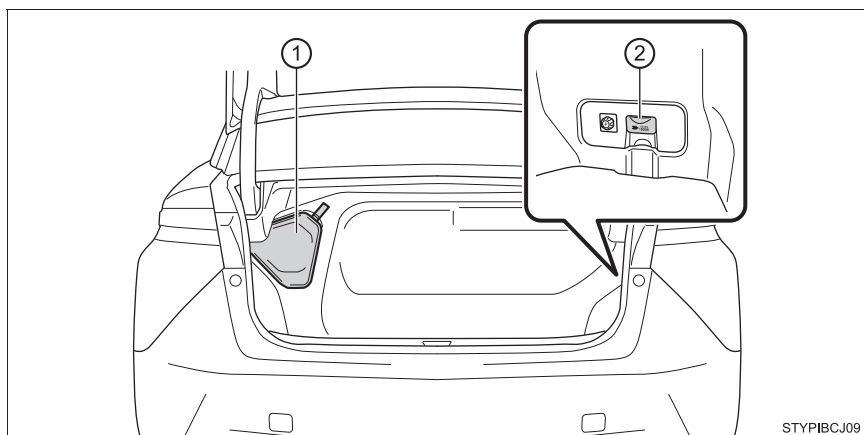


※² : 図はフロントですが、リヤにも装着されています。



① リヤシートヒータースイッチ.....P. 297

■ トランク



- ① 給電口.....P. 88
② アクセサリーコンセント.....P. 316

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に.....	26
安全なドライブのために	28
シートベルト.....	30
SRS エアバッグ.....	34
お子さまの安全のために	42
チャイルドシート	43

1-2. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	63
オートアラーム.....	64

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

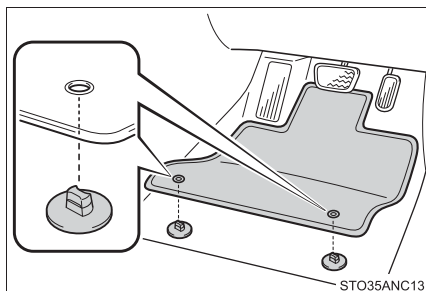
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

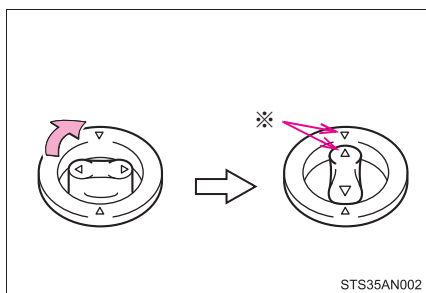
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

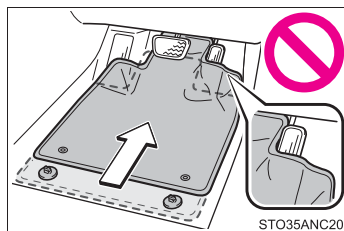
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- FC システム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

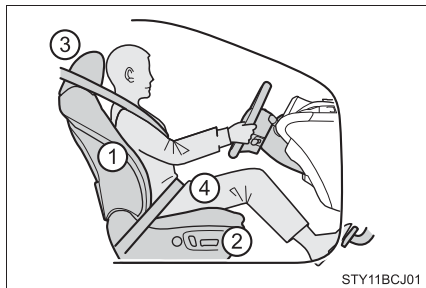


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
(→ P. 137)
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
(→ P. 137, 147)
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする
(→ P. 145)
- ④ シートベルトを正しく着用する (→ P. 30)



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
(→ P. 30)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 43)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→ P. 149, 151)

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

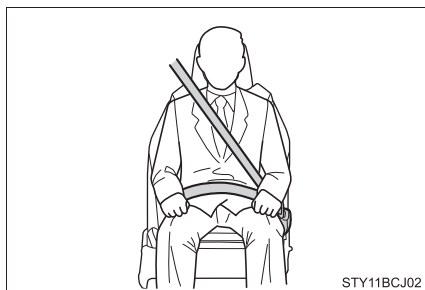
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

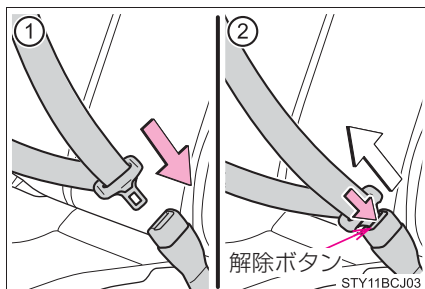
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



STY11BCJ02

着け方・はずし方

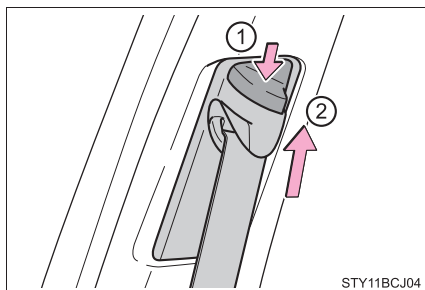
- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



STY11BCJ03

シートベルトの高さ調節（フロント席）

- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



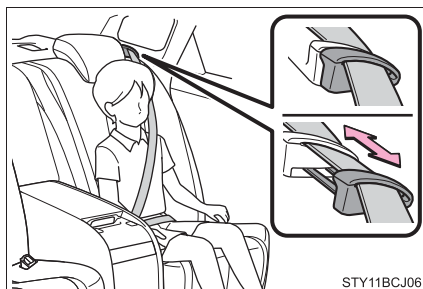
STY11BCJ04

シートベルトコンフォートガイド（リヤ席）

お子さまや体の小さい方はコンフォートガイドを前方にスライドさせて肩部ベルトが首にかからないように調整してください。

シートベルトを使用後は、手を添えてもどしベルトが格納されていることを確認してください。

コンフォートガイドをもとの位置にもどしてください。

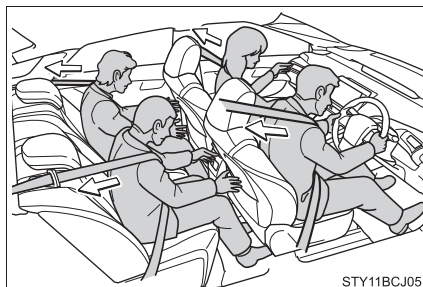


シートベルトプリテンショナー

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

フロント席のシートベルトプリテンショナーは、側方から強い衝撃を受けたときも作動します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→P. 43）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P. 30）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

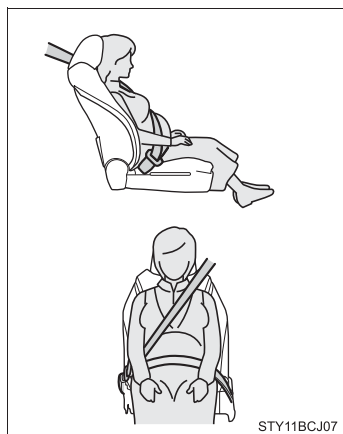
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 30)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

 警告**■ お子さまを乗せるとき**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

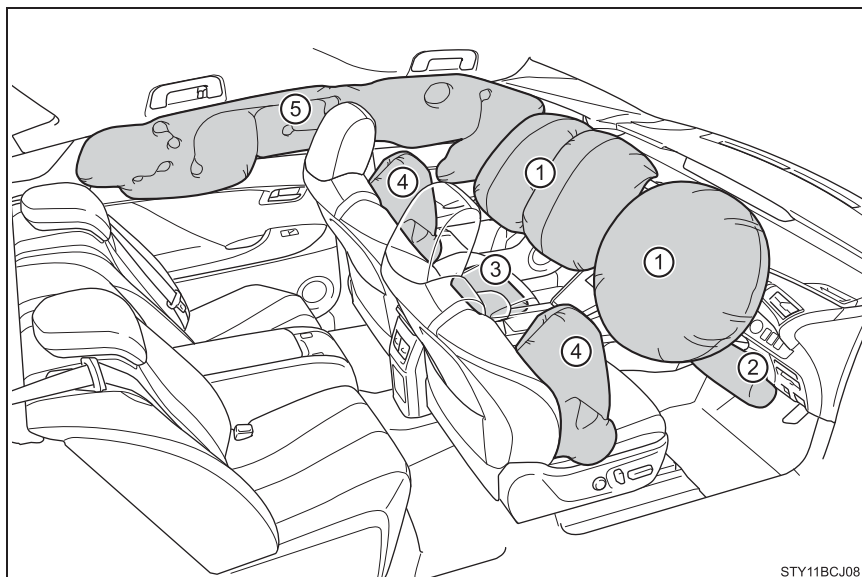
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ② SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)
- ③ SRS シートクッションエアバッグ
(助手席乗員の衝撃緩和を補助)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ④ SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸や腰などへの衝撃を緩和)
- ⑤ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

警告

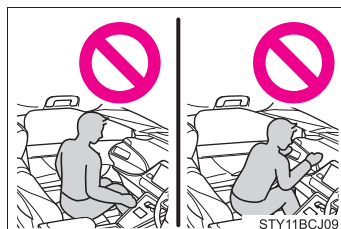
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

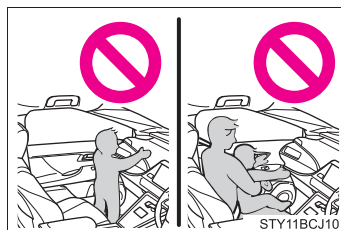
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 43)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



警告

■ SRS エアバッグについて

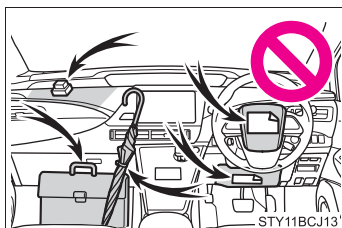
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



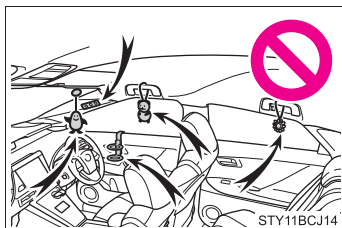
- 助手席やリヤ席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→ P. 419)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。

 警告**■ SRS エアバッグについて**

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグや SRS シートクッションエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。
- 助手席の SRS シートクッションエアバッグは、シートベルトを着用していないときは作動しません。

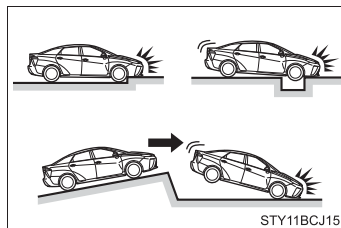
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、とくに衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

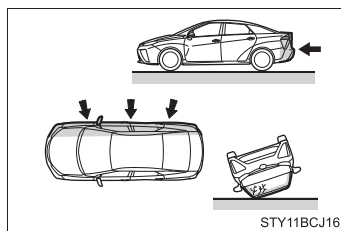
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

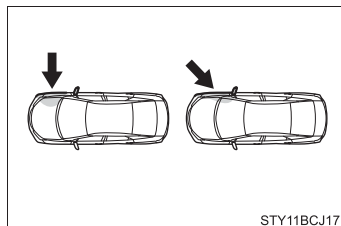
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

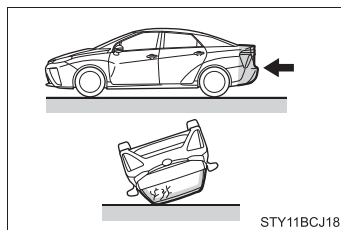
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

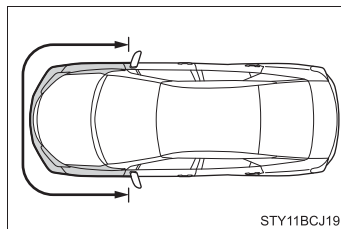
- 後方からの衝突
- 横転



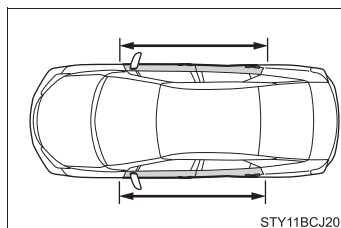
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、修理・点検が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

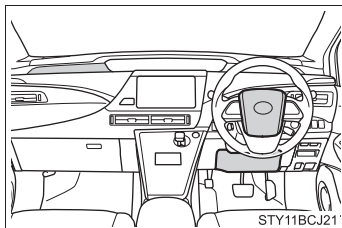
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



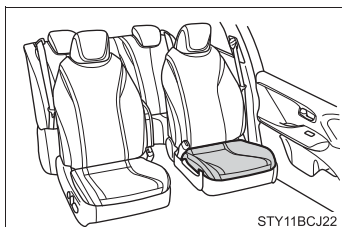
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



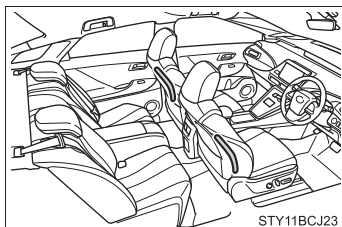
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



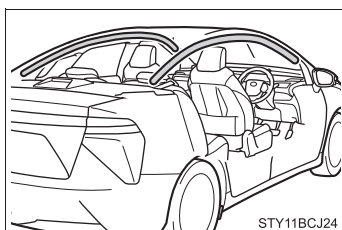
- 助手席のシートクッション表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 43)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター (→ P. 124) ・ウィンドウロックスイッチ (→ P. 155) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→ P. 43)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	P. 43
チャイルドシートについて	P. 45
チャイルドシートを助手席で使用する時	P. 48
チャイルドシートをリヤシートで使用する時	P. 50
チャイルドシートの取り付け方法	
・ シートベルトで固定する	P. 51
・ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する	P. 56
・ トップテザーアンカーを使用する	P. 61

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
 - 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
 - 車の取り付けに合った、ECE R44^{*} または ECE R129^{*} に適合するチャイルドシートを使用してください。
 - お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合ったチャイルドシートを使用してください。
- ^{*} ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

 警告**■ お子さまを乗せるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- チャイルドシートにはお子さまを1人だけ乗せて、チャイルドシートのベルトで体を固定してください。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。(→ P. 52, 58) 本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートについて

お手持ちのチャイルドシートについては、次の項目を確認のうえ、車に取り付けてください。

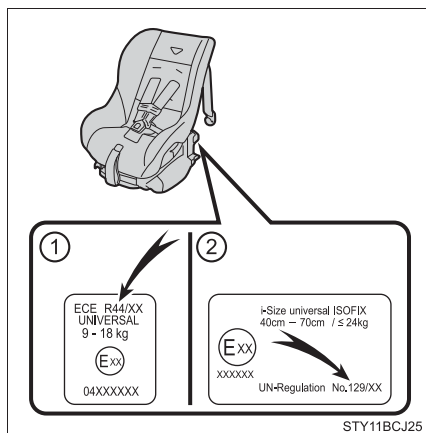
■ チャイルドシートの規格

ECE R44※¹ または、ECE R129※^{1, 2} に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

- ① ECE R44 認可マーク ※³
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。
- ② ECE R129 認可マーク ※³
対象となるお子さまの身長
の範囲および使用可能な体重が
記載されています。



※¹ ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※² ECE R129 に適合したチャイルドシートを購入できない場合があります。
チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

※³ 表示されているマークは、商品により異なります。

■ 質量グループについて (ECE R44 のみ)

この質量グループは、「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」を確認する際に必要となります。「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」と合わせてご確認ください。(→ P. 52, 58)

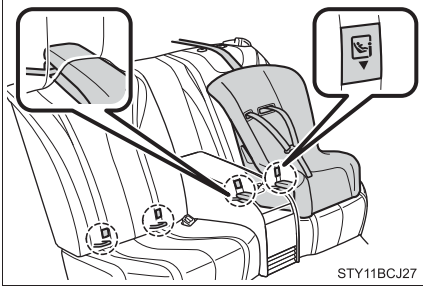
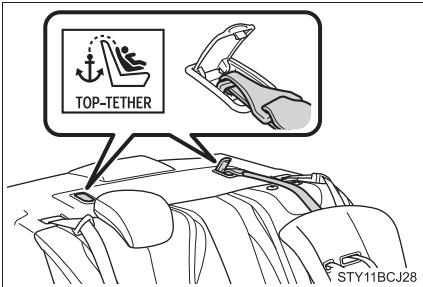
ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重	参考年齢※
グループ 0	10kg まで	9ヶ月頃まで
グループ 0+	13kg まで	1 歳半頃まで
グループ I	9 ～ 18kg	9ヶ月頃～ 4 歳頃まで
グループ II	15 ～ 25kg	3 歳頃～7 歳頃まで
グループ III	22 ～ 36kg	6 歳頃～ 12 歳頃まで

※ 年齢の範囲は、おおよその目安になります。お子さまの体重に合わせて選択してください。

■ チャイルドシート固定方法の種類

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 51
ISOFIX チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 56
テザーベルトを固定する		P. 61

チャイルドシートを助手席で使用するとき

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす



STY11BCJ29

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、次のことを必ずお守りください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

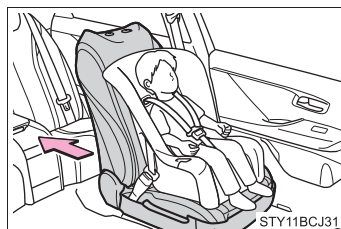
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



- 助手席にチャイルドシートを前向きに取り付ける場合には、シートをいちばんうしろに下げ、シートの高さをいちばん高い位置まで上げて取り付けてください。

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。



⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

チャイルドシートをリヤシートで使用するとき

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表(→ P. 52)は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能なシート位置を記号で表しています。また、お子さまの体重にあった推奨チャイルドシートについても選択することができます。次に記載されている、「シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能なシート位置の確認のしかた」も合わせて確認ください。

◆ シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能なシート位置の確認のしかた

- 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する(→ P. 46)
(例 1)：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。
(例 2)：体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。
- 2 チャイルドシートの取り付け可能なシート位置と対応するチャイルドシートの種類(記号)を、「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から選択する。(→ P. 52)

◆ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表
(シートベルトでの取り付け)

▶ フロントシート

質量グループ	助手席	推奨チャイルドシート
0 (10kg まで)	×	—
0+ (13kg まで)	×	—
I (9 ～ 18kg)	うしろ向き ×	“ トヨタ純正 NEO G-Child baby ”
	前向き UF※1, 3	
Ⅱ, Ⅲ (15～36kg)	UF※1, 3	“ トヨタ純正ジュニアシート ”

▶ リヤシート

質量グループ	右席	左席	推奨チャイルドシート
0 (10kg まで)	U	U	“ トヨタ純正 NEO G-Child baby ”
0+ (13kg まで)	U	U	“ トヨタ純正 NEO G-Child baby ”
I (9 ～ 18kg)	U※2	U※2	“ トヨタ純正 NEO G-Child baby ”
Ⅱ, Ⅲ (15～36kg)	U※2	U※2	“ トヨタ純正ジュニアシート ”

表に記入する記号の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

×： チャイルドシートを取り付けることはできません。

※¹ 背もたれを直立状態にしてください。シートをいちばんうしろまで下げてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※² ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

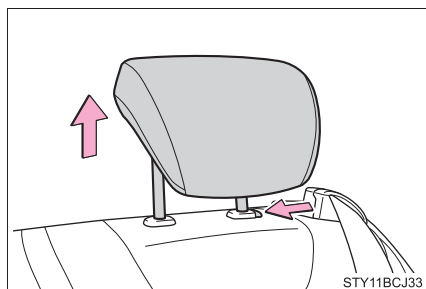
※³ シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げてください。シートバックとチャイルドシートの間に隙間がある場合は、シートバックと良い接触位置になるまでシートバックを調整してください。

● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

◆ シートベルトで固定する

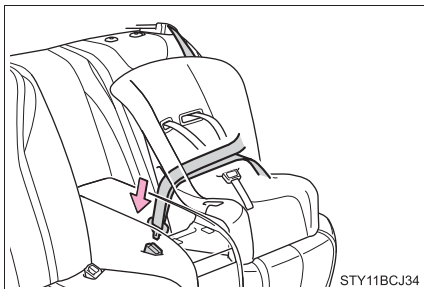
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

- 1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。
(→ P. 145)



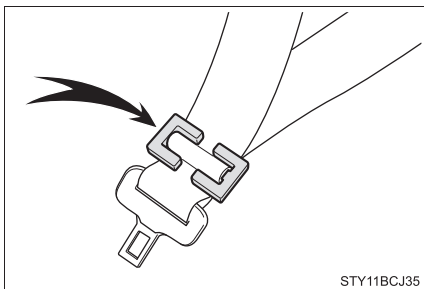
- 2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



STY11BCJ34

- 3 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



STY11BCJ35

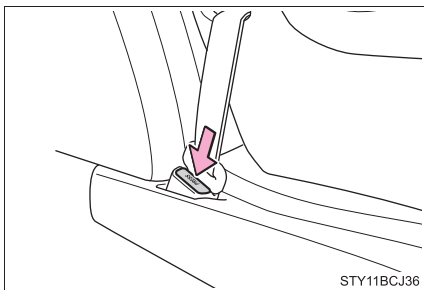
- 4 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

◆ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。



STY11BCJ36

 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

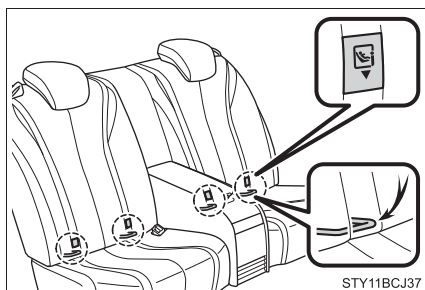
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はリヤシートに ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ ISOFIX 対応チャイルドシートについて

ECE R44※ または、ECE R129※ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、認可マークが表示されています。(→ P. 45)

※ ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表(→ P. 58, 59)は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても確認することができます。

次に記載されている、サイズ等級、固定具および「ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた」も合わせて確認ください。

■ ECE R44 チャイルドシートのサイズ等級、固定具について

チャイルドシートに表示される分類記号と、それにとまなう取り付け器具の記号になります。

サイズ等級	固定具	形状・大きさ	使用の向き	お子さまの大きさ
A	ISO/F3	全高	前向き	幼児
B	ISO/F2	低型	前向き	幼児
B1	ISO/F2X	低型	前向き	幼児
C	ISO/R3	大型	うしろ向き	幼児
D	ISO/R2	小型	うしろ向き	幼児
E	ISO/R1	—	うしろ向き	乳児
F	ISO/L1	キャリコット※	左向き	乳児
G	ISO/L2	キャリコット※	右向き	乳児

※ キャリコットはお子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることのできる乳児用シートのことです。詳しくはチャイルドシート製造業者または販売業者にお尋ねください。

■ ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた

- 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する
(→ P. 46)

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「O⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

- 2 サイズ等級を確認する

「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から、確認した「質量グループ」の該当するサイズ等級を確認します。(→ P. 58)※

(例 1) : 質量グループが「O⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨チャイルドシート」(→ P. 58)で指定されている製品を使用してください。

◆ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表
(ISOFIX での取り付け [ECE R44 適合のチャイルドシート])

▶ リヤシート

質量グループ	サイズ 等級	固定具	車両 ISOFIX 位置		推奨 チャイルドシート
			右席	左席	
キャリコット	F	ISO/L1	×	×	—
	G	ISO/L2	×	×	—
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL	IL	“ トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL	IL	“ トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	D	ISO/R2	IL	IL	“ トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	C	ISO/R3	IL	IL	
I (9 ～ 18kg)	D	ISO/R2	IL	IL	—
	C	ISO/R3	IL	IL	
	B	ISO/F2	IUF※	IUF※	—
			IL※	IL※	“ トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	B1	ISO/ F2X	IUF※	IUF※	—
			IL※	IL※	“ トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	A	ISO/F3	IUF※	IUF※	—
			IL※	IL※	“ トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”

表に記入する記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。

IL： ISOFIX チャイルドシートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

×： ISOFIX チャイルドシートを取り付けることはできません。

※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

- 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表 (ISOFIX での取り付け [ECE R129 適合のチャイルドシート])

	着席位置		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	右席	左席
i-Size チャイルドシート	×	i-U	i-U

表に記入する記号の説明

i-U： 前向きおよびうしろ向きの i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適しています。

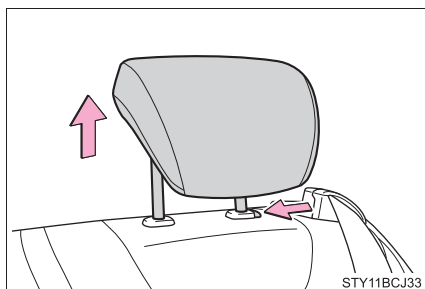
×： i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを取り付けることはできません。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

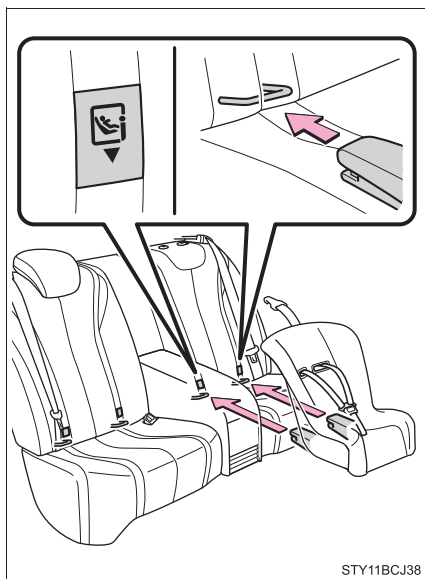
- 1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。
(→ P. 145)



- 2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

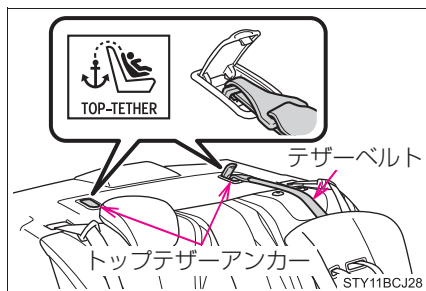
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

この車はリヤシートにトップテザーアンカーが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

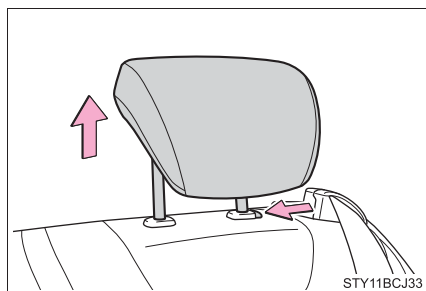


■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

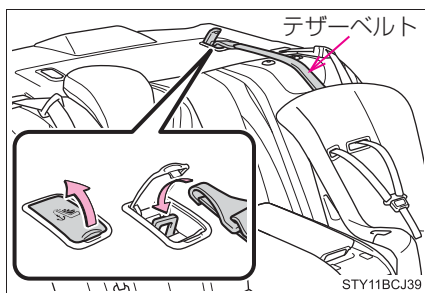
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→ P. 145)



2 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

⚠ 注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

イモビライザーシステム

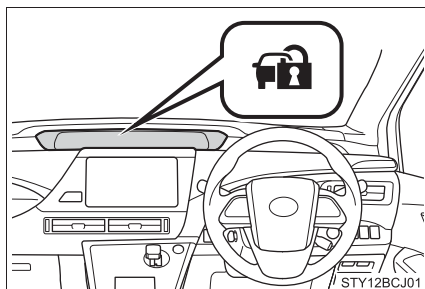
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではFCシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、イモビライザーシステムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリモードまたはONモードにするとイモビライザーシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に作動せずFCシステムを始動できないことがあります。(→ P. 133)

注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

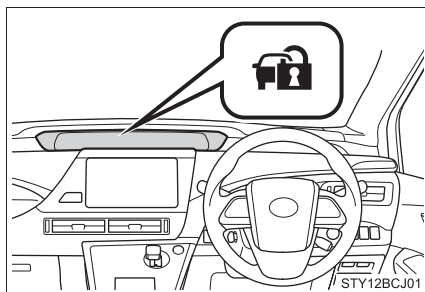
- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定する

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアまたはトランクを解錠する
- パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにするか、FC システムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

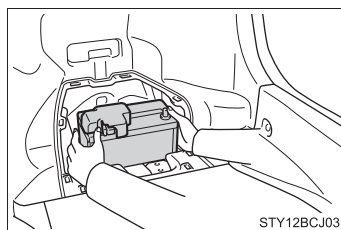
■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたとき
- 車内に残った人が、ロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき
(→ P. 436)



■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

以下のとき、自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- 補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■ 外部給電中の作動について

外部給電中は、ドアを施錠してもオートアラームは設定されません。(→ P. 88)

⚠ 注意**■ オートアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入センサーとは

侵入センサーは、超音波を使って車内への侵入者や室内の動きを検知するセンサーです。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→ P. 64)

■ 侵入センサーを停止する

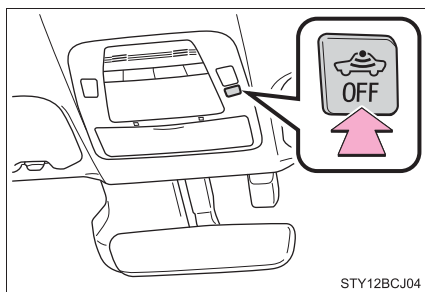
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 侵入センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを OFF/ON にするたびに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

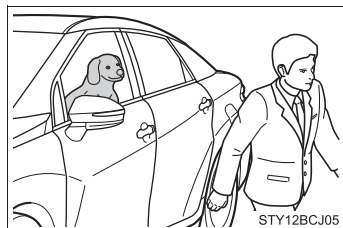
■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー & スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。

■ 侵入センサーについての留意事項

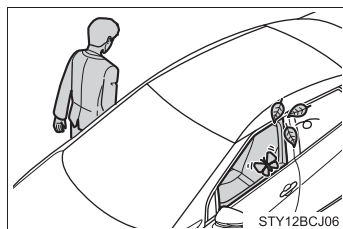
次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合

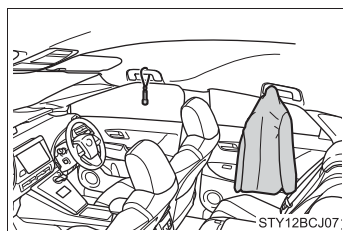


- ドアガラスが開いている場合、次のものを検知することがあります。

- ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
- ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
- ・ 室外の歩行者の動き



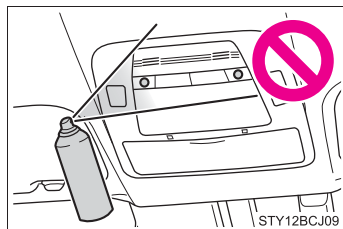
- マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



 注意

■ 侵入センサーを正しく作動させるために

- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。



- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、トヨタ純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

FC システム

2

2-1. 燃料電池車について

燃料電池車の特徴70

燃料電池車の注意74

燃料電池車運転の
アドバイス86

2-2. 外部電源供給システム
について

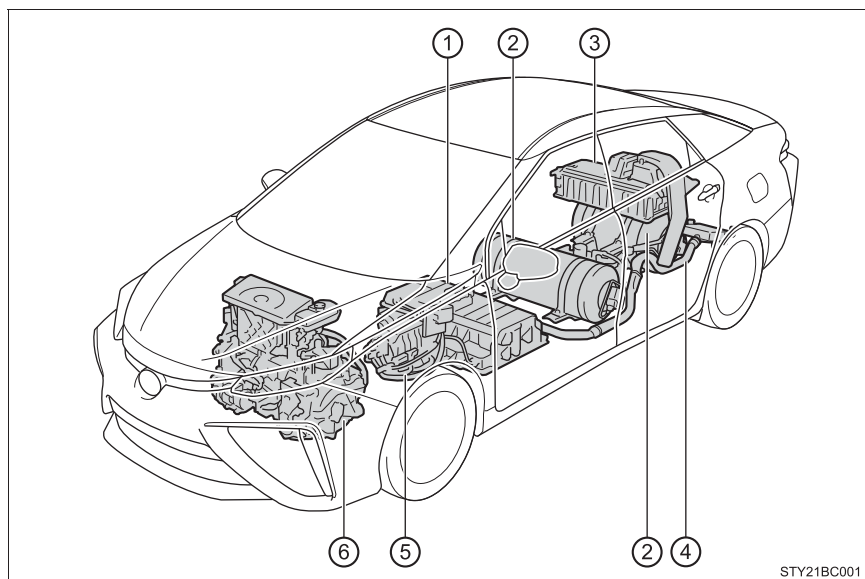
外部電源供給システム88

燃料電池車の特徴

燃料電池車は、FC スタックで水素と酸素の化学反応によって発電された電気と、駆動用電池に蓄えられた電気を効率良く使用して、電気モーターで走行します。

燃料は H_2 （圧縮水素ガス）を使用するので、走行中に排出するのは水や水蒸気のみです。 CO_2 （二酸化炭素）や NO_x （窒素酸化物）といった排気ガスを出さない、環境にやさしい車両です。

燃料電池車固有部品について



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|-----------------|---------------|
| ① FC スタック（燃料電池） | ④ 排気排水管 |
| ② 水素タンク | ⑤ FC 昇圧コンバーター |
| ③ 駆動用電池 | ⑥ 電気モーター |

走行について

電気モーターならではの力強く滑らかな発進・加速が可能です。
特別な操作は不要でガソリン車と同様に走行できます。(→ P. 160)
エンジン音もなく静かな車のため、燃料電池車固有部品の作動音が聞こえる場合があります。(→ P. 72)

FC システムについて

寒冷時は、始動性向上のため寒冷時特有のシステム作動になる場合があります。(→ P. 173)
作動音(→ P. 72)、排水処理(→ P. 173)などが通常と異なりますが、異常ではありません。

燃料充てん(燃料補給)について

燃料の圧縮水素ガスは、水素ステーションで充てんできます。
燃料充てん口(補給口)の開け方(→ P. 198)

 知識

■ 燃料電池車特有の音と振動

燃料電池車は、いろいろな状況で次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

なお、聞こえ方は、使用環境や状況により異なる場合があります。

聞こえる音の例	音の意味
“コトン、カチン”	リレー、水素タンクのバルブの作動音です。 床下やリアシート後部から聞こえる場合があります。 FC システム始動時に聞こえる場合があります。
“コン、カタン”	パーキングロックがはまる音です。 モータールームから聞こえる場合があります。 P ポジションスイッチを押したとき、またはFC システム停止時に聞こえる場合があります。
“ ジュー”、“ キュー”	燃料が流れる際の気流音・作動音です。 リヤシート後部から聞こえる場合があります。 燃料充てん時に聞こえる場合があります。
“ ウィーン”、“ ガー”、“ ウー”	ポンプなどの回転機の作動音です。 モータールームとフロントシート下部から聞こえる場合があります。 特に、FC システム始動時、発進時、給電時、H ₂ O スイッチを押したときに聞こえる場合があります。 Bs モード時、またはレーダークルーズコントロールでの減速時には音が大きくなる場合があります。
“ヒューン”	ポンプなどの回転機の回転数が上がる音です。 モータールームとフロントシート下部から聞こえる場合があります。 特に加速時、減速時に聞こえる場合があります。
“シュツ、シュ”、“ ゴンゴンゴン”	インジェクタの作動に伴う音です。 フロントシート下部やリヤシート後部から聞こえる場合があります。 特に始動時、低速走行時、駆動用電池充電時に聞こえる場合があります。
“ヒューン”、“ キーン”	電気モーターの回転に伴う音です。 モータールームから聞こえる場合があります。 特に加速時、減速時に聞こえる場合があります。

聞こえる音の例	音の意味
“シャー”	水や空気を排出する音です。 車両後部より聞こえる場合があります。 寒冷時は凍結防止のため駐車中に音がする場合があります。 停車中、FC システム停止時、または駐車中に聞こえる場合があります。
“ジャー”	冷却水の流れる音です。 モータールームから聞こえる場合があります。 特に給電時に聞こえる場合があります。
“ブーン”	冷却ファンの作動音です。 モータールームから聞こえる場合があります。 特に給電時に聞こえる場合があります。

■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、減速力を得ることができます。

- シフトポジションが D で走行中に、アクセルペダルから足を離れたとき
- シフトポジションが D で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ 駆動用電池の充電について

FC スタックの発電による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、FC システムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→ P. 436

■ 駐車中は

燃料電池車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車中はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションを P にしてください。

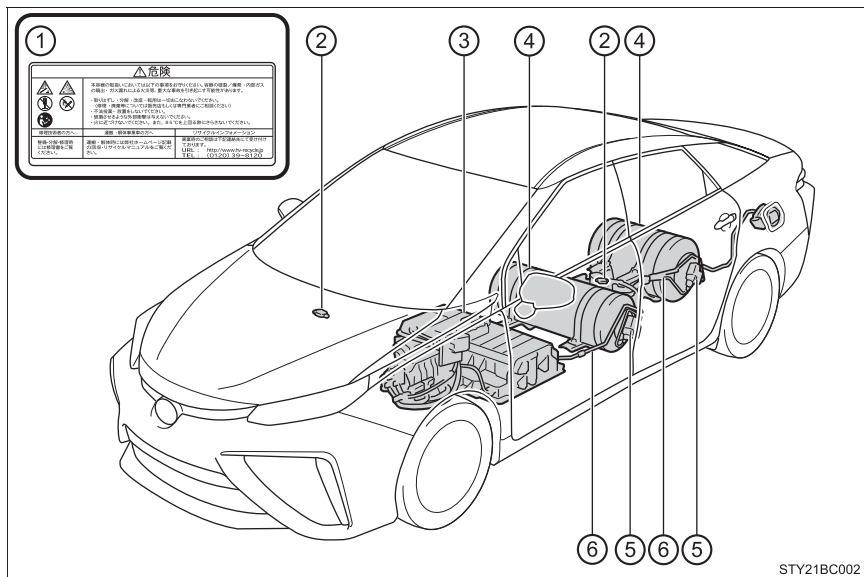
■ メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて FC スタック・駆動用電池などの回収を行っていますので、ご協力ください。

燃料電池車の注意

水素関係部位について

燃料電池車には、水素タンク（70MPa）・FC スタック・水素配管などの水素関係部位があります。水素関係部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してあります。

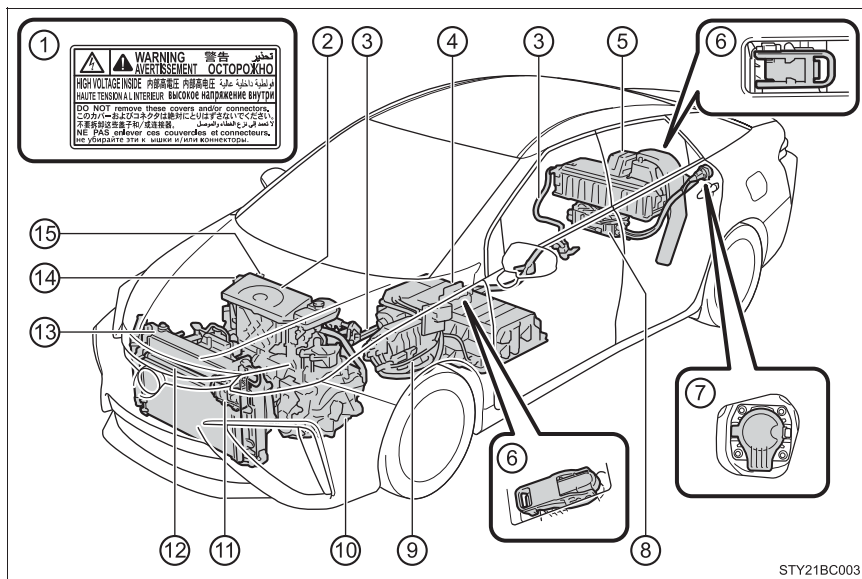


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- ① ラベル
- ② 水素ディテクタ（検知器）
- ③ FC スタック（燃料電池）
- ④ 水素タンク
- ⑤ 水素タンクバルブ
- ⑥ 水素配管

高電圧部位・高電圧配線・高温部位について

燃料電池車には、FC スタック・駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位があります。高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してあります。



STY21BC003

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① ラベル | ⑨ FC 昇圧コンバーター |
| ② パワーコントロールユニット | ⑩ 電気モーター |
| ③ 高電圧ケーブル（オレンジ色） | ⑪ エアコンコンプレッサー |
| ④ FC スタック（燃料電池） | ⑫ インバーター冷却用ラジエーター |
| ⑤ 駆動用電池 | ⑬ FCスタック冷却用ラジエーター |
| ⑥ サービスプラグ | ⑭ 補機インバーター |
| ⑦ 給電口 | ⑮ 水加熱ヒーター |
| ⑧ 給電ボックス | |

緊急停止システム

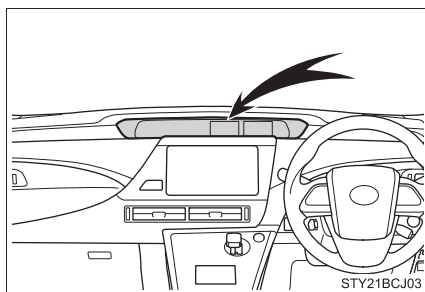
事故により衝撃を受けたときなどは、FC システムを停止して高電圧を遮断します。また、水素タンクバルブにより燃料供給を停止します。この場合、FC システムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

FC システムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。(→ P. 404)

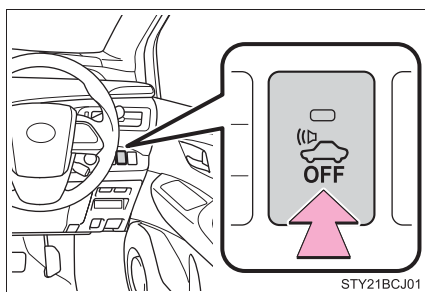


車両接近通報装置

燃料電池車は、従来の車両と違いエンジン音がありません。走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

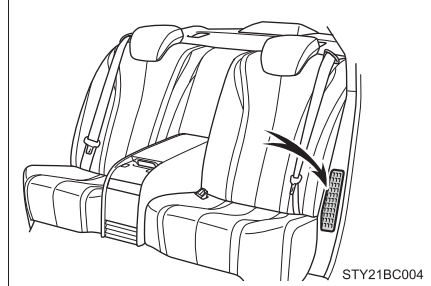
消音するには、READY インジケータが点灯している状態で、スイッチを押す

スイッチ上のインジケータが点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。FCシステムを始動(→P. 170)するごとに、車両接近通報装置は ON になります。



駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート横部（左側）には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさぐと、駆動用電池の出力低下の原因になります。



知識

■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

FC システムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「水素漏れ検知 販売店で点検してください」が表示されたときは

少量の水素ガスもれのおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「水素漏れによりシステム停止 安全な場所に停車して販売店に連絡」が表示されたときは

- 水素ガスもれのおそれがあります。
水素ガスもれやその他の異常に気付いたとき： → P. 82
- エアコンが自動的に停止します。

■ 燃料切れになったとき

燃料切れで FC システムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 402）が消灯するまで充電してから再始動してください。少量の充電（約 1.2kg 以下）では始動できない場合があります。

■FC スタックについて

- 使用環境により、出力は低下しますが走行への影響はほとんどありません。
- 次のような状況では、通常使用時と比べて早めに出力が低下する場合があります。
 - ・高濃度粉じんの場所で使い続ける
 - ・火山、温泉地などの高い硫黄濃度の場所で使い続ける
 - ・高い濃度のシンナー・塗料などの有機溶剤・アンモニア臭などのアミン系物質・塩素系物質（潮風・融雪剤など）が存在する場所で使い続ける
ただし、通常環境に戻り一定時間使用することで出力は戻ります
 - ・エアクリーナフィルター内に海水が浸入したとき
エアクリーナフィルターの交換および周辺の清掃をおすすめします。トヨタ販売店で点検を受けてください
 - ・FC システムの始動停止回数が過度に多い場合
 - ・氷点下での使用期間が過度に多い場合

■水素タンクについて

- 水素タンクは、車両の燃料である圧縮水素ガスを水素ステーションで高圧充てんしてためておく容器です。
- 燃料電池車は定期的な燃料装置の点検の他に、定期的な容器（水素タンク）の再検査が法律で義務づけられています。
容器再検査に合格し、検査有効期限内でないと圧縮水素ガスを充てんすることができません。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 水素タンクは法律により充てん可能期限が定められています。燃料充てん扉の裏側・ボンネットの裏側に明記される充てん可能期限を過ぎる場合は、水素タンクを交換する必要があります。
- 水素タンクまたは水素タンクバルブを廃棄するときは、法律に従い処分する必要があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 高圧ガス・水素タンクの喪失・盗難時の順守事項
 - ・燃料電池車が盗難された場合、管轄の警察官へ被害届を必ず提出をしてください。
 - ・その際に、盗難された車両が高圧ガスを充てんするための容器を搭載していることを、警察官に必ず伝えてください。

■FC スタック用冷却水について

- 高電圧であるFCスタックを安全に冷却するために、FCスタック用冷却水は絶縁性の高い専用品を使用しています。
- 水や他の種類の冷却水は故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。
- FC スタック用冷却水の補充・交換は、トヨタ販売店にご相談ください。

■イオンフィルタについて

- FCスタック用冷却水の絶縁性を常に維持するために、FCスタック用冷却水の経路にはイオンフィルタが設置されています。
- イオンフィルタは定期的な交換が必要となります。(→ P. 407)

■排気排水管について

- 走行後、パワースイッチを OFF にして FC システムを停止(→ P. 171)したときに排気排水管から排水されます。車両後方に立つと水がかかることがありますので注意してください。
- 車庫や立体駐車場で排水量を少なくしたい場合は、駐車する前にスイッチ操作で排水することが可能です。(→ P. 171)
- 寒冷時に排気排水管から排出される白霧は水蒸気ですので異常ではありません。
- 排気排水管が異物でふさがれると FC システムが停止することがあります。

■水素ディテクタ（検知器）について

パワースイッチを ON モードにすると、水素ガスもれの検知を開始します。

■出力制限について

出力が制限されたときは、電気モーターに供給される電力が制限されるため、アクセルペダルを踏んでも車速があがらなかったり、減速することがあります。安全な走行速度が維持できない場合は、走行車線から離れた安全な場所に停車してください。

- 急加速・急減速のくり返し、上り坂での連続走行、高地での高負荷連続走行などによって冷却水の温度が高くなったときは、メインディスプレイに出力制限表示灯（橙色）と、マルチインフォメーションディスプレイに「FC 高温出力制限中です 注意しながら走行してください」が表示され、出力が制限されることがあります。冷却水が正常な温度にもどれば出力制限は解除されます。（→ P. 406）
- 燃料残量警告灯が点灯したあとに、しばらく走行していると走行可能な距離を伸ばすため出力が制限されることがあります。この状態になると残りわずかしか走行できません。すぐに圧縮水素ガスを充てんしてください。
- 寒冷時は、通常よりも早く燃料残量警告灯が点灯し、出力が制限されることがあります。

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が入る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言（駆動用電池）

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

■水素ガスの特性

- 水素ガスはガソリンにくらべて着火しやすいですが、空気にくらべて軽く拡散しやすいので、外部にもれた場合でもすぐに燃焼可能な濃度より薄くなる特徴があります。
- 水素ガスは下記に示す特性を理解した上で正しく使用すれば、ガソリンや天然ガスなどと同様に危険な燃料ではありません。

	水素ガス	LPG (液化石油ガス)	ガソリン
空気中での状態	気体 (空気より軽い)	気体 (空気より重い)	液体。揮発後は気体 (空気より重い)
着火しやすさ	ガソリンにくらべて着火しやすい	ガソリンと同程度	—
たまりやすさ	・ 上方に拡散し、開放空間ではすぐに安全な濃度に薄まる ・ 衣服などに付着しない	・ 地面、床に広がる ・ 衣服などに付着しない	・ 地面、床に広がる ・ 衣服などに付着する
発見しやすさ	・ 無色・無臭の気体のため、色や臭いでの発見は難しい ・ ガスがもれる音やマルチインフォメーションディスプレイのメッセージで判別可能	臭い・ガスがもれる音で判別可能	色・臭いで判別可能

■水素安全の基本的な考え方

●もらさない

水素配管の接続部分はおもれにくさに十分配慮した設計をしています。車検時には水素配管の接続部分のおもれの確認をします。

●検知して止める

- ・ 水素ディテクタ（検知器）を装着しています。万が一水素ガスがおもれた場合は、水素ガスを検知して水素タンクバルブが閉じて、水素ガスのおもれが止まります。
- ・ 衝突センサーを装備しています。衝突を検知したときは、水素タンクバルブが閉じ、水素ガスの大量おもれを防止します。

●おもれた水素をためない

水素タンクや水素配管などは車室外に配置し、水素ガスがおもれた場合も空気に拡散する設計をしています。

●火種を置かない

水素配管の付近には火種になるものを配置しない設計をしています。

▲ 警告

■水素関係部位について

- 改造・架装・分解は絶対にしないでください。
- 床下の水素タンクやFCスタックおよびこれらを結ぶ部品や水素配管などには水素ガスが充てんされています。これらの部品の取りはずし・分解などを行うと、水素ガスおもれの原因になり、車両火災や爆発につながり、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険ですので、絶対にさわらないでください。

■水素ガスおもれやその他の異常に気付いたとき

- 大量の水素ガスおもれに気付いたときは、パワースイッチを OFF にしていったん車両から離れてください。
水素ガスがおもれているときや、異常な箇所が発見できないときなどは、火気を近づけないように、付近の人に救援を求めて監視人をつけるか、火気厳禁を表示して、ただちにトヨタ販売店へ連絡してください。
- 水素ガスがおもれる音や、その他の異常に気付いたときは、ただちに安全で風通しのよい場所に停車し、車両から離れてください。
- マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、ただちに安全で風通しのよい場所に停車してください。
- 発炎筒は車両の近くで使用しないでください。車両の近くで使用すると、おもれた水素ガスに引火して車両火災になるおそれがあり危険です。（→ P. 390）

警告**■排気排水管について**

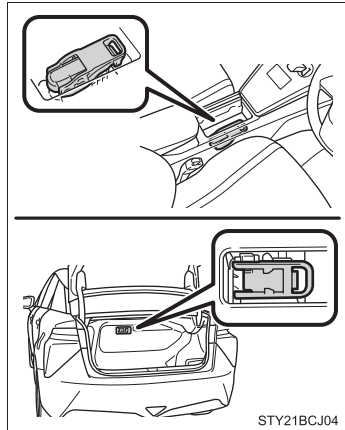
- 排気排水管から出てくる水や水蒸気を直接さわらないでください。低温やけどをする可能性があります。
- 排気排水管から生成水が排出されますが、飲料水としての処理はしていませんので、飲まないでください。
- 新車納車後の一定期間や長期放置後などは、まれに排気排水管から臭いが感じられる場合がありますが、異常ではありません。また、臭いは有害ではありませんが、気分を害するおそれがあるため嗅がないでください。

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はモータールーム内の部品が高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- FCスタック・駆動用電池にはサービスプラグが設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店で車両の修理時などに、FCスタック・駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



 警告**■事故が発生したとき**

次のことをお守りいただかないと、車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にする
- 水素ガスもれがないか確認する
水素ガスもれの有無は、水素ガスのもれる音がする・マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されるなどの症状で確認できます。
- 大量の水素ガスもれに気付いたときは、パワースイッチを OFF にしていったん車両から離れる
水素ガスがもれているときや、異常な箇所が発見できないときなどは、火気を近づけないように、付近の人に救援を求めて監視人をつけるか、火気厳禁を表示して、ただちにトヨタ販売店へ連絡してください。
- 発炎筒は車両の近くで使用しない
車両の近くで使用すると、もれた水素ガスに引火して車両火災になるおそれがあり危険です。(→ P. 390)
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外にはみ出している電気配線には絶対にさわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 車両火災のときには、水素タンクの破損を軽減するために、水素タンク内の水素ガスが水素タンクバルブから車両後方なめ下に放出されます。車両から離れてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火できます
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。(→ P. 398)

 警告**■ 駆動用電池について**

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
 - ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 駆動用電池冷却用の吸入口について**

- ほこりや異物の混入により駆動用電池の出力が低下した場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池の出力低下の原因や、故障の原因になります。
- 吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

■ 駆動用電池について

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

燃料電池車運転のアドバイス

経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ FC システムインジケータの利用

マルチインフォメーションディスプレイの FC システムインジケータの表示をエコエリアの範囲に保つことで、走行距離をのばすことが可能です。(→ P. 110)

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、余分な燃料消費を抑えることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な燃料消費を抑えることができます。

◆ 高出力での運転

燃料電池車は、電気自動車と同様に、急な上り坂や高速走行など高出力での運転時に燃費が悪化します。速度を抑え、一定速度で走行しましょう。

◆ エコドライブモードの使用

エコドライブモード（→ P. 179）を使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、燃費向上につながります。

また、エアコン画面に **ECO** が表示され、エコ空調モード（→ P. 288）になります。

◆ エアコンの ON / OFF

- 必要時以外はエアコン操作スイッチ **A/C** を OFF にしましょう。燃料消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。また、シートヒーター（→ P. 296）の活用も効果的です。

- **ECO HEAT/COOL** を押して、エコ空調モード（→ P. 288）にすることで、エアコンが ON のときでも燃料消費を抑えめにすることができます。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

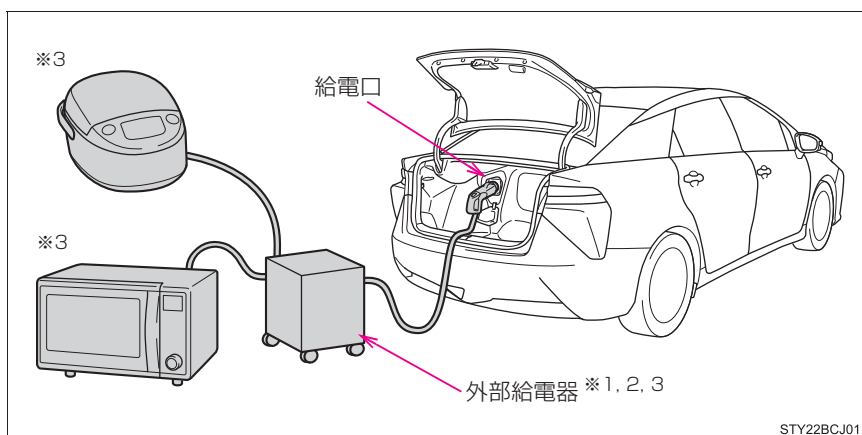
◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

外部電源供給システム

災害などによる非常時に電力が必要な場合、所定の外部給電器 ※1, 2, 3 により給電が可能です。

- このシステムを使用するには、所定の外部給電器が必要です。
- このシステムは、車両の電気を供給して電気製品を使用するものであり、車両の駆動用電池を充電するものではありません。



※1 一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版または V2L DC 版に準拠した外部給電器

※2 給電設備や外部給電器が系統連系などの機能を持つものは、給電できない場合があります。
詳しくは給電設備や外部給電器の製造業者または販売業者にご相談ください。

※3 車両付属品ではありません

給電作業をする前に

- 換気のよい地面が固く平らな場所に駐車する
輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入できます。
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする

● FC システムを停止する

FC システム停止動作中（作動音が消えるまでのあいだ）にパワースイッチを ON モードにすると、給電が開始しない場合があります。

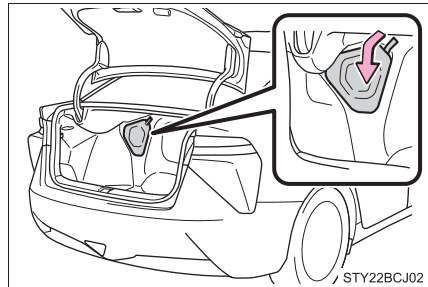
● 給電口のキャップに破損がないか確認する

● 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために次のことを確認してください

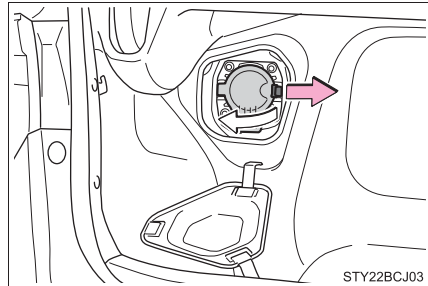
- ・ ドアガラスを閉じる
- ・ 車内・トランク内に貴重品などを放置しない

給電を開始する

1 トランクを開き、カバーを開ける



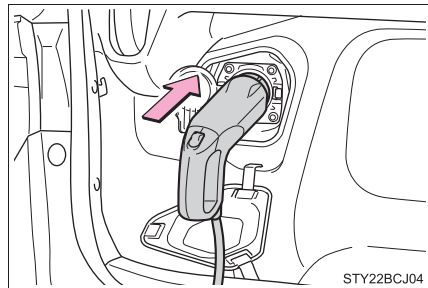
2 給電口のキャップを開ける



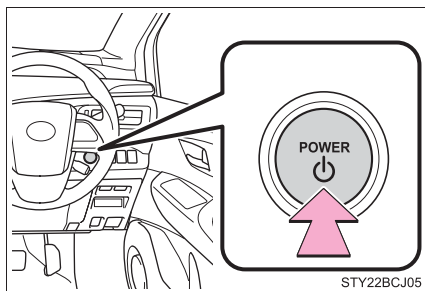
3 外部給電器の手順に従い、給電コネクタを給電口に挿し込む

外部給電器は車の外に設置してください。

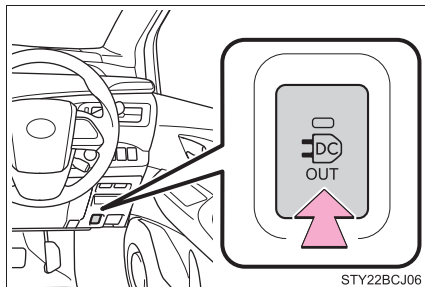
外部給電器の設置・使用方法是、外部給電器の取扱説明書に従ってください。



- 4 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを 2 回押して ON モードにする



- 5 DC OUT スイッチを押す
スイッチ上のインジケータが点灯します。

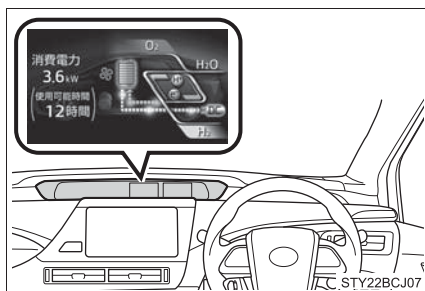


- 6 外部給電器の手順に従い、外部給電器の給電操作をする

外部給電器によっては、パワースイッチが OFF になり、給電が停止する場合があります。そのときは、再度[4]から実施してください。

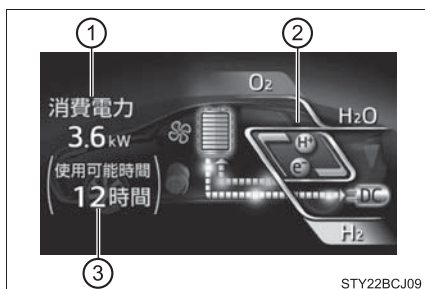
- 7 マルチインフォメーションディスプレイに給電状態が表示されます

給電開始まで数秒かかります。
外部給電器に接続した電気製品を操作して、使用してください。



給電状態表示

- ① 給電口のおおよその消費電力
- ② 外部電源供給システムの状態
点滅：給電準備中／給電終了中
点灯：給電可能
流れているとき：給電中※
- ③ 現在の消費電力で給電可能なおおよその時間



※ 消費電力が小さいときは、表示されない場合があります。

給電を停止する

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

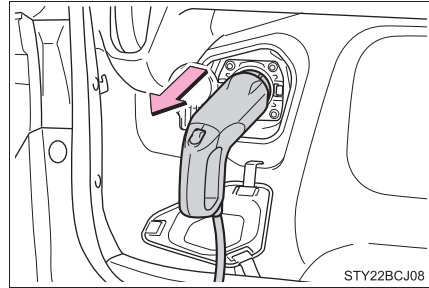
2 外部給電器の手順に従い、外部給電器を停止する

DC OUT スイッチを押すか、パワースイッチを押しても給電を停止できます。

DC OUT スイッチ上のインジケータが消灯し、マルチインフォメーションディスプレイの給電状態表示が消えます。

給電状態表示が消える前にパワースイッチを操作すると、モードを切りかえることができますが、外部電源供給システムが停止すると同時にパワースイッチも OFF になります。

3 外部給電器の手順に従い、給電コネクタを取りはずす



4 給電口のキャップとカバーを閉めて、トランクを閉める

給電口のキャップが開いていると、FC システムを始動 (→ P. 170) できない場合があります。

車両の状態によっては、次回の FC システム始動に時間がかかることがあります。異常ではありません。

続けて給電できない場合は、FC システムをいったん再始動して停止したあとに給電開始操作を実施してください。

知識

■ 使用条件について

- 外部電源供給システムの車両側定格出力は DC9kW です。ただし、外部給電器の出力上限以上は出力されません。
- 走行中は使用できません。また、道路での停車中は使用できません。
- プリウス PHV のヴィークルパワーコネクタは接続できません。

■給電中は

- ワイヤレスリモコンでドアの施錠・解錠ができます。ただし、トランクは施錠できません。また、オートアラームも作動しません。(→ P. 65)
- ランプ消し忘れ防止機能・節電機能が作動します。(→ P. 187)
- 足元照明・シフト照明は消灯します。(→ P. 299)
- 外部電源供給システムの給電中は、車内の AC100V アクセサリーコンセント・おくだけ充電（ワイヤレス充電器）は使用できません。
- 炎天下などで車内が高温になると、駆動用電池を冷却するために自動的にエアコンが作動します。エアコン作動中はドアとドアガラスを閉めると、効率的に車内を冷却することができます。
このとき、エアコン画面に「電池冷却のため空調一定制御中」が表示され、エアコン操作スイッチの操作を受け付けなくなります。
駆動用電池が冷却された後もエアコンは自動的に停止しません。メッセージ表示が消えたあとにエアコン操作スイッチを操作すれば、エアコンを停止することができます。
- 気温が低いときまたは高いときは、出力を制限して停止することがありますが、異常ではありません。
使用する電気製品を減らしてください。
- 燃料残量が少ないときは給電を停止します。
- 給電中は作動音がします。(→ P. 72)
- 給電中に排気排水管から水が出るがありますが、異常ではありません。
- 給電中は H₂O スイッチを押しても、ウォーターリリース (→ P. 171) はできません。

■安全機能について

- 車両の給電口に給電コネクタが接続されているときは、パワースイッチを操作しても READY インジケータは点灯しません。
- READY インジケータが点灯しているときに車両の給電口に給電コネクタを接続すると、FC システムは自動的に停止し、走行できなくなります。
- 車両の給電口に給電コネクタが接続されているときは、P から他のシフトポジションに切りかえることはできません。

■ 給電中の表示について

給電中にマルチインフォメーションディスプレイに表示される情報は目安です。消費電力や使用可能時間は、外気温やシステムの温度、接続している電気製品の使用状況などにより大きく変化します。

■ 外部給電器・電気製品について

- 接続する外部給電器や電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- 使用中に瞬間的に大きな電流が流れる電気製品を使用した場合など、車両または外部給電器の保護機能が働き、電気製品が正常に起動しない場合があります。
正常に起動しない可能性がある電気製品：
ブラウン管式テレビ・コンプレッサー式冷蔵庫・電気ポンプ・電動工具・IH調理器・電子レンジなど
- 低温時は、外部給電器を一回で起動できない場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは

- 「この外部給電器は使用できません」が表示されたとき
使用できない外部給電器が接続されています。所定の外部給電器に交換してください。
- 「水素残量が低下した為、停止しました 水素を充填後、給電開始してください」が表示されたとき
燃料の残量が少なくなると、外部電源供給システムは自動的に停止します。燃料を充てんしてください。
- 「使用電力が許容を超えています 接続機器を減らし、初めから給電開始してください」が表示されたとき
車両の出力を超過する電気製品が使用されています。使用する電気製品を減らして、給電操作をやり直してください。
低温時または高温時に給電すると車両側の出力が制限されるため、表示されることがあります。
暖機または冷却してから時間をおいて再度給電してください。
- 「異常により外部給電を停止しました」が表示されたとき
外部給電器または車両に異常があります。外部給電器の表示に従い必要な処置を行うかトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 寒冷地で使用するとき

外気温が－15℃以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間外部電源供給システムが使用できないことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■ 正常に給電できないときは

→ P. 428

 警告**■ 給電するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、給電時に車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給電口の端子を手や異物（針金や針など）でふれない
- 給電口に破損箇所や異物がないか確認する
- 車をカーカバーで覆って使用しない
- 車庫内や雪が積もった場所など換気の悪い場所では絶対に使用しない
- 雨や雪の中で給電を行うときは、トランクの中に水が入らないようにする屋根のある場所などで使用してください。
- 給電口に、水や雪または氷が付着していないか確認する
付着している場合は、給電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 落雷の可能性のある天候のときは給電を行わない
給電中、雷に気付いたときは、給電を停止してください。
- 車両が傾いた状態または坂道に止めて給電しない
- 外部給電器を接続したまま、洗車しない
- 給電する前に、接続した電気製品の電源が OFF になっていることを確認する
電源が ON になっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。
- 車両に外部給電器の給電コネクタが接続されているときは、シフトレバーを操作しない
万一、車両または外部給電器が故障していた場合、シフトポジションが P から他に切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 外部電源供給システムを使用するときは、ボンネットを閉める
冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 可燃物や危険物を車両の近くに置かない

■ 給電口について

給電口の改造や分解、修理などは絶対にしないでください。思わぬ故障や事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあります。

修理については、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 給電を行うときは本書および接続する外部給電器や使用する電気製品に付属の取扱説明書に記載されている注意事項を必ずお守りください。
記載されている禁止事項を守らずに給電を行うと思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 外部給電器のコンセントは照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- 給電口と給電コネクタのあいだに延長ケーブルやアダプタを接続しないでください。
- 必ず所定の外部給電器（→ P. 88）を接続してください。対応していない外部給電器を使用すると車両火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■給電に関する影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を使用している方は、次のことを必ずお守りください。

給電が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

- 給電中は車内にとどまらない
- 給電中は車両・外部給電器・ケーブルから十分に距離をあげ近付かない

 注意**■ 外部電源供給システムの故障を防ぐために**

- 給電口のキャップに強い衝撃を与えないでください。
- ケーブルを損傷するおそれがあるので、使用中はトランクでケーブルを挟まないでください。
- 給電コネクタを給電口に抜き挿しするときは、過度の負荷をかけないでください。挿し込み不足の原因になります。
- 給電中に、給電コネクタ・ケーブルに物をのせたり、引っかけたりしないでください。
- 給電中に、給電コネクタ・ケーブルを引っ張ったり、過度の負荷をかけないでください。
- 給電中に、給電コネクタ・ケーブルに異常な発熱を感じたらすぐに使用を中止してください。
- 給電を停止するときは、使用している電気製品の電源を切ってから停止してください。
- 外部給電器によっては、給電と充電の切りかえができるものもあります。この車両には充電しないでください。
- 充電ステーション（公共および家庭に設置された充電設備）に接続して、この車両の駆動用電池を充電しないでください。

■ 給電口について

- シールなどを貼り付けない
- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしない

■ 給電後の注意

給電口から給電コネクタを取りはずしたあとは、必ず給電口のキャップとカバーを閉める

給電口を開けたまま放置すると、給電口に水や異物が入り、故障につながるおそれがあります。

給電口のキャップとカバーはロックされません。不意に押されて開くことがありますので、注意してください。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

給電が開始されていないときに DC OUT スイッチ上のインジケーターが点灯したままで長時間放置しないでください。

■ 電気製品の使用について

トースターなどの熱気を出す電気製品を、車内のトリムの近くやシートの上などで使用しないでください。熱により溶損したり、焼損するおそれがあります。

メーターの見方

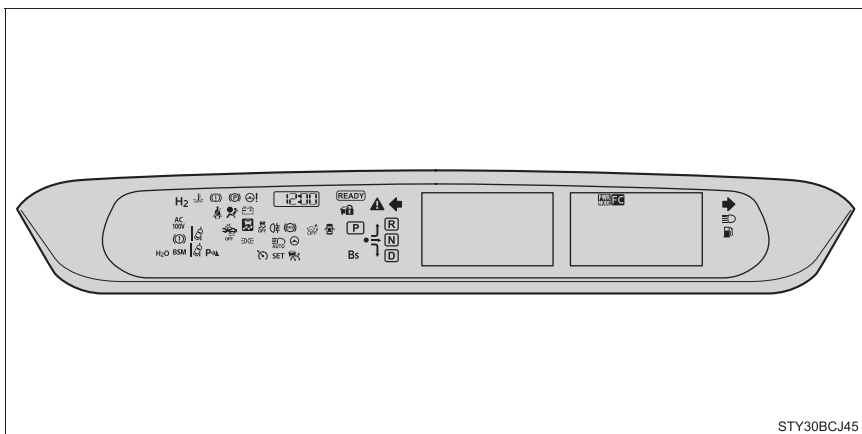
3

3. 計器の見方

警告灯／表示灯	98
計器類	102
マルチインフォメーション ディスプレイ	107

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯

システム異常などを警告します。



H₂ 警告灯 (→ P. 400)



スリップ表示灯
(→ P. 401)



ブレーキ警告灯
(→ P. 400)



パーキングブレーキ警告灯
(→ P. 401)



充電警告灯 (→ P. 400)



半ドア警告灯 (→ P. 402)



高水温警告灯 (→ P. 400)



燃料残量警告灯
(→ P. 402)



電子制御ブレーキ警告灯
(→ P. 400)



シートベルト非着用警告灯
(→ P. 402)



SRS エアバッグ／プリテン
ショナー警告灯
(→ P. 400)



LDA 表示灯
(→ P. 400)



ABS & ブレーキアシスト警
告灯 (→ P. 401)



マスターウォーニング
(→ P. 402)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 401)



ブレーキオーバーライドシ
ステム／ドライブスタート
コントロール／PKSB 警告
灯 (→ P. 402)



PCS 警告灯 (→ P. 401)



出力制限表示灯
(→ P. 102)



PKSB OFF 表示灯
(→ P. 400)



出力制限表示灯
(→ P. 102, 406)

(点滅
または
点灯)

(黄色)

- ※¹ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後または FC システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※² 点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。
- ※³ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- ※⁴ メインディスプレイに表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 183)



クルーズコントロール
表示灯 (→ P. 234)



尾灯表示灯 (→ P. 186)



LDA 表示灯 (→ P. 219)



ハイビーム表示灯
(→ P. 186)



ステアリング制御表示灯
(→ P. 219)



オートマチックハイビーム
表示灯 (→ P. 189)



PKSB OFF 表示灯
(→ P. 265)



リヤフォグランプ表示灯★
(→ P. 194)



クリアランスソナー表示灯
(→ P. 256)



READY インジケター
(→ P. 170)



スリップ表示灯
(→ P. 276)



レーダークルーズコント
ロール表示灯 (→ P. 234)



VSC OFF 表示灯
(→ P. 277)



クルーズコントロールセッ
ト表示灯 (→ P. 234)



PCS 警告灯 (→ P. 211)

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。



BSM 表示灯 (→ P. 250)

POWER MODE 表示灯
(→ P. 179)※5. 6 BSM ドアミラー
インジケーター
(→ P. 249)Bs モード表示灯
(→ P. 179)セキュリティ表示灯
(→ P. 63, 64)AC 100V 表示灯
(→ P. 316)シフトポジション表示灯
(→ P. 177)H₂O 表示灯 (→ P. 171)※7 ECO MODE 表示灯
(→ P. 179)

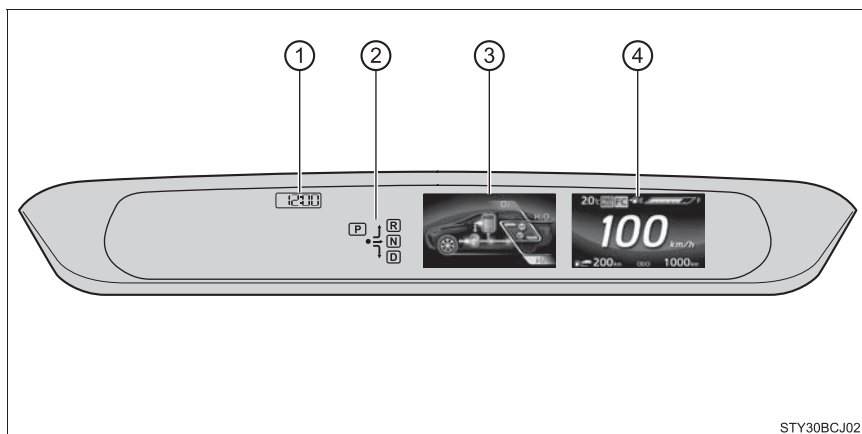
- ※1 システムの作動状態により、表示色と点灯の状態が変化します。
- ※2 システムが OFF のときに点灯します。
- ※3 点滅した場合はシステムが作動していることを示しています。
- ※4 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後または FC システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※5 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。
- ・ BSM の設定が ON の状態で、パワースイッチを ON モードにしたとき
 - ・ パワースイッチが ON モードで、BSM の設定を ON にしたときシステムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※6 ドアミラーに表示されます。
- ※7 メインディスプレイに表示されます。

⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯が、FC システムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



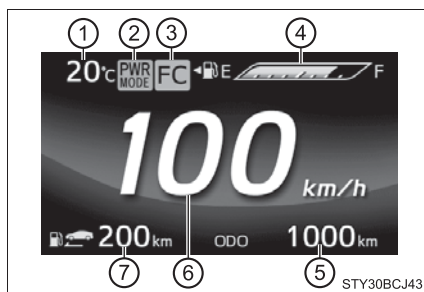
STY30BCJ02

- ① 時計表示
→ P. 311
- ② シフトポジション表示灯
選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 177)
- ③ マルチインフォメーションディスプレイ
走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 107)
- ④ メインディスプレイ
スピードメーターや燃料計などを表示します。

メインディスプレイの表示

- ① 外気温表示
外気温を表示します。外気温が約3℃以下のときは、外気温表示が点滅します。
- ② ECO MODE 表示灯／ POWER MODE 表示灯
選択している走行モードを表示します。(→ P. 179)
- ③ 出力制限表示灯

青色：冷却水温が低いために FC システムの出力が制限されます。
 橙色：冷却水温が高いために FC システムの出力が制限されます。



STY30BCJ43

④ 燃料計

燃料残量を示します。

⑤ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：

走行した総距離を表示します。

トリップメーター：

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

始動後走行距離：

FC システムを始動してからの走行距離を表示します。

ブランク：

表示を消します。

⑥ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

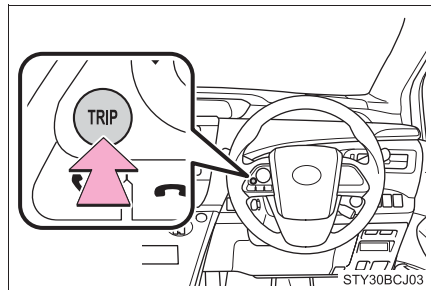
⑦ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- ・ 燃料充てん量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

オドメーター／トリップメーター表示の切りかえ

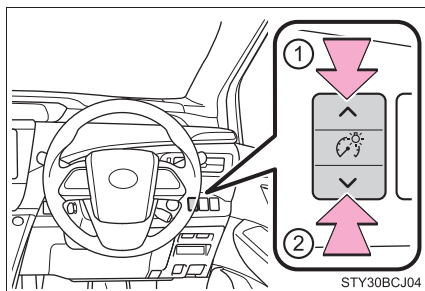
ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



インストルメントパネル照度調整

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

- ① 明るくする
- ② 暗くする

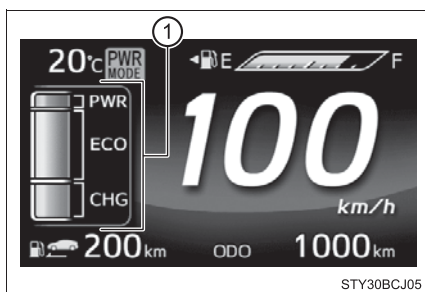


メインディスプレイの分割表示

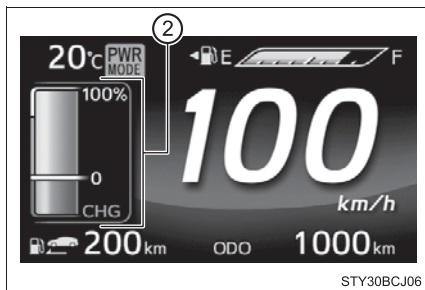
メインディスプレイを分割表示するには、RSA 機能を OFF にします。
(→ P. 232)

項目を切りかえるには、分割表示中に、メーター操作スイッチ(→ P. 108)の **◀** または **▶** を押してメインディスプレイの **i** を選択し、**▲** または **▼** を押します。

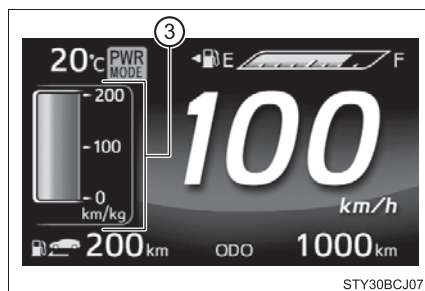
- ① FC システムインジケーター



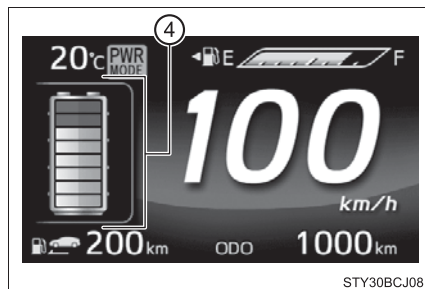
- ② パワーメーター



③ 瞬間燃費



④ 駆動用電池の残量


 知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■インストルメントパネル照度の減光制御について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

■外気温度表示について

- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車している時や、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- “-” または “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 456）

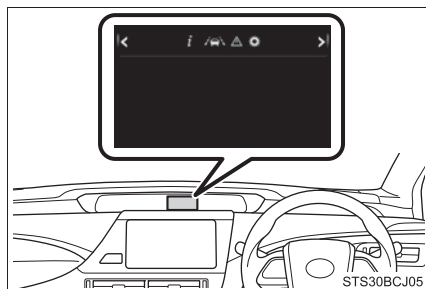
 注意**■ FC システムや構成部品への損傷を防ぐために**

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 400）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、FC システムを確認してください。（→ P. 439）

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

アイコンを選択して各項目を表示させます。(→ P. 108)
項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。



走行支援システム表示

各走行支援システム使用時に表示されます。

- ・レーダークルーズコントロール (→ P. 234)
- ・LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) (→ P. 219)



警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→ P. 405)



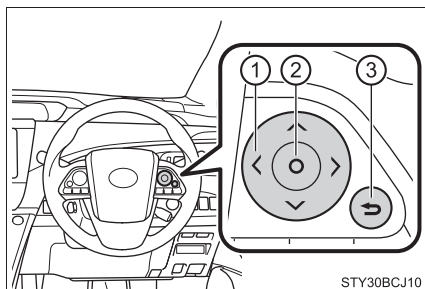
設定

各装備を使用するときにスイッチを切り替えたり、メーター表示の設定を変更することができます。(→ P. 114)

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① 選択／ページ送り
- ② 決定／設定
- ③ ひとつ前の画面にもどる

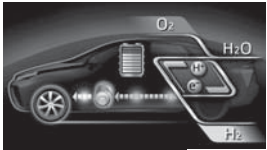
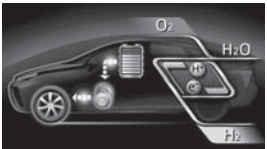
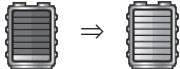


ドライブインフォメーション

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチ（→ P. 108）の **◀** または **▶** を押してマルチインフォメーションディスプレイの **i** 「ドライブインフォメーション」を選択し、**▲** または **▼** を押します。

■ エネルギーモニター

FC システムの状態を表示します。

FC スタックの電気で走行しているとき	 STY30BCJ11
駆動用電池の電気で走行しているとき	 STY30BCJ12
FC スタックと駆動用電池の電気で走行しているとき	 STY30BCJ13
駆動用電池に充電しているとき	 STY30BCJ14
電気の流れがないとき	 STY30BCJ15
駆動用電池の残量表示	少ない ⇒ 多い 

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ FC システムインジケーター／エコジャッジ

FC システムの出力や回生レベルの表示と、エコ運転を判定して表示します。

① チャージエリア

回生機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

③ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

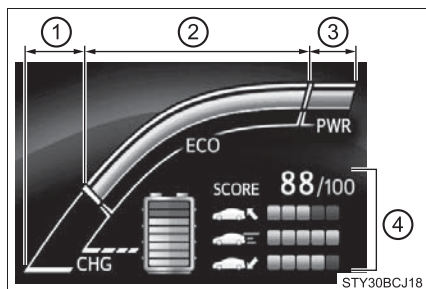
④ エコジャッジ

運転の状況を、エコ発進・安定走行・エコ停止の3パターンに分け、5段階で表示します。また、車両が停止するたびに点数を表示します。（発進するごとにリセットされ、積算は行いません。）

- インジケーターの表示をエコエリアまたはチャージエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

- チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

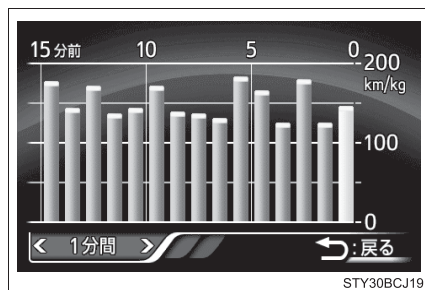


■ 燃費履歴

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチ（→ P. 108）の⊙を押してタブを選択し、＜または＞を押します。

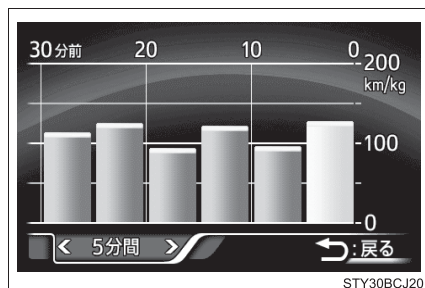
▶ 1 分間燃費

過去 15 分間の 1 分ごとの燃費
(平均燃費)



▶ 5 分間燃費

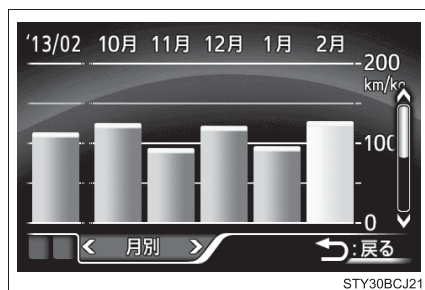
過去 30 分間の 5 分ごとの燃費
(平均燃費)



▶ 月別燃費

過去 6ヶ月間の平均燃費

メーター操作スイッチの^または
▼を押して、表示させる縦軸の目
盛を変更できます。



もどるときは、メーター操作スイッチ（→ P. 108）の↩を押します。

■ ドライブモニター

① 走行時間

FC システム始動後 ※¹、またはリセット後 ※² の走行時間を表示します。

② 平均车速

FC システム始動後 ※¹、またはリセット後 ※² の平均车速を表示します。

③ 平均燃費

FC システム始動後 ※¹、またはリセット後 ※² の平均燃費を表示します。

※¹ メインディスプレイのオドメーター／トリップメーターに、オドメーターか始動後走行距離がブランクが表示されている場合

※² メインディスプレイのオドメーター／トリップメーターに、トリップメーター A かトリップメーター B が表示されている場合



■ エコダイアリー

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチ（→ P. 108）の⊙を押してタブを選択し、＜または＞を押します。

▶ 日別履歴

メーター操作スイッチの△または▽を押して、表示させる日を上下できます。

日付	距離 km	平均燃費 km/kg
1/31	32.2	106.5
1/30	13.5	109.2
1/29	29.8	102.3
1/28	13.5	109.8

< 日別 > 戻る

STY30BCJ23

▶ 月別履歴

メーター操作スイッチの $\wedge$ または $\vee$ を押して、表示させる月を上下できます。

日付	距離 km	平均燃費 km/kg
'14/ 1月	1046.3	108.6
'13/12月	866.3	106.6
'13/11月	1246.5	102.6
'13/10月	966.4	100.2

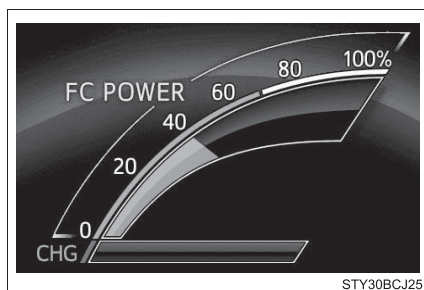
< 月別 >
戻る

STY30BCJ24

もどるときは、メーター操作スイッチ (→ P. 108) の $\rightarrow$ を押します。

■ パワーメータ

FC システムの出力や回生レベルを表示します。



STY30BCJ25

設定画面

各装備の機能の ON / OFF や設定変更などができます。

変更可能な項目では、を押すたびに ON / OFF が切りかわります。

● 時計 (→ P. 311)

時計の設定を変更できます。

- ・  正時合わせ
- ・  時刻調整

● LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) (→ P. 219)

LDA の設定を変更できます。

- ・  操舵支援の ON/OFF
- ・  車線逸脱警報感度
- ・  ふらつき検知の ON/OFF
- ・  ふらつき検知感度

● PCS (プリクラッシュセーフティ) (→ P. 208)

PCS の設定を変更できます。

- ・  PCS 機能の ON / OFF
- ・  衝突警報感度

● BSM (ブラインドスポットモニター) (→ P. 249)

BSM 機能の ON / OFF を変更できます。

● RSA (ロードサインアシスト) (→ P. 230)

RSA 機能の ON / OFF を変更できます。

● パーキングサポートブレーキ (→ P. 263)

パーキングサポートブレーキの ON / OFF を変更できます。

● クリアランスソナー (→ P. 255)

クリアランスソナーの設定を変更できます。

- ・  クリアランスソナーの ON / OFF
- ・  クリアランスソナーの音量

● 先行車発進告知機能 (→ P. 246)

先行車発進告知機能の設定を変更できます。

- ・  先行車発進告知機能の ON / OFF
- ・  先行車発進告知距離

● アクセサリーコンセント

 アクセサリーコンセントの ON / OFF を変更できます。

● メーターカスタマイズ (→ P. 456)

次の項目を設定することができます。

- ・ RSA 告知手段
RSA 機能の告知手段を変更することができます。
- ・ RSA 告知レベル
RSA 機能の告知レベルを変更することができます。
- ・ イオンフィルター
イオンフィルターのリセットができます。
- ・ 言語
マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を選択することができます。
- ・ 割込み表示
割込み表示の設定を変更することができます。
- ・ 初期化
メーターカスタマイズの設定を初期化することができます。
- ・ 月別燃費
月別燃費をリセットできます。
- ・ エコダイアリー (月別)
エコダイアリー (月別) をリセットできます。
- ・ エコダイアリー (日別)
エコダイアリー (日別) をリセットできます。
- ・ カレンダー
カレンダー日付を変更することができます。
- ・ 画面非表示
画面を OFF にすることができます。

 知識

■ 設定項目について

-  「メーターカスタマイズ」設定項目は、走行中は選択不可になり、操作できません。また、次の場合は設定画面が一時中断されます。
 - ・ 警告メッセージが表示されたとき
 - ・ 走行し始めたとき
- 車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。
- 設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 1 分間燃費
- 5 分間燃費
- 走行時間
- 平均車速
- 平均燃費

■ 液晶ディスプレイについて

→ P. 105

 注意

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に FC システムが作動している状態で実施してください。

各部の操作**4**

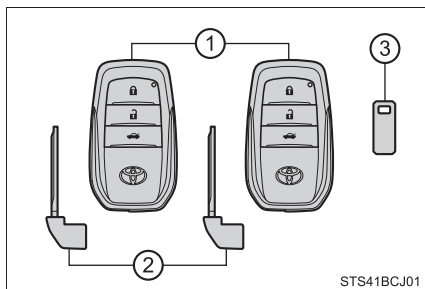
4-1. キー	
キー	118
4-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	121
トランク	127
スマートエントリー& スタートシステム	131
4-3. シートの調整	
フロントシート	137
マイコンプリセット ドライビングポジション システム	139
ヘッドレスト	144
4-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	147
インナーミラー	149
ドアミラー	151
4-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	155

キー

キーについて

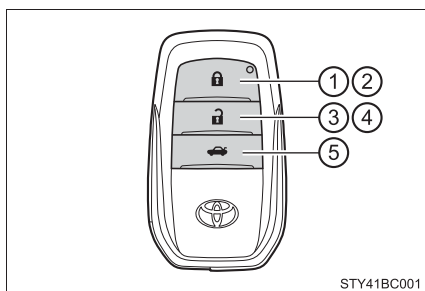
お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① 電子キー
 - ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 131)
 - ・ワイヤレス機能の作動
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

- ① ドアの施錠 (→ P. 121)
 - ② ドアガラスを閉める ※
 - ③ ドアの解錠 (→ P. 121)
 - ④ ドアガラスを開く ※
 - ⑤ トランクを開ける (→ P. 127)
- ※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。(→ P. 453)

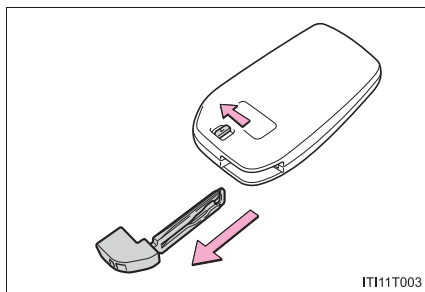


メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きを変えて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→ P. 430)



 知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチを OFF にして、グローブボックスを施錠します。(→ P. 303) メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所(財布の中など)に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、FC システムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→ P. 404)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→ P. 376

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

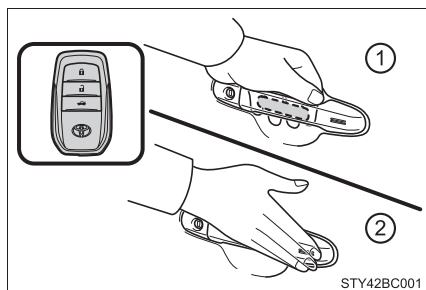
① ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



STY42BC001

◆ ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する

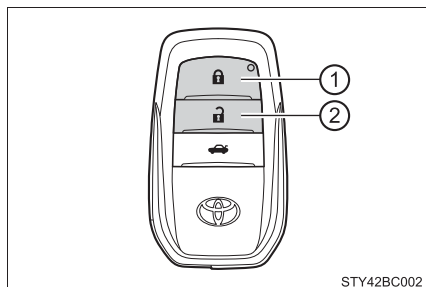
必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。[※]

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。[※]

[※] カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 453）



STY42BC002

 知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラス：ブザーで知らせます。

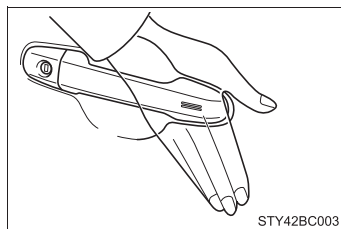
■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。

ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ オートアラームについて

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 64）

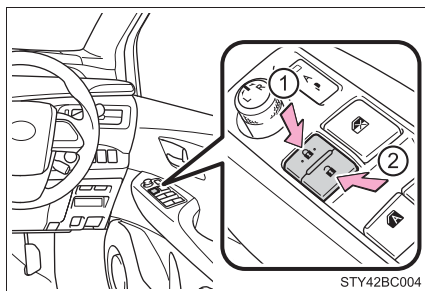
■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 430）
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 376）

車内からの解錠／施錠

◆ ドアロックスイッチ

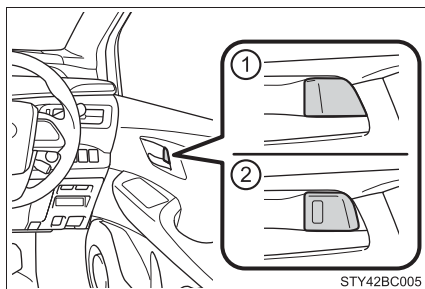
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席ドアを施錠するとき

- ① ロックレバーを施錠側にする
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉める
パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

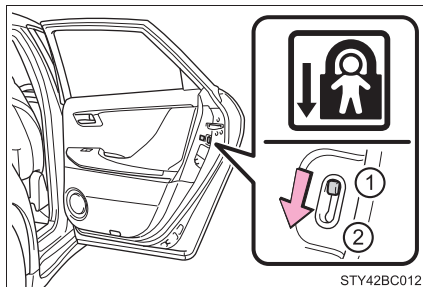
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



STY42BC012

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、トヨタ販売店へお問い合わせください。

機能	作動内容
車速感应オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	システムが作動中にシフトポジションをP以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションをPにしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■ 解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 オートアラームの侵入センサーを停止する
(操作中のオートアラーム誤作動防止：→ P. 66)
- 3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順③を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ” (3 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	
	フロント席のいずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (2 回) 車内：“ポーン” (1 回)

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます)

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→ P. 64)

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 430)

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはトランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。

開いているドアまたはトランクがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 133

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 452)

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず着用する

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する

- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するとき

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

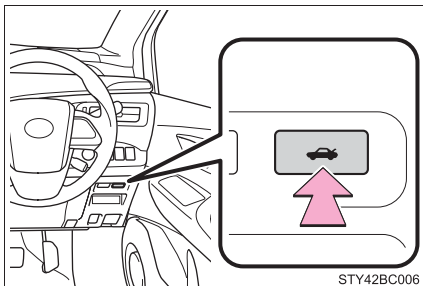
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

車内からトランクを開ける

トランクオープナースイッチを押す

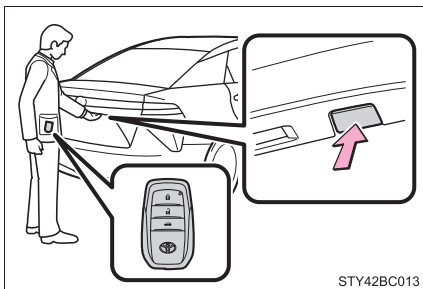


車外からトランクを開ける

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

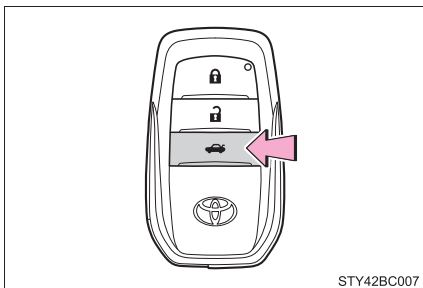
車内のロックレバー以外ですべてのドアが解錠されているときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。



◆ ワイヤレスリモコン

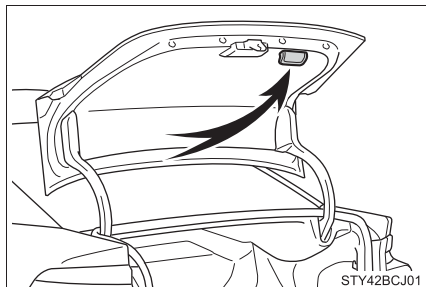
スイッチを押し続ける

ブザーが鳴ります。



トランクを開めるとき

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



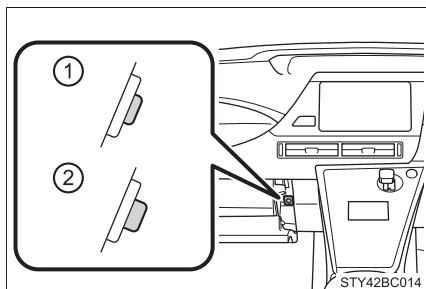
トランクオープナーを一時的に無効にする

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

- ① ON
- ② OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー&スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。



知識

■ トランクランプ

トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が動き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いて、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は動きません。
この場合は、車内のトランクオープナースイッチでトランクを開けてください。

■ メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。(→ P. 430)

■ トランク開警告ブザー

トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/hをこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。

■ スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。(→ P. 430)

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 376)

■ 駐車場などでキーを預けるときは

→ P. 119

■ カスタマイズ機能

トランク解錠操作の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧: → P. 453)

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

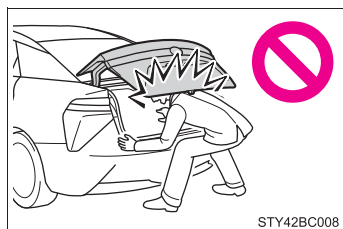
警告**■ トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。

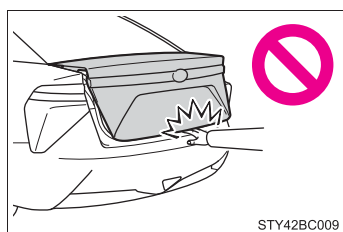
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステム

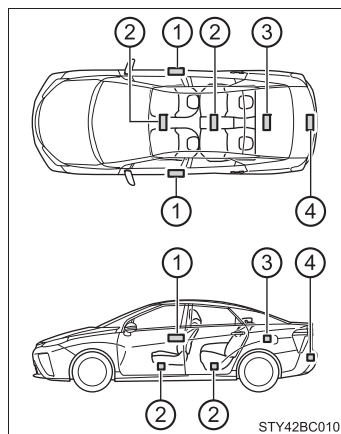
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する (→ P. 121)
- トランクを開ける (→ P. 127)
- FC システムを始動する (→ P. 170)

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車室内アンテナ
- ③ トランク内アンテナ
- ④ トランク外アンテナ



4

各部の操作

■ 作動範囲 (電子キーの検知エリア)

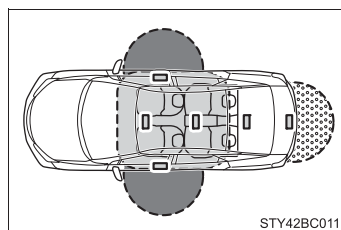
- : ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

- : トランクの解錠時

トランクのスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

- : FC システム始動時またはパワースイッチ切りかえ時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→ P. 404)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリモードにした（パワースイッチがアクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

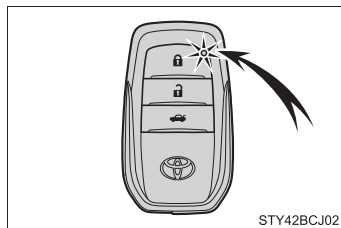
- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 430)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ トランクを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
 - ・ FC システム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット・オープントレイ、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、FC システムの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）
- 車両に近い位置に電子キーがあるときに解錠操作後のセキュリティ機能の作動（→ P. 122）やワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー & スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）
- 手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（電子キーの盗難に注意してください）
- 車内に電子キーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 手袋を着用してドアハンドルを握った場合、施錠が遅れたり、解除されないことがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサー部にふれてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→ P. 453)

■ システムを正しく作動させるために

- 電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 132, 404)
- トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所(タイヤパンク応急修理キット付近、トランク内側の端)、状況(金属製のかばんの中、金属製のものの付近など)、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。(→ P. 128)

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 430
- FC システムの始動：→ P. 431

■ 解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。
(カスタマイズ一覧→ P. 453)

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 453)

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 121, 430)
- FC システムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 431
- FC システムの停止：→ P. 171

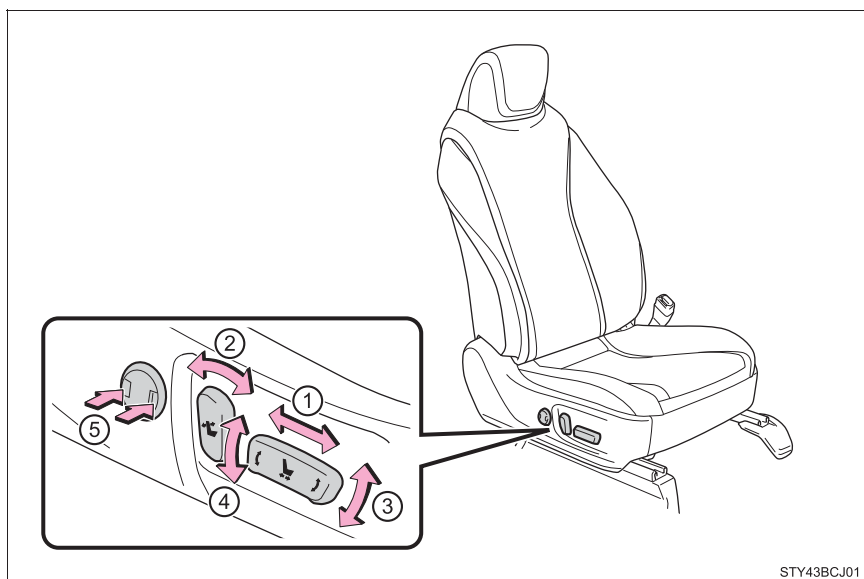
⚠ 警告**■ 電波がおよぼす影響について(スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→ P. 131)から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた



- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ クッション前端の上下調整
- ④ シート全体の上下調整
- ⑤ 腰部硬さ調整

知識

■ パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切り替え・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。(→ P. 139)

■ シートを調整するとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

 警告**■ シートを調整するとき**

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

マイコンプリセットドライビングポジションシステム

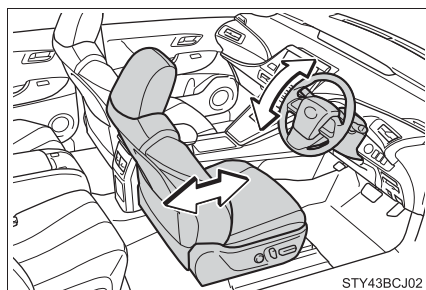
自動でシート・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- ・ パワースイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- ・ パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにする
- ・ シートベルトを着用する

知識

■ パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■ カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
(カスタマイズ一覧→ P. 453)

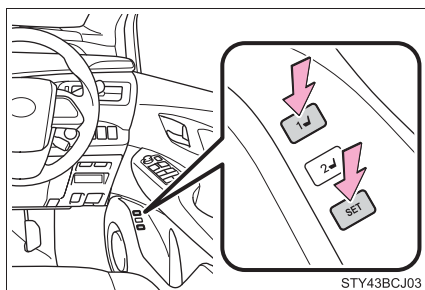
ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは2パターンまで登録できます。

■ 登録方法

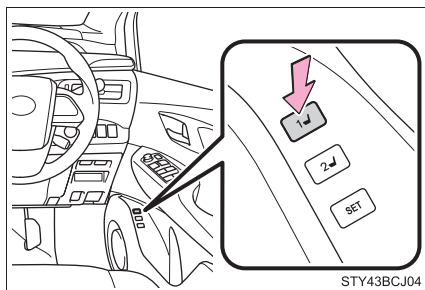
- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 シフトポジションが P にあることを確認する
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する
- 4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと3秒以内に、1 または 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



■ 呼び出し方法

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 シフトポジションが P にあることを確認する
- 3 1 または 2 のうち呼び出した
いポジションのボタンをブ
ザーが鳴るまで押す



 知識■ **ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき**

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 または 2 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■ **登録できるシート位置（→ P. 137）**

次の運転席位置が登録できます。

- 前後位置調整
- リクライニング調整
- シート全体の上下調整
- クッション前端の上下調整

■ **パワースイッチ OFF 後の作動**

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め、60 秒以内に呼び出したポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ **ポジションメモリーを正しくお使いいただくために**

登録位置が各シート調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションに電子キーを登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

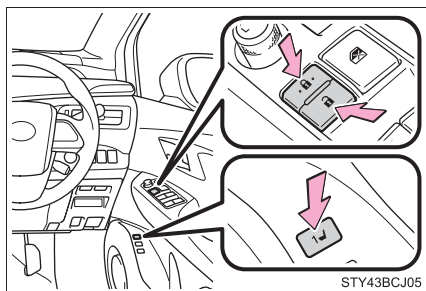
お好みのドライビングポジションをあらかじめ1または2のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 シフトポジションが P にあることを確認する
- 3 登録させたいドライビングポジション（1または2）を呼び出す
- 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

- 1 ドライビングポジションに登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

- 2 パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが2つ以上あると、正確に解除できません。

- 1 パワースイッチを ON モードにする
 - 2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す
- 解除できなかった場合は、ブザーが約3秒間鳴り続けます。

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧→P. 453)

警告

■ シートを調整するとき

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

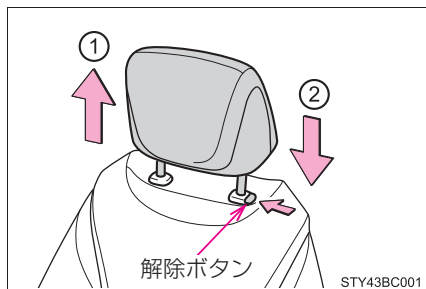
フロント席

◆ 上下調整

① 上げる

② 下げる

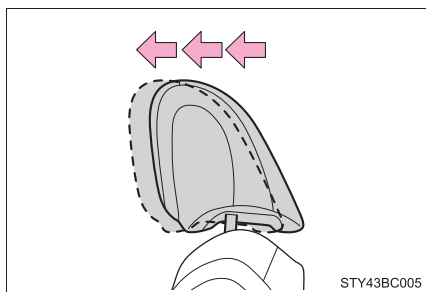
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



◆ 前後調整

ヘッドレストの前後位置を、4段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。

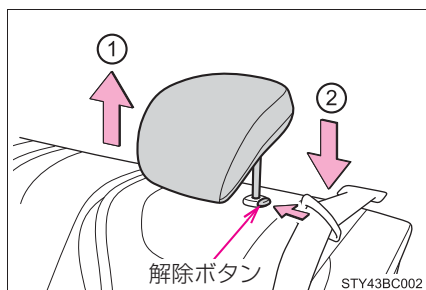


リヤ席

① 上げる

② 下げる

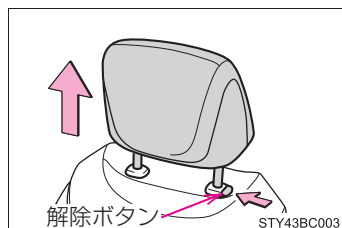
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

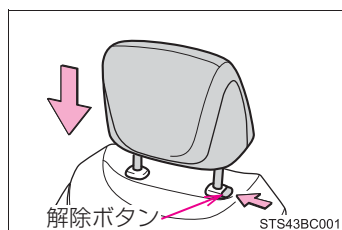
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。(→ P. 137)



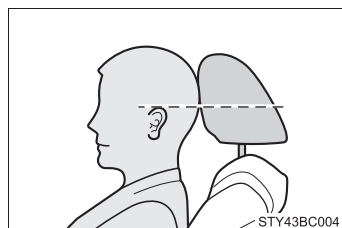
■ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席について

使用するとき、常に格納位置から上げた位置にしてください。

 警告**■ ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

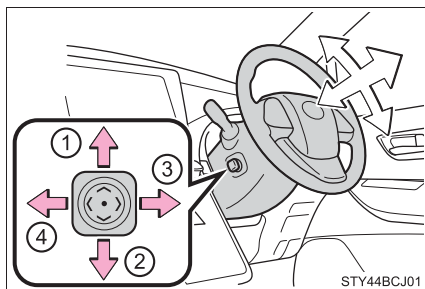
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

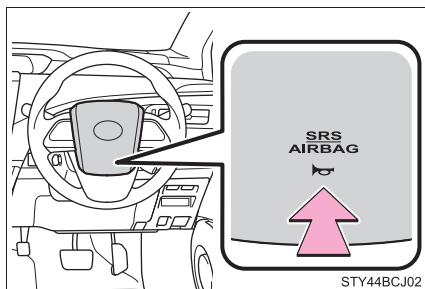
スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

- ① 上方へ
- ② 下方へ
- ③ 手前へ
- ④ 前方へ



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります。



知識

■ ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 140)

■ パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→ P. 139)

■補機バッテリーを再接続したときは

ハンドルの位置が自動で調整されないことがあります。初期設定として、パワースイッチを ON モードにしてから OFF にして、もう一度 ON モードにしてください。

⚠ 警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

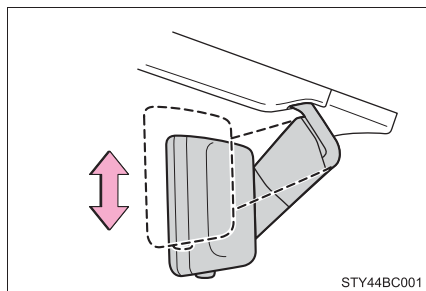
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

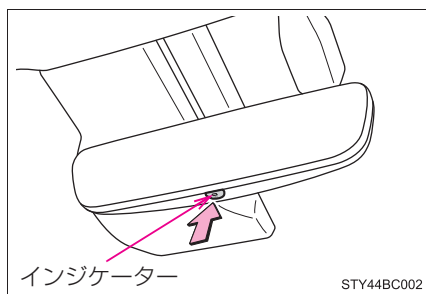
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON/OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。

パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

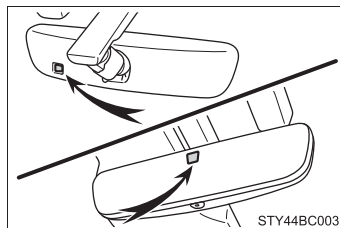
ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。



 知識

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

 警告

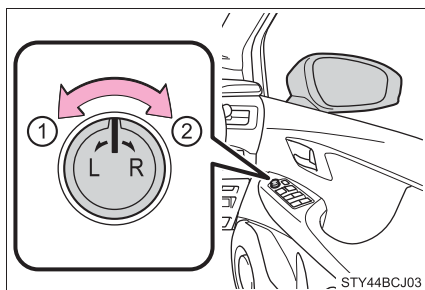
走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

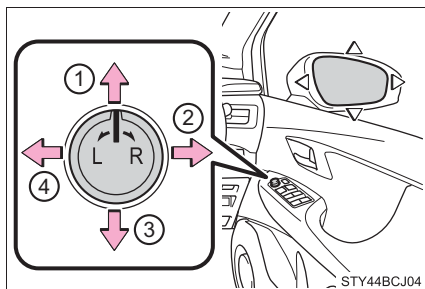
1 調整するミラーを選ぶ

- ① 左
- ② 右



2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

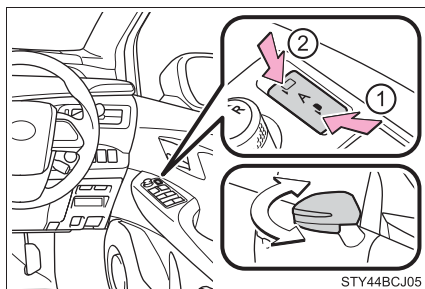
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する

- ① ミラーを格納する
- ② ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“A”）にするとオート電動格納に切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動して自動で格納・復帰します。



リバース連動機能について

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R ともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するとき

シフトポジションを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトポジションを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトポジションが R 以外するとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■ 鏡面調整の作動条件

パワースwitchがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

- 鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。
- 低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→ P. 351）を行ってください。

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 289）

■ ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 140）

■ 寒冷時にオート電動格納で使用するとき

寒冷時にオート電動格納で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 454)

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

 注意**■ レインクリアリングミラーの取り扱いについて**

親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

- シリコン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないように十分注意してください。
- 砂の付いた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

パワーウィンドウ

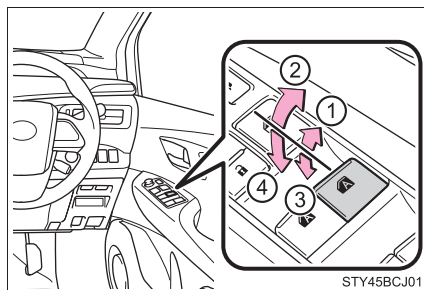
パワーウィンドウスイッチ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉 ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開 ※

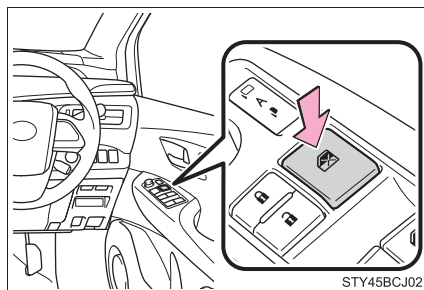
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ FC システム停止後の作動

パワースイッチを OFF またはアクセサリモードにしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊（→ P. 431）
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。＊（→ P. 121）

＊ トヨタ販売店での設定が必要です。（→ P. 453）

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→ P. 64）

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 453)

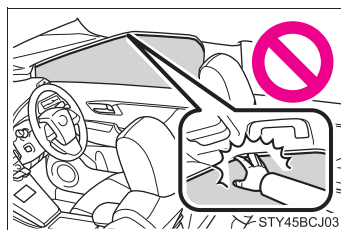
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 155)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 警告**■ 挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

運転

5

5-1. 運転にあたって

運転にあたって	160
荷物を積むときの注意	169

5-2. 運転のしかた

パワースイッチ	170
トランスミッション (動力伝達装置)	177
方向指示レバー	183
パーキングブレーキ	184

5-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	186
オートマチック ハイビーム	189
リヤフォグランプ スイッチ	194
ワイパー&ウォッシャー	195

5-4. 燃料充てんのしかた

燃料充てん口（補給口）の 開け方	198
---------------------------	-----

5-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	203
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	208
LDA（レーン ディパーチャーアラート [ステアリング 制御機能付き]）	219
RSA (ロードサインアシスト)	230
レーダークルーズ コントロール	234
先行車発進機能	246
BSM（ブラインド スポットモニター）	249
クリアランスソナー	255
パーキングサポート ブレーキ（静止物）	263
運転を補助する装置	275

5-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	281
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

FC システムを始動する

→ P. 170

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする
(→ P. 177)
シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認する。(→ P. 102)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 184)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み
発進する

停車する

- 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、P ポジションスイッチを押してシフトポジションを P に
します。(→ P. 178)

駐車する

- 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかける
- 3 P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする
(→ P. 178)
シフトポジション表示灯が Pであることをメーターで確認する。(→ P. 102)
- 4 パワースイッチを押して FC システムを停止する
- 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして、メーターの表示が消灯していることを確認する
- 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。
[※] 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトポジションを D にする
シフトポジション表示灯が Dであることをメーターで確認する。(→ P. 102)
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 275)

■ 燃費を良くする走り方

燃料電池車も急加速を抑えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→ P. 86)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったるので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ FC システム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、FC システム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、FC システム出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。
- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 276）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分（ボンネット）に取り付けることはできません。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃料電池車は電気モーターで走行するためエンジン音がありません。そのため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので十分注意して運転してください。
特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。
- 通常走行時は、走行中に FC システムを停止しないでください。走行中に FC システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 392 を参照してください。
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作による回生ブレーキは、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトポジションを変更するとき

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。
トランスミッション（動力伝達装置）にダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
トランスミッション（動力伝達装置）にダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッション（動力伝達装置）にダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、FC システムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ **停車するとき**

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてFCシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。

■ 仮眠するとき

必ずFCシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車が発進して事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 注意**■運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、FC システム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをP にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

 注意**■ 走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 412 を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- FC システムが停止する
- 電装品がショートする
- 水の浸入による FC システムの破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- FC システム
- ブレーキの効き具合
- トランスミッションフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御関連部品が損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。P から他のポジションに切りかえられない場合は、パーキングロックにより、前輪が固定されているため、他車にロープなどでけん引してもらうことはできません。その場合は、前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げて運搬してください。

■ P ポジションから切りかわらないとき

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーを確認してください。(→ P. 433)

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワースイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、FC システムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

FC システムの始動のしかた

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。
表示されないと、FC システムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されている時は、FC システムを始動できません。必ず P にしてから始動してください。(→ P. 177)

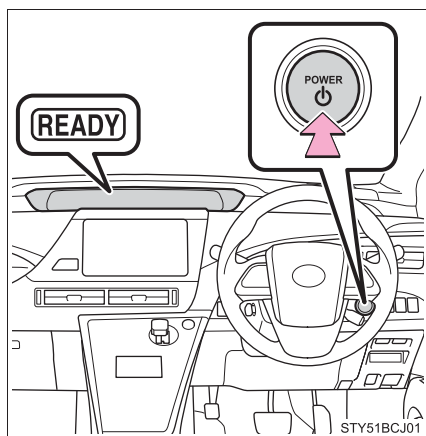
- 3 パワースイッチを短く確実に押す

READY インジケーターが点灯すれば、FC システムは正常に始動しています。

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでも FC システムを始動できます。
(→ P. 172)



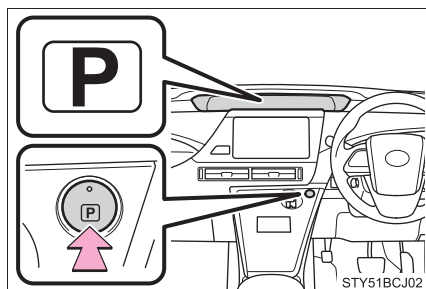
- 4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

FC システムの停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける (→ P. 184)
- 3 P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする (→ P. 178)

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認する。(→ P. 102)



- 4 パワースイッチを押す

FC システムが停止し、メーター表示が消えます。(シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています)
排水中は、メーターの H₂O 表示灯が点灯します。

- 5 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認する

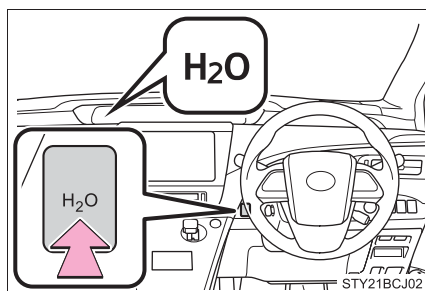
ウォーターリリース (H₂O スイッチ)

走行後、FC システムを停止すると排気排水管から自動的に排水されます。車庫や立体駐車場などで排水量を少なくしたい場合は、駐車する前に排水を行うことができます。

排水するには、READY インジケータが点灯している状態で、スイッチを押す。

メーターの H₂O 表示灯が点灯します。再度スイッチを押すと OFF になります。

スイッチ操作後に走行すると水が生成されます。



パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

① OFF

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

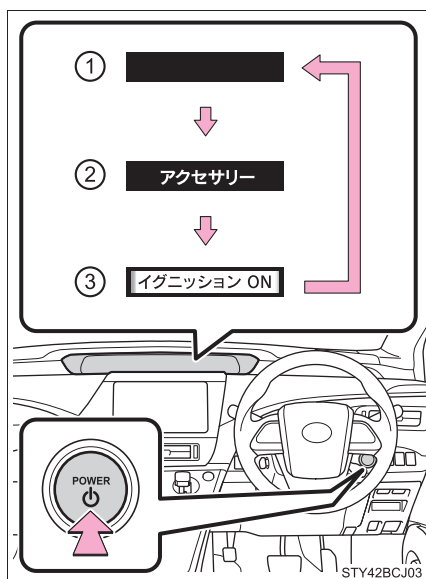
オーディオなどの電装品が使用できます。

メインディスプレイに「アクセサリ」が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

メインディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。



知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード (FC システムが作動していない状態) にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。FC システムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモード、または ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ 燃料電池車特有の音と振動について

→ P. 72

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 119

■ 寒冷時の FC システム始動について

- 寒冷時に、パワースイッチを押して FC システムを始動 (→ P. 170) すると、発電時の廃熱を利用して FC スタックが急速暖機されます。
- 寒冷時は、READYインジケーターが点灯するまでに時間がかかることがあります。
- 極寒冷時に、READY インジケーターが点灯するまでに 10 秒以上かかるときは、マルチインフォメーションディスプレイに FC システム始動進捗状況を表示します。



- 寒冷時に FC システムを始動する際、マルチインフォメーションディスプレイに「凍結によりシステム停止 安全な場所に停車して販売店に連絡」が表示される場合があります。
FC システムが凍結し、始動できない状態となっています。トヨタ販売店に連絡してください。
- FC システムの暖機が完了するまでは、一時的に出力が低下します。
- 寒冷時では、FC システムの暖機のために作動音が大きくなりますが異常ではありません。状況によっては READY インジケーター点灯後も作動音が一定時間続くことがあります。(→ P. 72)

■ 寒冷時の FC システム停止について

- 寒冷時に、パワースイッチを押して FC システムを停止 (→ P. 171) したときは、FC スタックの凍結を防止するために排気排水管から通常より長い時間排水されることがあります。
- FC システムの暖機が完了する前に停止した場合は、さらに長い時間排水されることがあります。
- 排水中は作動音がします。(→ P. 72)
- 排水中はメーターの H₂O 表示灯が点灯します。

■寒冷時の駐車について

- 寒冷時は駐車中に、FC スタックや水素配管などの凍結を防止するために、FC システムが停止していても自動で排気排水管から排水されることがあります。
- 排水中は作動音がします。(→ P. 72)
- 排水中はメーターの H₂O 表示灯が点灯します。

■寒冷時のウォーターリリース機能について

次のような場合には、FC システムの自動排水が実施されず、FC スタックや水素配管などの凍結により、FC システムが始動できなくなることがあります。

- 氷点下地域に車両を輸送、けん引するとき
- 氷点下地域で補機バッテリー端子をはずして放置するとき

そのため、次の手順で直前にウォーターリリースを実施してください。

[1] パワースイッチを ON モードにし、H₂O スイッチを押す

メーターの H₂O 表示灯が点灯していることを確認してください。

[2] ブレーキを踏みながらパワースイッチを押し、FC システムを始動する
READY インジケーターが点灯していることを確認してください。

[3] パワースイッチを押し、FC システムを停止する

ウォーターリリースが自動的に実施されます。排水中はメーターの H₂O 表示灯が点灯します。(通常の排水よりも長くなります)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 133

■ご留意いただきたいこと

→ P. 134

■FC システムが始動しないとき

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります (→ P. 63)。
トヨタ販売店へご連絡ください。
- シフトポジション表示灯の N が点灯しているときは、FC システムを始動できません。必ず P にしてから始動してください。(→ P. 177)
マルチインフォメーションディスプレイに「始動時は P レンジに入れてください」が表示されます。
- 燃料充てん扉が開いていると始動できません。
閉めてから始動してください。(→ P. 201)
- 車両の給電口に給電コネクタが接続されているときは、FC システムを始動できません。取りはずしてから始動してください。(→ P. 91)
- 給電口のキャップが開いていると、FC システムを始動できない場合があります。閉めてから始動してください。(→ P. 91)

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたとき**

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **万一、READY インジケーターが点灯しないとき**

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ **FC システムに異常があるとき**

→ P. 404

■ **電子キーの電池が切れたとき**

→ P. 376

■ **パワースイッチの操作について**

スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえや FC システムの始動ができない場合があります。

■ **自動 P ポジション切りかえ機能について**

● シフトポジション P 以外の状態で、車両を完全に停止させパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわり、パワースイッチが OFF になります。

● P ポジション以外からパワースイッチを OFF するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトポジション※が P に切りかわったことを確認してから、ゆっくりブレーキペダルを離してください。

※ シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えた後も数秒間表示されます。

● シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると、スイッチを OFF にすることができます。

システムが故障した場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき**

→ P. 453

 警告**■ FC システムを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

FC システムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時の FC システム停止方法

走行中に FC システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 392)

ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中に FC システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 注意**■ 補機バッテリーあがりを防止するために**

FC システム停止中は、パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ FC システムを始動するとき

もし FC システムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

トランスミッション（動力伝達装置）

シフトレバーの動かし方

① シフトレバー

シフトレバーは、ゆっくり確実に操作してください。

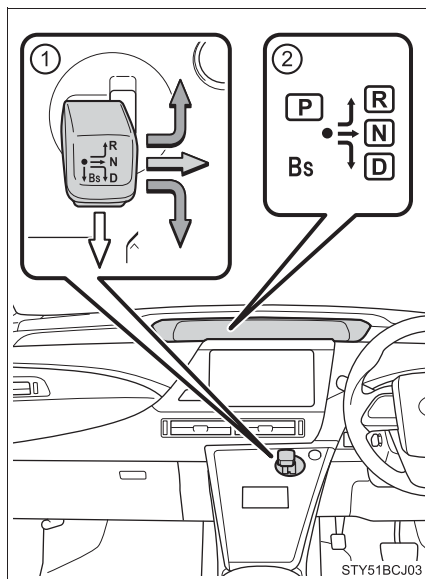
シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが「 ● 」の位置に自然にもどります。

↕ DまたはRポジションへ切りかえるときは、ゲートにそってそのまま操作します。

➡ Nポジションへ切りかえるときは、右にスライドさせ、しばらく保持すると、N に切りかわります。

↓ Bs モードへ切りかえるときは、ゲートにそって下側に操作します。(→ P. 179)

Bs モードへの切りかえはシフトポジションがDのときのみ、切りかえが可能です。



P から N・D・R へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

② シフトポジション表示灯

シフトポジションの選択時には、メーター内のシフトポジション表示灯が切りかわったことを必ず確認してください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車または FC システムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行

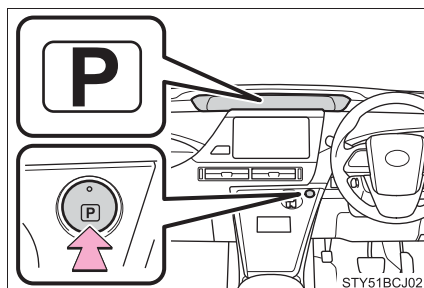
P ポジションスイッチ

P ポジションスイッチを使用して、P ポジションへ切りかえることができます。

車を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏みながら、P ポジションスイッチを押す

シフトポジションをPにすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。

シフトポジション表示灯の P が点灯していることを確認してください。



■ P から他のシフトポジションに切りかえるときは

ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、シフトレバーを操作します。ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえができません。

走行モードの選択

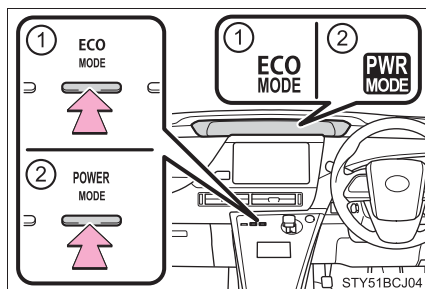
走行・使用条件に合わせて次のモードを選択できます。

■ エコドライブモード／パワーモード

① エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、燃費を向上させる走行に適しています。

エアコン画面に **ECO** が表示され、エコ空調モード(→P. 288)になります。



スイッチを押すと、メインディスプレイ内の ECO MODE 表示灯が点灯します。
通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。

② パワーモード

山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

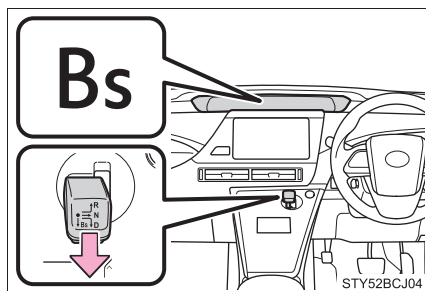
スイッチを押すと、メインディスプレイ内の POWER MODE 表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。

■ Bs モード

下り坂など、強い回生ブレーキを必要とする走行に適しています。

Bs モードを選択すると、メーター内のBsモード表示灯が点灯します。通常走行モードにもどすときは、アクセルペダルを踏むか、シフトレバーでDポジションを再選択してください。



 知識

■ シフトポジションについて

- パワースイッチが OFF のときはシフトポジションの切りかえはできません。
- パワースイッチが ON モードで、READY インジケーターが消灯しているときは、N にのみ切りかえが可能です。シフトレバーを操作して D または R の位置で保持したときも N に切りかわります。
- READY インジケーターが点灯中は、P ポジションから、D・N・R を選択できます。
- READY インジケーターが点滅中は、シフトレバーを操作しても、P ポジション以外には切りかわりません。

また、次に示す操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

- シフトポジション P からブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作したときは、シフトポジションの切りかえを無効にします。
- 自動的にシフトポジションが N に切りかわるとき
 - ・ 走行中に、P ポジションスイッチを押したとき ※¹
 - ・ 車両が前進しているときに、シフトレバーを操作して R ポジションを選択しようとしたとき ※²
 - ・ 車両が後退しているときに、シフトレバーを操作して D ポジションを選択しようとしたとき ※³
 - ・ シフトレバーを操作して、R ポジションから Bs モードへ切りかえしようとしたとき

※¹ 極低速走行時は、P ポジションに切りかわることがあります。(→ P. 182)

※² 低速走行時は、R ポジションに切りかわることがあります。

※³ 低速走行時は、D ポジションに切りかわることがあります。

■ Bs モードについて

駆動用電池の状態によっては、Bs モードを使用できない場合があります。この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されません。

■ Bs モード時の音について

→ P. 72

■ ドライブスタートコントロールについて

→ P. 162

■ リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ 回生ブレーキについて

シフトポジションが D のとき、アクセルペダルから足を離すと、回生ブレーキがかかります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

- ECO MODE スイッチを押すとエコ空調モードに切りかわります。(→ P. 291)
エコドライブモード使用中にエコ空調モードのみ解除することもできます。
- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ 設定温度や風量を調整する。
 - ・ エアコン操作スイッチ(→ P. 286)の  を押してエコ空調モードを解除するか、エコドライブモードを解除する。

■ パワーモードの自動解除

パワーモードを選択して走行後、FC システムを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■ シフトレバー操作について

P ポジションで坂道駐車時に、P から他のシフトポジションに切りかえたときに、振動を感じることがあります。

 警告**■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。回生ブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトレバーについて

FC システムを正常に作動させるため、次のことをお守りください。

お守りいただかないと、シフトレバーが定位置にもどらなくなり、走行中に思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- シフトレバーにものをぶら下げないでください。
- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。

■ P ポジションスイッチについて

車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。

停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ シフト制御システムの異常が考えられるとき**

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムの異常警告メッセージが表示されたとき (→ P. 404)
- シフトポジション表示灯が点灯しないとき

■ P ポジションから切りかわらないとき

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーを確認してください。(→ P. 433)

■ シフトレバーと P ポジションスイッチ操作について

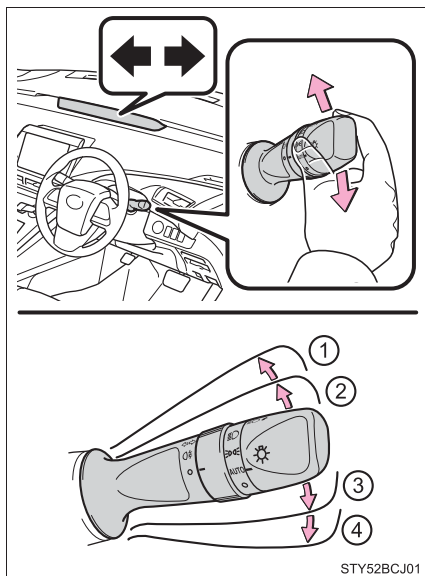
シフトレバーと P ポジションスイッチの連続操作をくり返し行わないでください。システム保護のため一時的に P ポジションから切りかえることができません。この場合は、約 20 秒待ってから操作してください。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

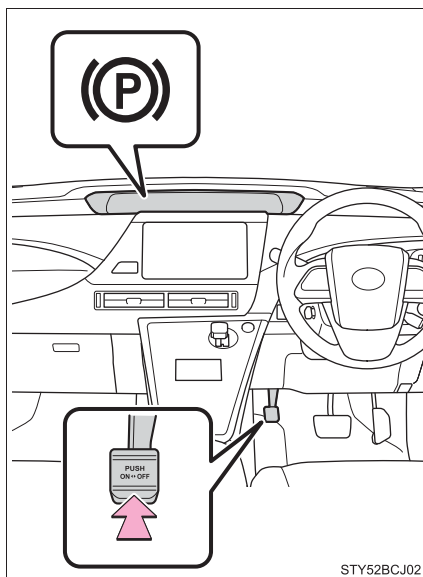
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

ドアミラー以外の方向指示灯が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■ 駐車するとき

→ P. 161

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」が表示されます。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキ警告灯が点灯したときは

→ P. 400

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 282

 注意**■ 駐車するとき**

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、車が動かないことを確認してください。

■ 走行前

パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

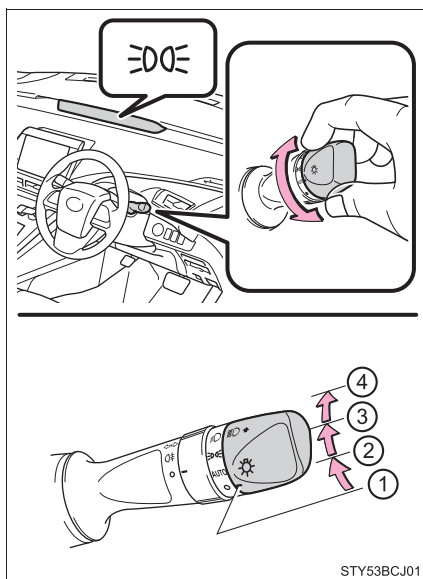
ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

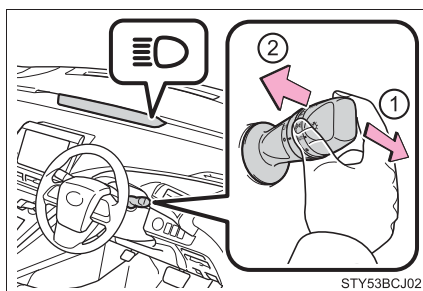
次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。

- ①  消灯
- ② **AUTO** ヘッドランプ・LED デイライト (→ P. 187) ・車幅灯などを自動点灯・消灯 (パワースイッチが ON モードのとき)
- ③  車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ④  上記ランプとヘッドランプを点灯



ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



 知識

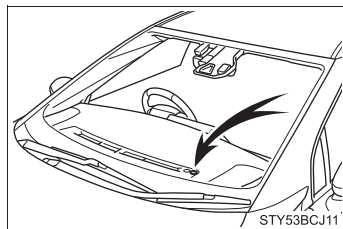
■ LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを **AUTO** にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度  または  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、パワースイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON モードにすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 454)

 注意**■補機バッテリーあがりを防止するために**

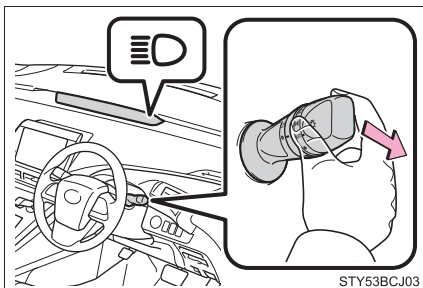
FC システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

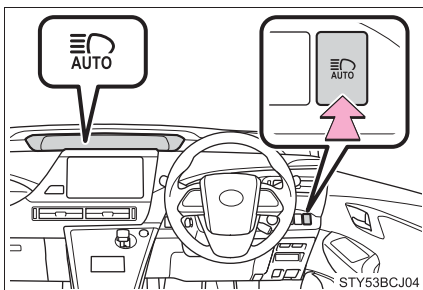
オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチをAUTOまたはにし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

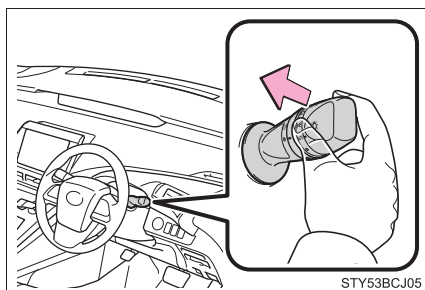
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。

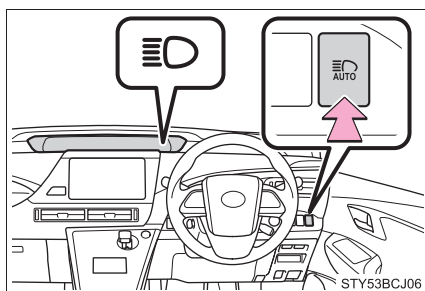


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ オートマチックハイビームについて

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・カメラセンサーの温度が非常に高いとき
- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

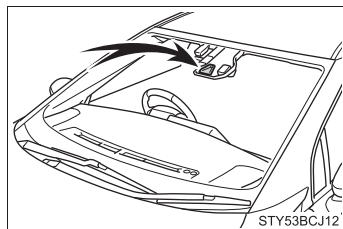
警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

 注意**■ オートマチックハイビームを正しく作動させるために**

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。

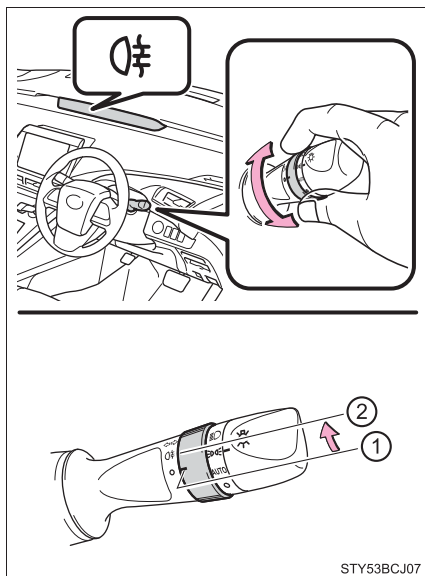


- カメラセンサーのレンズにふれない
- カメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- カメラセンサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- トヨタ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

リヤフォグランプスイッチ★

雨・霧・雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせます。

- ① ○ 消灯する
- ②  点灯する



STY53BCJ07

知識

■点灯条件

ヘッドランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

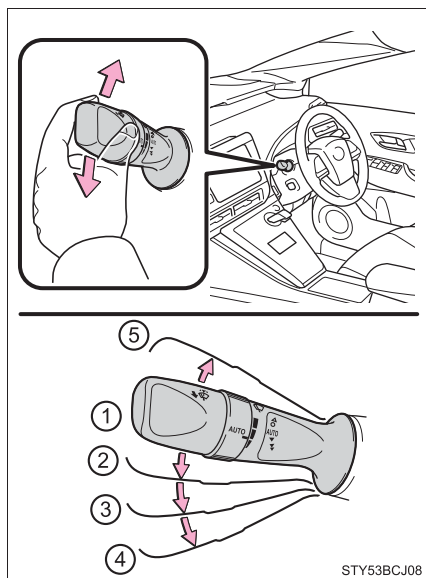
ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

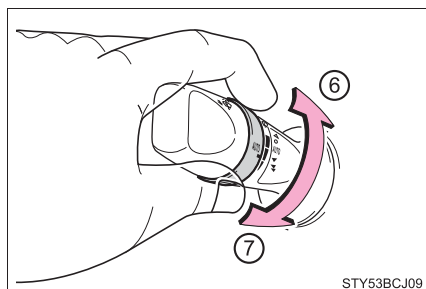
AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

- ① ○ 停止
- ② **AUTO** オート作動
- ③ ▼ 低速作動
- ④ ▼▼ 高速作動
- ⑤ ▲ 一時作動



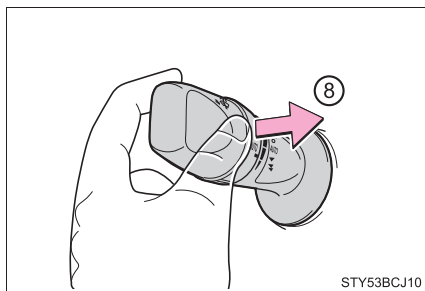
AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度も調整できます。

- ⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）
- ⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。
(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します)



STY53BCJ10

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

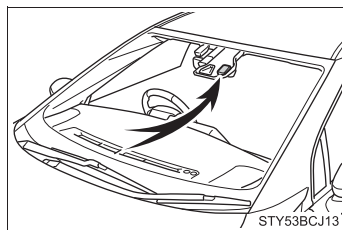
■ 車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ 雨滴感知センサー

● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウィンドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



STY53BCJ13

● パワースイッチがONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

● 雨滴感知センサーの温度が 90℃ 以上または -10℃ 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告**■ AUTO モード時のワイパー作動について**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウィンドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウィンドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウィンドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ フロントウィンドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

燃料充てん口（補給口）の開け方

日本国内では、セルフ充てんはできません。水素ステーションの係員におまかせください。

- 燃料の圧縮水素ガスは、水素ステーションで充てんできます。
- 水素ステーションの設備によっては、充てん時間や充てん量が異なり、走行可能距離が短くなる場合があります。
- 水素タンクの検査有効期限を過ぎている場合は、水素ステーションで圧縮水素ガスを充てんすることはできません。トヨタ販売店にご相談ください。

充てんする前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- パーキングブレーキをかけてください。
- シフトポジションを P にしてください。
- ヘッドランプなどのスイッチを OFF にしてください。

知識

■ 燃料の種類

圧縮水素ガス

■ 最高充てん圧力

通常の使用圧力は 70MPa になりますが、燃料充てん時の一時的な最高圧力（最高充てん圧力）として、87.5MPa がラベルに表示されています。

 警告**■ 充てんするとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災・爆発を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワースイッチを OFF にして、水素ステーションの係員の指示に従ってください。
- タバコなどの火気を近づけないでください。
- 充てん時、充てんガスが冷たいため、水素ガス充てんノズルや燃料充てん口表面が冷たくなったり、霜がついたりする場合があります。充てん直後は素手で水素ガス充てんノズルや燃料充てん口にさわらないでください。凍傷になる恐れがあります。

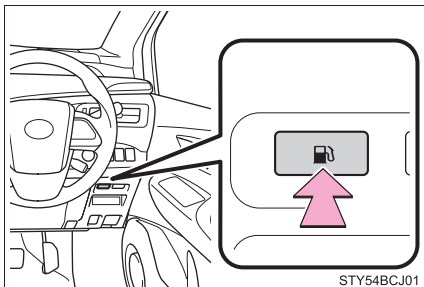
 注意**■ 充てんするとき**

- 指定以外の燃料を使用しないでください。故障の原因になります。
- 充てん時、水素ガス充てんノズルにぶらさがったり、大きな力をかけないでください。故障の原因になります。
- 充てん後は必ずキャップを取り付けてください。燃料充てん口内に異物が入ると、故障の原因になります。
- 燃料充てん口の開口部にドライバーなどの鋭利なものを入れないでください。燃料充てん口の損傷により、充てん時に水素ガスがもれるおそれがあります。

燃料充てん口の開け方

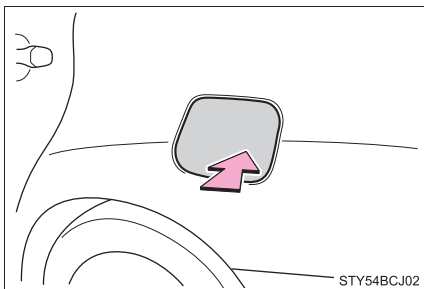
- 1** 燃料充てん扉オープナースイッチを押して、ロックを解除する

燃料充てん扉は READY インジケータが点灯しているときや、パワースイッチが ON モードのときは、ロックが解除されません。



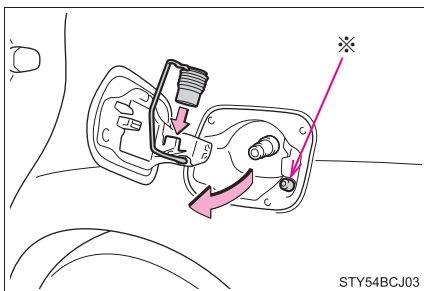
- 2** 燃料充てん扉の車両後端の中央部分を押す

奥まで押し込み、手を離すと燃料充てん扉が少し開きます。その後、手で全開にします。



- 3** キャップをはずして、ホルダーに取り付ける

※ プッシュリフターを押さないでください。センサーが誤作動するおそれがあります。



- 4** 燃料充てん作業は、水素ステーションの係員が行います。

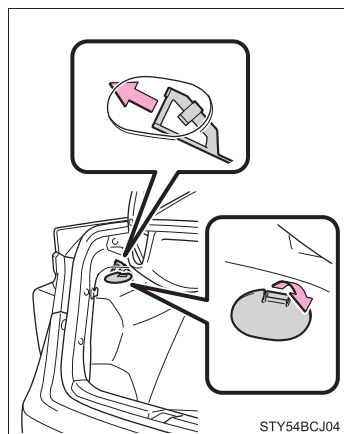
知識

■ マルチインフォメーションディスプレイに「水素充填口は安全な場所でパワースイッチオフ後操作してください」が表示されたときは

- 1 シフトポジションを P にする
- 2 パワースイッチを OFF にする
- 3 燃料充てん扉オープナースイッチを押す

■ 故障などで燃料充てん扉のロックが解除されないとき

パワースイッチを OFF にして、トランク内のカバーを取りはずし、レバーを引くことで、燃料充てん扉のロックが解除できます。



■ 燃料充てん中の音について

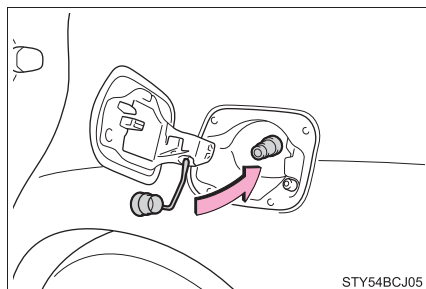
圧縮水素ガス充てんの際、気流音や水素タンクバルブの作動音が聞こえる場合があります。(→ P. 72)

燃料充てん口の閉め方

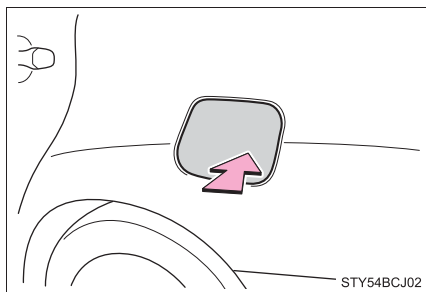
充てん終了後、水素ガス充てんノズルを燃料充てん口から取りはずす

燃料充てん作業は、水素ステーションの係員が行います。

- 1 キャップを取り付ける



- 2 燃料充てん扉を閉め、燃料充てん扉の車両後端の中央部分を “カチッ” と音がするまで押す
燃料充てん扉は確実に閉めてください。



知識

■安全機能について

燃料充てん扉が開いているときは、安全のため FC システムは始動しません。また、READY インジケーターが点灯しているときは、燃料充てん扉は開きません。

■マルチインフォメーションディスプレイに「水素充填口が開いています 安全な場所に駐車して閉じてください」が表示されたときは

燃料充てん扉が開いています。安全な場所に駐車して、燃料充てん扉を閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「水素充填口を閉じた後 もう一度始動操作をしてください」が表示されたときは

燃料充てん扉が開いて始動できません。シフトポジションを P にして、パワースイッチを OFF にしてから、以下の手順でもう一度燃料充てん扉を閉めてください。

- 1 キャップが取り付けられているか確認する
- 2 燃料充てん扉の車両後端の中央部分を “カチッ” と音がするまで押して、燃料充てん扉を閉める

マルチインフォメーションディスプレイの表示が消えたときは異常ではありません。ただし、表示が続く場合は、センサーの故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
→ P. 208
- LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）
→ P. 219
- オートマチックハイビーム
→ P. 189
- RSA（ロードサインアシスト）
→ P. 230
- レーダークルーズコントロール
→ P. 234
- 先行車発進告知機能
→ P. 246

警告

■ Toyota Safety Sense について

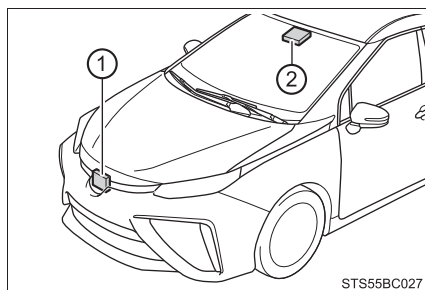
Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

- ① レーダー
- ② 前方カメラ



⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

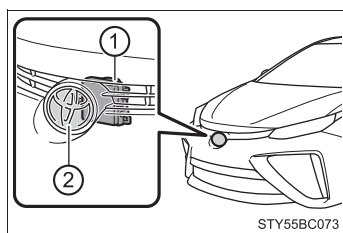
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

- ① レーダー
- ② レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない
- レーダー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

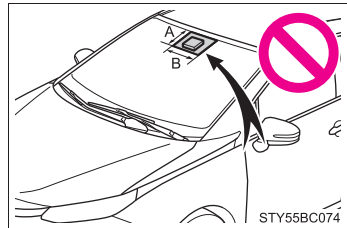
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- #### ● フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない
- A：フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで
B：約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 288）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

 警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 知識

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

- 次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・ 汚れや付着物を取り除く ・ 前方カメラ周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する （フロントウインドウガラスの曇りを取るには： → P. 288）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外するとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする

- 次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。
周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外するとき
- ・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 208）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 211）

システムの作動対象

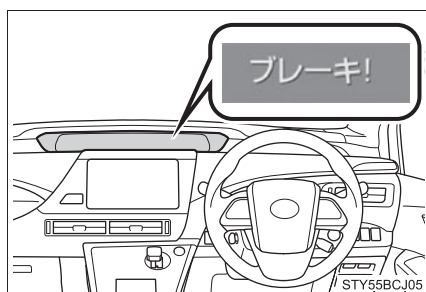
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：
→ P. 214
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 216
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものだ）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいた、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

 警告**■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、FC システムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 114) から、プリクラッシュセーフティの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるとシステムは ON になります。

- 1 メーター操作スイッチ(→P. 108)の **<** または **>** を押して  を選択する

- 2 メーター操作スイッチの **^** または **v** を押して  を選択し、メーター操作スイッチの  を押して ON / OFF を切りかえる。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

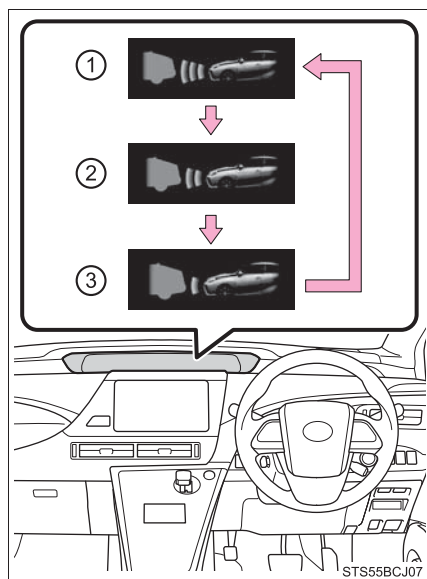
マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 114) から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

- 1 メーター操作スイッチ(→P. 108)の **<** または **>** を押して  を選択する。
- 2 メーター操作スイッチの **^** または **v** を押して  を選択し、メーター操作スイッチの  を押す。

 を押すたびにプリクラッシュセーフティの衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

- ① 早い
- ② 中間
初期設定
- ③ 遅い



知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

ただし、次のときシステムは作動しません。

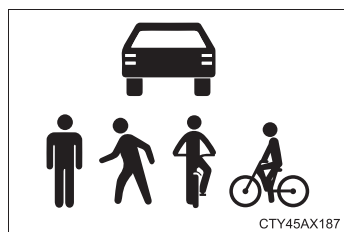
- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 216）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

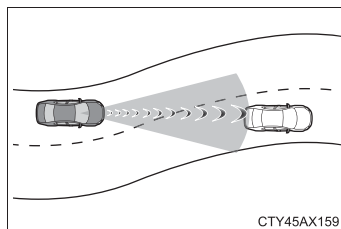
プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

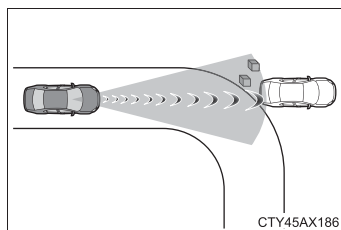
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

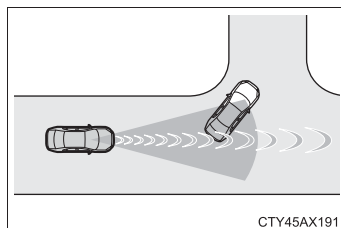
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



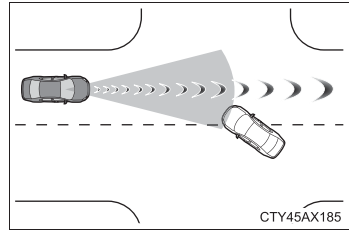
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



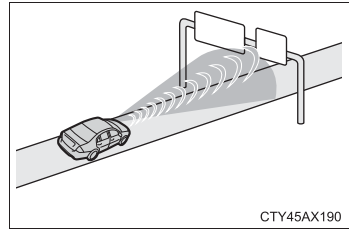
- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



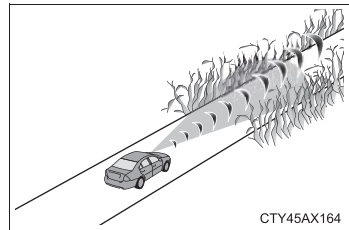
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

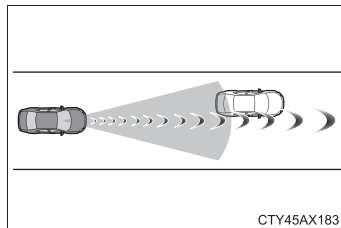


- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

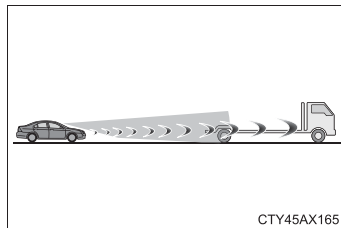
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

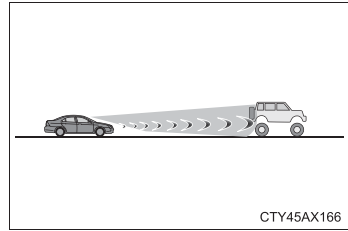
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき



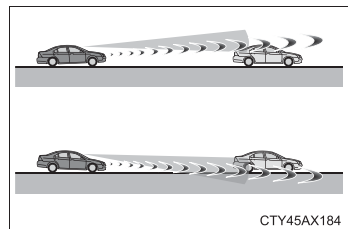
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ FC システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき

- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
 - ・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
 - ・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
 - ・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

- VSC の作動を停止（→ P. 277）したときは、ブリクラッシュブレーキアシスト・ブリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためブリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

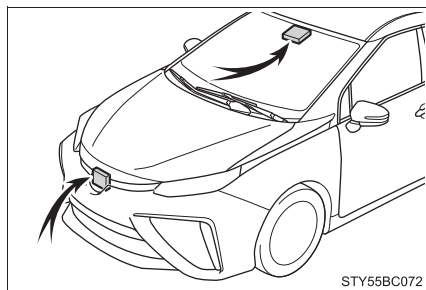
LDA(レーンディパーチャーアラート※[ステアリング制御機能付き])

機能概要

白(黄)線が整備された高速道路または自動車専用道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

白(黄)線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



※：車線逸脱警報

 警告**■LDA をお使いになる前に**

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 車両けん引時

■LDA の故障、または誤作動を防ぐために

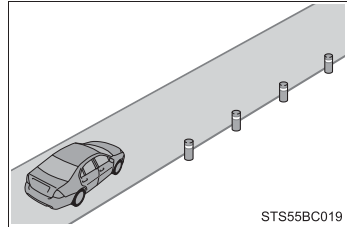
- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

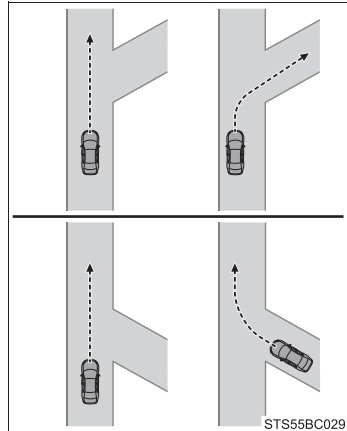
■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

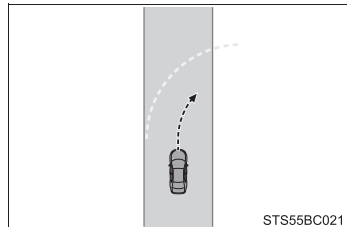
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



- 分岐・合流路などを走行するとき



- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋸）や置き石などがあるとき

 警告

- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき

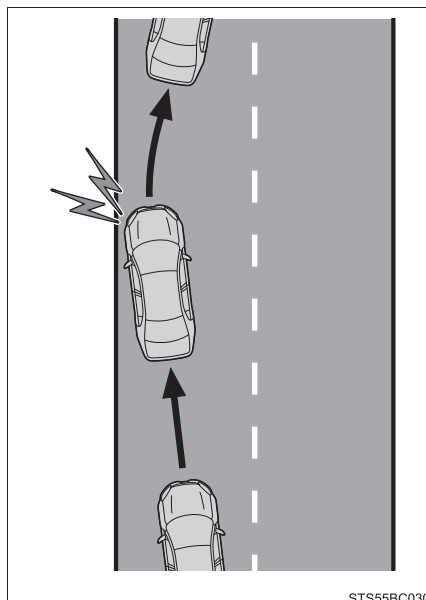
LDA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



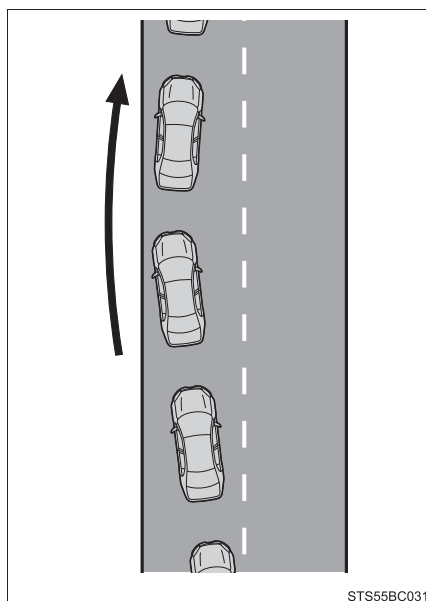
STS55BC030

■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

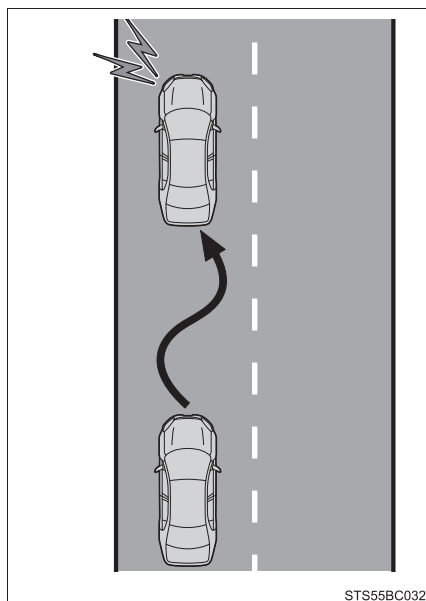
※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



STS55BC031

■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



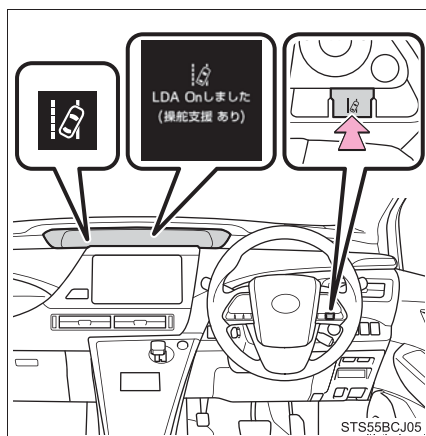
設定のしかた

LDA を ON するには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF するには、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON / OFF すると、次回 FC システムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示

① LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

緑色に点灯：車線逸脱監視中

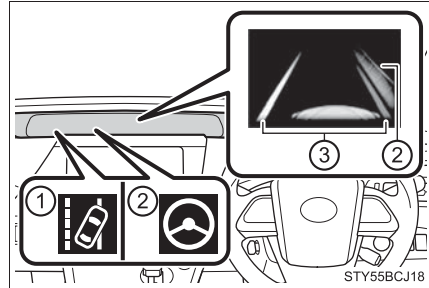
黄色に点滅：車線逸脱警報中

② ステアリング制御表示灯／ハンドル操舵支援作動表示

車線逸脱抑制機能ハンドル操舵支援が作動中のとき、表示灯が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに作動画面が表示されます。

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム表示に切りかえると表示されます。



▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白（黄）線または走路 ※ を認識しているとき（白〔黄〕線または走路 ※ が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 229）

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

● 車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  で  を「On」に設定しているとき（→ P. 107）

① メーター操作スイッチ（→ P. 107）の  または  を押して  を選択する。

② メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択し、メーター操作スイッチの  を押して ON / OFF を切りかえる。

- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を OFF にしていないとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起（→ P. 228）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・マルチインフォメーションディスプレイの  で  を「On」に設定しているとき（→ P. 107）

- 1 メーター操作スイッチ（→ P. 108）の  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択し、メーター操作スイッチの  を押して ON / OFF を切りかえる。

- ・車速が約 50km/h 以上のとき
- ・車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 229）

■機能の一時解除

- 作動条件（→ P. 226）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱抑制機能について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- この機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

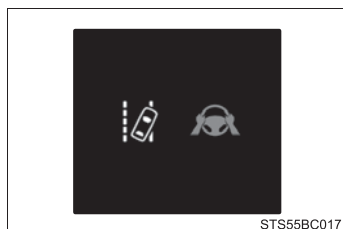
■車線逸脱警報機能について

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。
- 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。
- 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注記喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

- カーブを走行中に曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

- 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。



■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が黄色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- 「LDA 故障 販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 「LDA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LDA を OFF にして、しばらくしてから再度、LDA を ON にしてください。

- 「LDA 現在の車速では使用できません」

車速が LDA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

- 「LDA 約 50km/h 以下で使用できません」

車速が約 50km/h 以下のため、使用できません。約 50km/h より速い速度で走行してください。

■カスタマイズ機能

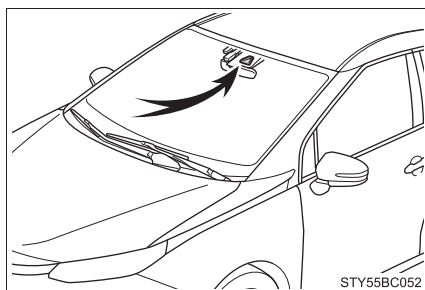
機能の設定を変更することができます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 451)

RSA(ロードサインアシスト)

機能概要

前方カメラを使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイに表示して道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

⚠ 警告

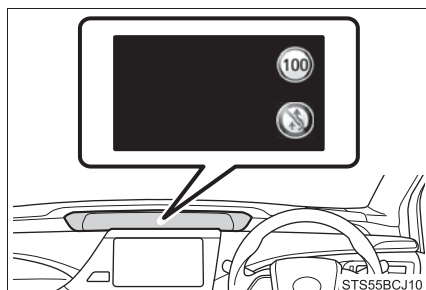
■ RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

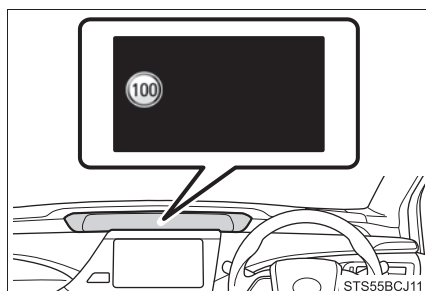
マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラによって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- 走行支援システム表示を選択したときは、最大 2 つの標識を表示できます。(→ P. 107)



- 走行支援システム表示以外を選択したときは、最高速度標識または車両進入禁止標識（告知時のみ）を表示します。(→ P. 107)



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

次の種類の道路標識は、電光標識も含めて認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された形式の標識は認識されません。



最高速度



はみ出し通行禁止



車両進入禁止



※
終わり



一時停止

※「最高速度」/「はみ出し通行禁止」を表示している場合表示が消えます。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されている最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されているはみ出し通行禁止標識が点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■ 設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチ (→ P. 108) の **<** または **>** を押して  を選択する。
- 2 メーター操作スイッチの **^** または **v** を押して  を選択し、メーター操作スイッチの  を押して ON / OFF を切りかえる。

■ RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが悪いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差点）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 107）

レーダークルーズコントロール

機能概要

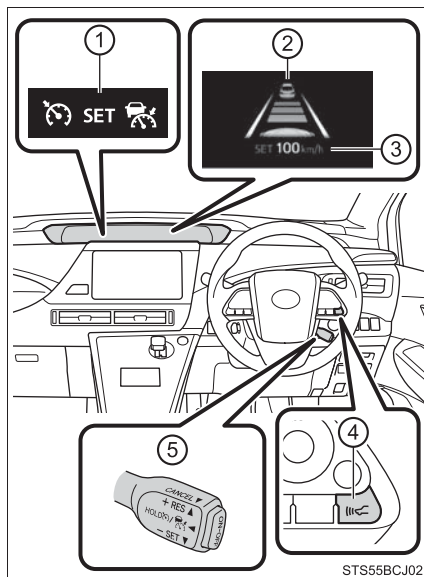
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード (→ P. 237)
- 定速制御モード (→ P. 242)

システムの構成部品

- ① 表示灯
- ② マルチインフォメーションディスプレイ
- ③ 設定速度
- ④ 車間距離切りかえスイッチ
- ⑤ クルーズコントロールスイッチ



 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：(→ P. 244)
 - ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：(→ P. 245)
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりするとおそれる事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信するとおそれる事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

 警告**■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

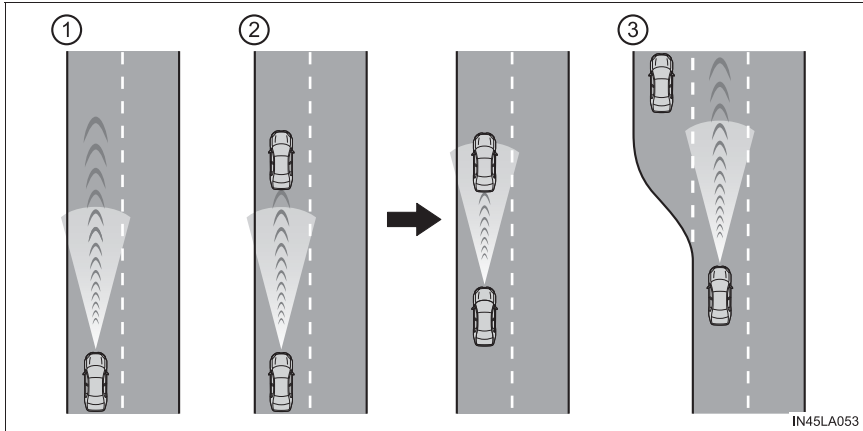
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



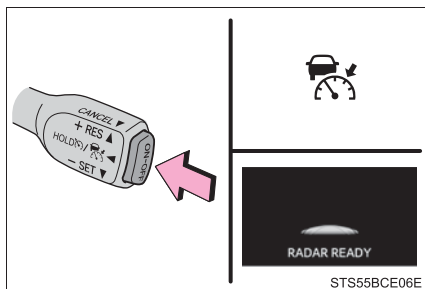
- ① 定速走行：
先行車がないとき
運転者が設定した速度で定速走行します。
- ② 減速走行－追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき
先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の车速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。
车速が約80km/h以上で自車が走行している車線より右車線へ車線変更する場合、方向指示レバーと連動して設定速度まで早めに加速することで、追い越しを支援します。
- ③ 加速走行：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF には再度スイッチを押します。

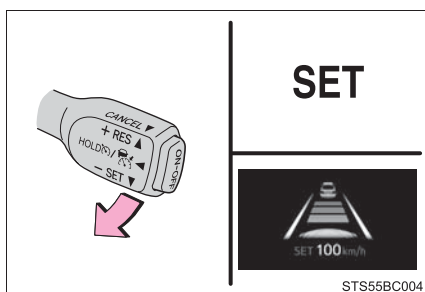
ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→ P. 242）



- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを上げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

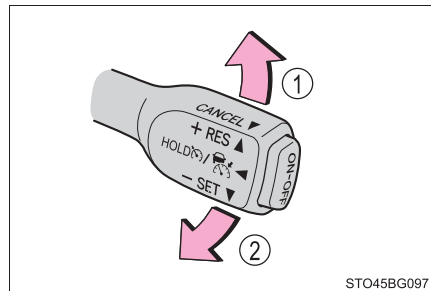
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



STO45BG097

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 242）では、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

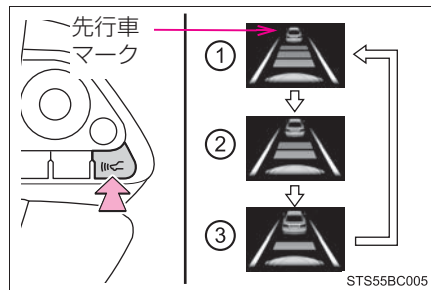
スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

② 中間

③ 短い

パワースwitchをONモードにするたびに車間距離は①にもどります。



STS55BC005

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

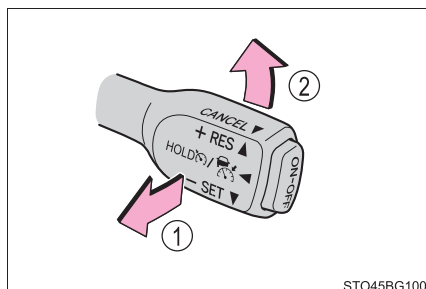
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御を解除する・復帰させる

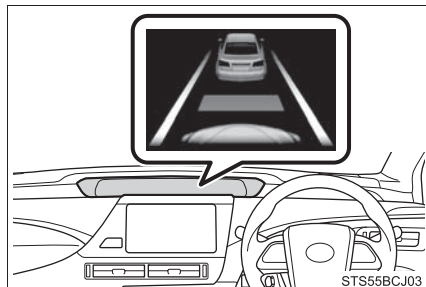
- ① 制御を解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
- ② 制御を復帰させるには、レバーを上げる
ただし、車速が約 25km/h 未満のときは復帰しません。



STO45BG100

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

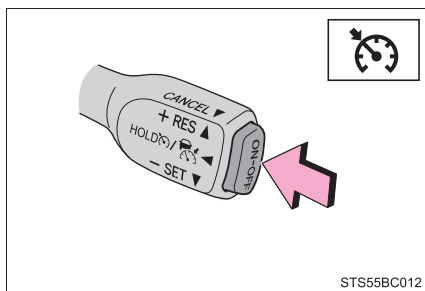
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON-OFF スイッチ を押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



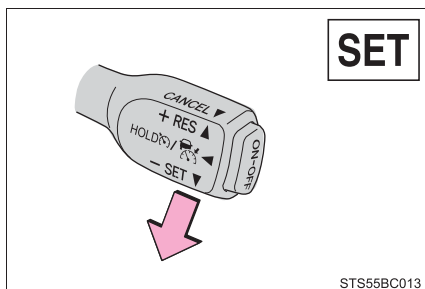
- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを上げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→ P. 239）

制御を解除する・復帰させる（→ P. 240）



知識

■ 設定条件について

- シフトポジションが D のとき設定できます。
- 制御モードによって、設定できる車速は次のとおりです。
 - ・ 車間制御モード：約 30km/h 以上のとき
 - ・ 定速制御モード：約 30km/h 以上のとき

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車速が約 25km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- ブリクラッシュブレーキが作動したとき

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- ブリクラッシュブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

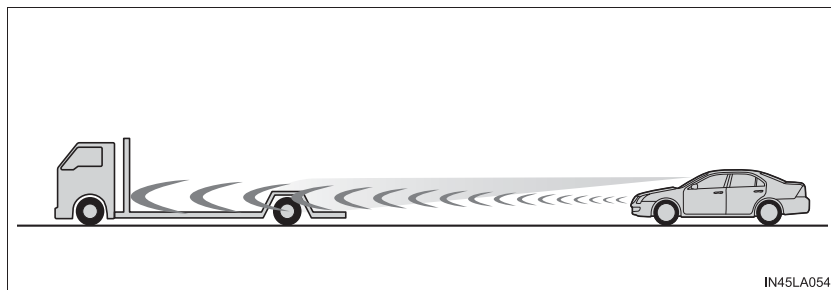
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P. 207、404）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

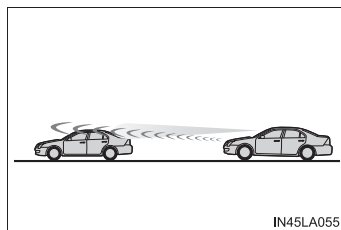
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 241）も作動しないおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

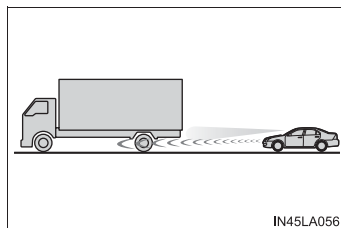


- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

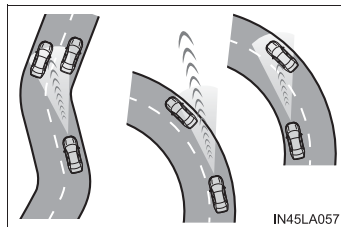


■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

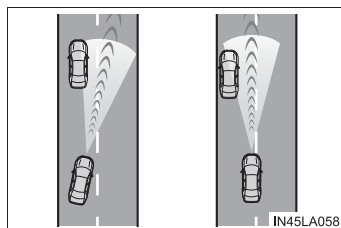
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



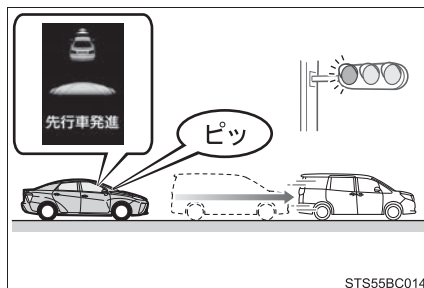
- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



STS55BC014

 知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションが N で停止しているとき

■ 先行車が発進していても告知しない場合があります

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ブリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■ 先行車が発進していても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 先行車発進告知機能の設定を変更するには

- 先行車発進告知機能の ON / OFF

マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 107）から、システムの ON / OFF を切りかえることができます。

- 1 メーター操作スイッチ（→ P. 108）の < または > を押して  を選択する。

- 2 メーター操作スイッチの ^ または v を押して  を選択し、メーター操作スイッチの ⊙ を押して ON / OFF を切りかえる。

- 先行車発進告知機能の告知距離

マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 107）から、告知する距離を切りかえることができます。

- 1 メーター操作スイッチ（→ P. 108）の < または > を押して  を選択する。

- 2 メーター操作スイッチの ^ または v を押して  を選択し、メーター操作スイッチの ⊙ を押して ON / OFF を切りかえる。

BSM（ブラインドスポットモニター）

機能概要

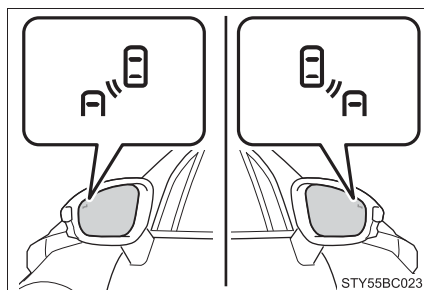
運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

レーダーセンサーにより、隣の車線のドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによって車両の存在を知らせます。

BSM ドアミラーインジケーター

死角領域に車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。

また、方向指示レバーを操作した際に死角領域に車両がいたときは、ドアミラーインジケーターが点滅します。



設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 107) で ON (作動)・OFF (停止) の切りかえができます。

- 1 メーター操作スイッチ(→P. 108)の  または  を押して  を選択する

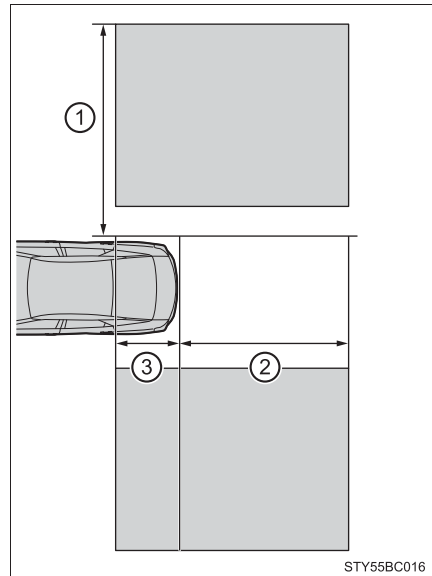


- 2 メーター操作スイッチの  を押すごとに ON・OFF が切りかわる
ON を選択すると、メーター内に BSM 表示灯が点灯します。

ブラインドスポットモニターが検知できる範囲

死角領域となる、次の範囲に入った車両を検知します。

- ① 車両側面から外側に約 3.5m
車両側面から外側に約 0.5m は検知しません
- ② 車両後端から後方に約 3m
- ③ 車両後端から前方に約 1m



知識

■ブラインドスポットモニターの作動条件

システムが ON の状態で、車速が約 16km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型の二輪車、自転車、歩行者など ※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 同じ車線を走行する後続車 ※
- 2 つ隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ ブラインドスポットモニターが有効に作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ 大雨・霧・雪などの悪天候時
 - ・ 氷雪・泥等がリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 水たまりなど濡れた路面を走行するとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道を走行しているとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 車線の幅が広く、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 自車線と隣車線の高さに差があるとき
 - ・ システムを ON にした直後
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ ガードレールや壁等との距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・ 後続車との車間距離が短いとき
 - ・ 車線の幅が狭く、2 つ隣の車線を走行する他車が検知範囲に入ったとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき

■ BSM ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、BSM ドアミラーインジケータが見えづらいことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 現在使用できません」が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。(→ P. 254) センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

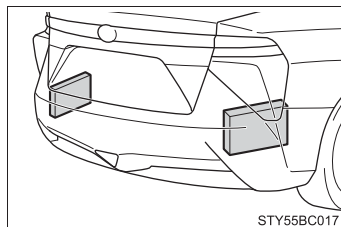
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、死角に入った車両の存在をドライバーに提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

警告**■ レーダーセンサーの取り扱い**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両後部に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のバンパーは常にきれいにしておく



- センサー周辺のバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のバンパーにステッカーを貼らない
- センサーやセンサー周辺のバンパーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください
- 本製品は各国の電波法に適合しています。製品に貼られているシールはその証明ですので、剥がさないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



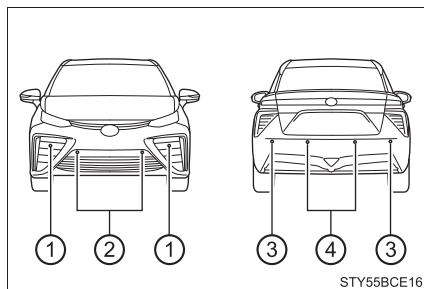
204-350006

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおよその距離を超音波センサーによって感知して、マルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

センサーの位置・種類

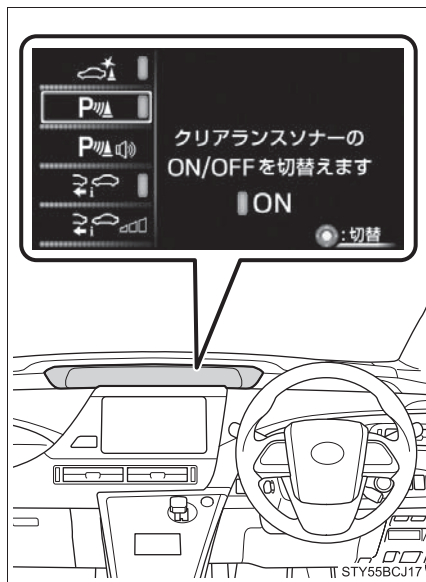
- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンターセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ リヤセンターセンサー



クリアランスソナーの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 107) で ON (作動)・OFF (停止) の切りかえができます。

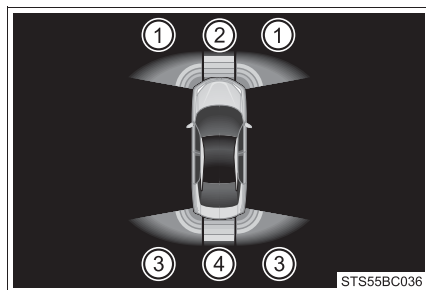
- 1 メーター操作スイッチ(→P. 108)の  または  を押して  を選択する



- 2 メーター操作スイッチの  を押すごとに ON・OFF が切りかわる
ON を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

クリアランスソナーの表示のしかた

- ① フロントコーナーセンサー作動表示
- ② フロントセンターセンサー作動表示
- ③ リヤコーナーセンサー作動表示
- ④ リヤセンターセンサー作動表示



距離表示の見方

通常表示	障害物までのおおよその距離	
	フロントコーナー&フロントセンターセンサー	リヤコーナー&リヤセンターセンサー
 (点灯)	フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm	リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm
 (点灯)	約 60cm ～ 45cm	約 60cm ～ 45cm
 (点灯)	約 45cm ～ 35cm	約 45cm ～ 35cm
 (点滅)	約 35cm 以下	約 35cm 以下

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が約 35cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ ピー」をくり返します。
- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ ピー」をくり返します。

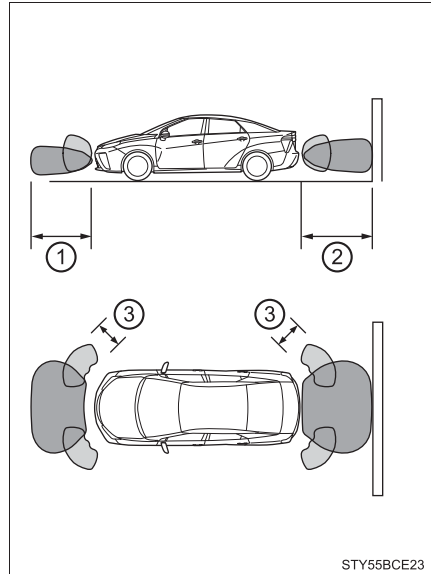
ブザーの音量と鳴り始めるタイミングを変更することができます。
(→ P. 458)

障害物を感知できる範囲

- ① 約 100cm(約 1.0m)
- ② 約 150cm(約 1.5m)
- ③ 約 60cm(約 0.6m)

感知できる範囲は右図のとおりです。
ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



障害物を感知できる範囲を変更することができます。(→ P. 458)

知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON モードのとき
- クリアランスソナーが ON のとき
- 車速が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが以下のとき
 - ・ フロントコーナーセンサー：シフトポジションが P 以外
 - ・ フロントセンターセンサー：シフトポジションが P・R 以外
 - ・ リヤコーナーおよびリヤセンターセンサー：シフトポジションが R

■ センサーの感知について

- センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。
- センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。
- 障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 25cm 以内に接近するおそれがあります。
- センサーより低い物体や細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

クリアランスソナーの設定を変更できます。(→ P. 451)

⚠ 警告

■ クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが感知する範囲にはアクセサリ用品などを取り付けないでください

 警告**■ センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレート・ナンバープレートホルダーなどを取り付けたとき
障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

 警告**■ 正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

 注意**■ クリアランスソナーを使用するとき**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 障害物を検知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのに表示が点灯したままのとき

■ 洗車するとき

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

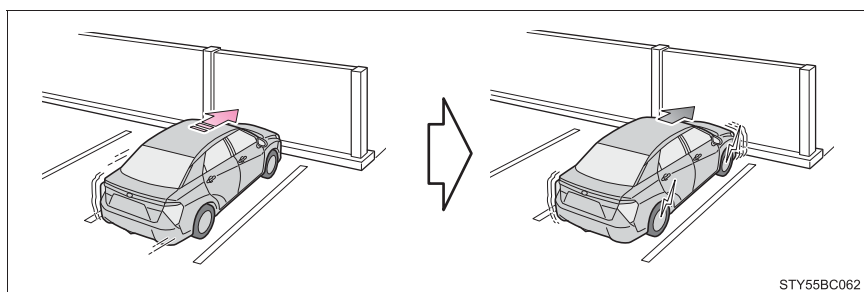
パーキングサポートブレーキ（静止物）※

駐車時や低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止している障害物を検知するとシステムが作動し、壁などの障害物への衝突を緩和し被害低減に寄与します。

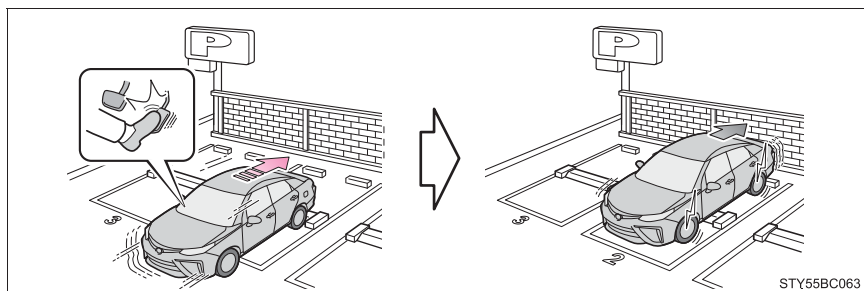
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止している障害物を検知してシステムが作動します。

- ◆ 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき

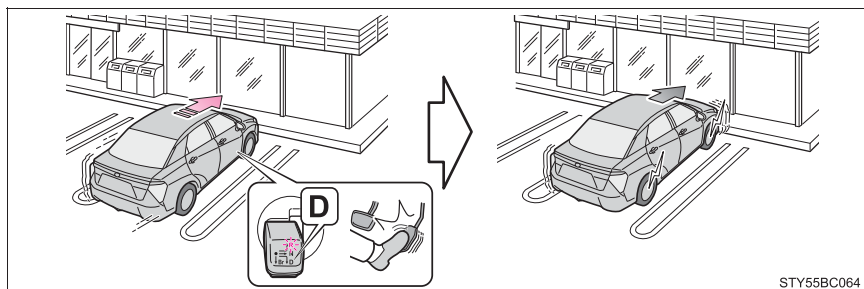


- ◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



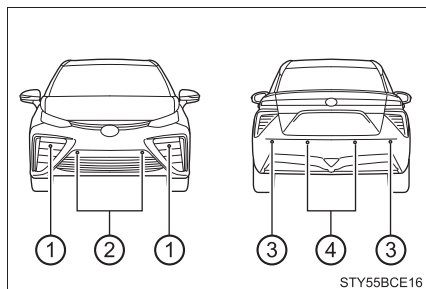
※：従来のICS（インテリジェントクリアランスソナー）

◆ シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



センサーの種類

- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンターセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ リヤセンターセンサー

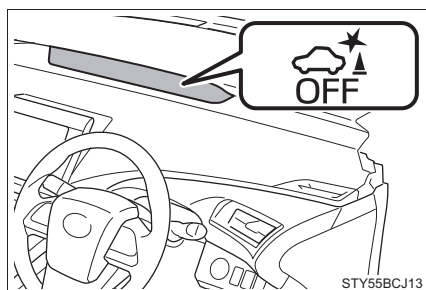


パーキングサポートブレーキ（静止物）の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 107) でパーキングサポートブレーキ（静止物）の ON（作動）／OFF（非作動）の切りかえができます。

- 1 メーター操作スイッチ(→ P. 108)の **< または >** を押して  を選択する。
- 2 メーター操作スイッチの **^ または v** を押して  を選択し、メーター操作スイッチの **⊙** を押して ON / OFF を切りかえる。

パーキングサポートブレーキ（静止物）が OFF（非作動）になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

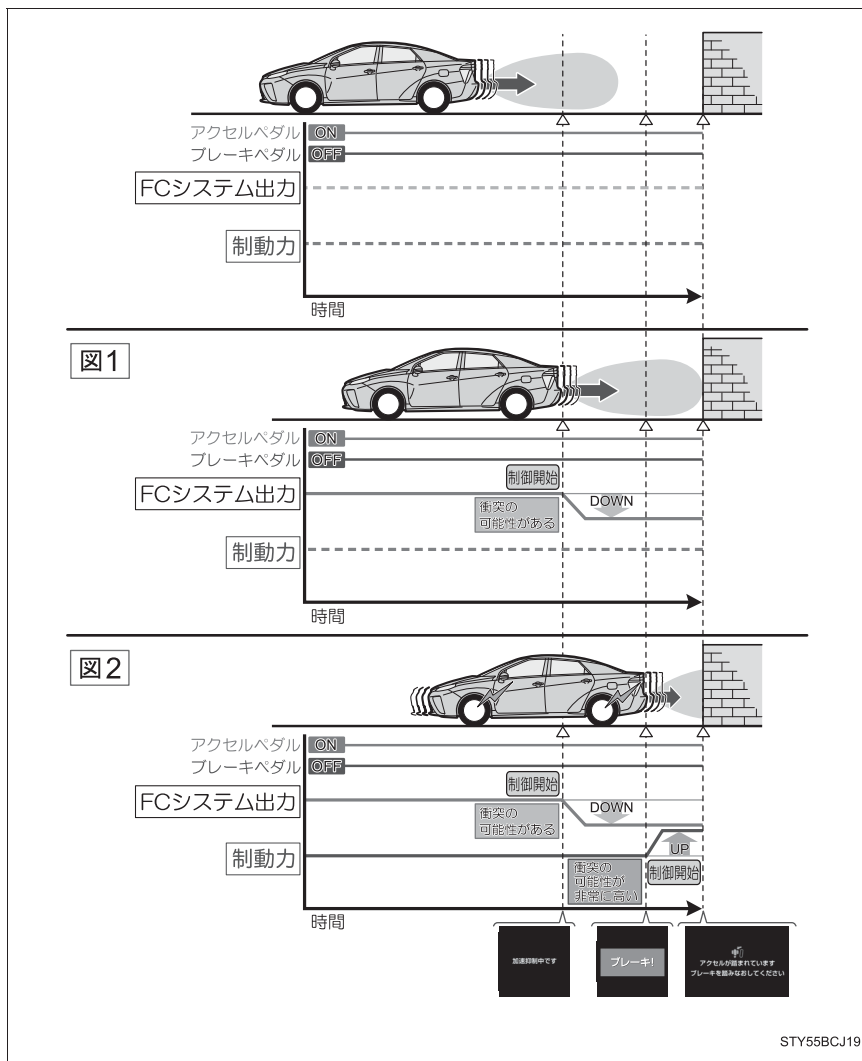


OFF（非作動）に切りかえて、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

作動について

パーキングサポートブレーキ（静止物）は、衝突の可能性がある静止している障害物を検知したとき、FC システムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（FC システム出力抑制制御：下記図 1）

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）



作動条件について

■ 作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 265, 272）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ▶ FC システム出力抑制制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に静止している障害物がある（2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した
- ▶ ブレーキ制御
 - ・ FC システム出力抑制制御作動中
 - ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

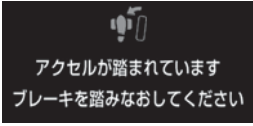
次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ▶ FC システム出力抑制制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
 - ・ 車両進行方向の静止している障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）
- ▶ ブレーキ制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
 - ・ 車両進行方向の静止している障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチインフォメーションディスプレイ表示	PKSB OFF 表示灯	ブザー
FC システム出力抑制制御作動中 (加速制限制御)	一定以上の加速ができない状況		消灯のまま	吹鳴なし
FC システム出力抑制制御作動中 (出力最大抑制制御)	通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況		消灯のまま	“ポーン” (単発音)
ブレーキ制御作動中	急ブレーキが必要な状況			
システム作動により 車両停止	ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況		点灯	

 知識

■ センサーの検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 259）とは異なります。

そのため、クリアランスソナーが障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが作動したとき

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキ（静止物）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏めば発進できます。

■ システムの復帰について

システム作動によりパーキングサポートブレーキ（静止物）が停止したときに、パーキングサポートブレーキ（静止物）を復帰させたい場合は、再度、パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON にし停止を解除（→ P. 265）するか、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度、ON モードにしてください。

また、進行方向の障害物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■ センサーが検知しない障害物について

次のような障害物は、センサーが検知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
（特に人は衣類の種類によっても検知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金・フェンス・ロープ・標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの
- 静止していない障害物

■クリアランスソナーのブザーについて

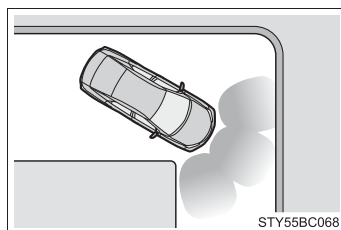
クリアランスソナーの ON / OFF に関係なく (→ P. 256)、パーキングサポートブレーキ (静止物) を停止させていなければ (→ P. 265)、前側センサーまたはうしろ側センサーが障害物を検知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、障害物とのおよその距離をお知らせします。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

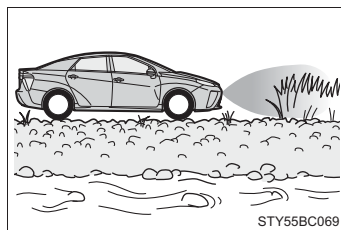
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●周辺環境の影響

- ・ 狭い道路を走行するとき



- ・ 砂利道・草むらなどを走行するとき



- ・ 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機 (踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど) に向かって走行するとき
- ・ 道路脇に障害物があったとき (狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき)
- ・ 縦列駐車時
- ・ 地面にわだちや穴がある場合
- ・ 排水溝などの金属のフタ (グレーチング) 走行時
- ・ 急な登坂路を走行するとき
- ・ 冠水している道路でセンサーに水が被ったとき

●天候の影響

- ・ センサーに氷・雪・泥などが付着したとき (取り除けば、正常に復帰します)
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・ 霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

- ・ 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両検知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

- ・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したとき

万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

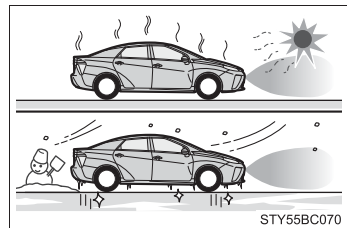
次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●周辺環境の影響

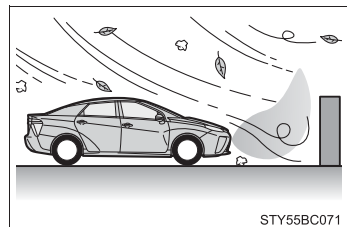
- ・ 検知できる障害物と車両のあいだに、検知できない障害物がある場合
- ・ 車・二輪車・自転車・歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●天候の影響

- ・ 炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合



- ・ 風が強いとき



- ・ センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・ 霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

● 他の音波の影響

- ・ 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両検知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

● 車両の変化

- ・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■ 補機バッテリーを脱着したとき

システムを初期化する必要があります。

約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅したとき

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
- センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示が出るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 補機バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障販売店で点検してください」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅しブザーが鳴ったとき

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検してください。

 警告**■安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキ（静止物）は衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- パーキングサポートブレーキ（静止物）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

■システムを正しく作動させるために

センサー（→ P. 265）について、次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

- 改造・分解・塗装などをしない
- 純正品以外に交換しない
- センサー周辺へ衝撃を与えない
- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが障害物を正しく検知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

 注意**■ センサーの故障を防ぐために**

- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 不要な作動を防ぐために

次のときは、パーキングサポートブレーキを OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- けん引フックを取り付けた場合
- 洗車機を利用する場合

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずには運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

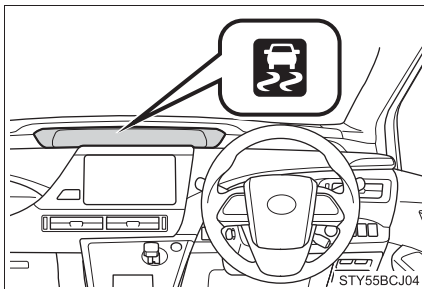
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

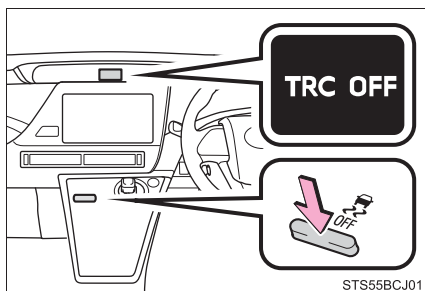
ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでも FC システムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



 知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

プリクラッシュブレーキ、プリクラッシュブレーキアシスト（→ P. 213）も停止します。

PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 400）

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」が表示されたとき

TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- 車両停止後もモーター音が聞こえる
- ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
- ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、モータールームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- FCシステム停止後1～2分経過時に、モータールームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、FC システムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトポジションの位置が P または N 以外(前進または後退での上り坂発進時)
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトポジションを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

TRC・VSC または ABS が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

 警告**■ TRC や VSC を OFF にするとき**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 450）異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- ウォッシャー液は外気温に適したものをお使いください。
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 363）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションをPにして駐車し、必ず輪止め※をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ 寒冷時のFCシステム始動について

→ P. 173

■ 寒冷時のFCシステム停止について

→ P. 173

■ 寒冷時の駐車中について

→ P. 174

 警告**■ 冬用タイヤを装着するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激な回生ブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能

6

6-1. エアコンの使い方

オートエアコン	286
ステアリングヒーター／ シートヒーター	296

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	299
・インテリアランプ	300
・パーソナルランプ	300

6-3. 収納装備

収納装備一覧	302
・グローブボックス	303
・コンソールボックス	303
・カップホルダー	305
・ボトルホルダー	306
・小物入れ	307
・カードホルダー	307
トランク内装備	308

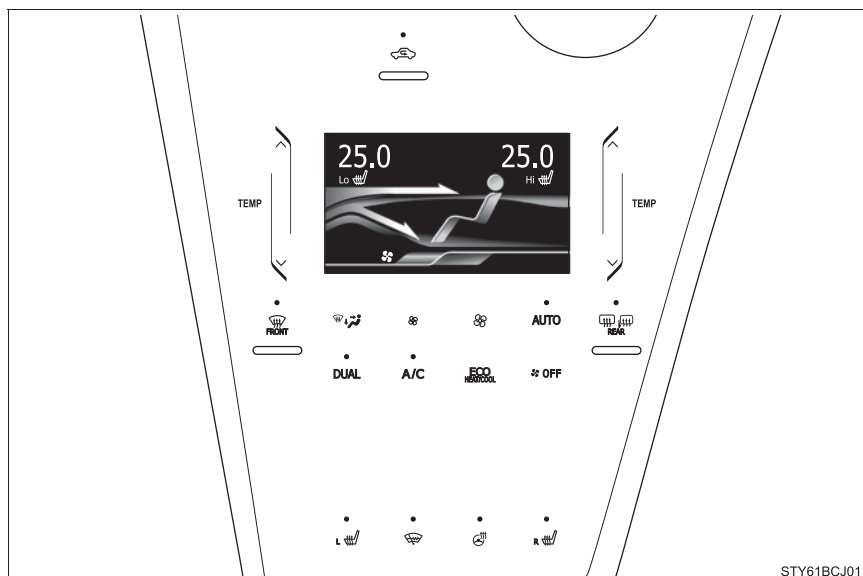
6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	310
・サンバイザー	310
・バニティミラー	310
・時計	311
・アームレスト	312
・コートフック	313
・アシストグリップ	314
・アクセサリーソケット	315
・アクセサリー コンセント	316
・おくだけ充電 (ワイヤレス充電器)	322
ステアリングスイッチ	328
ETC2.0 ユニット (VICS 機能付)	330

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



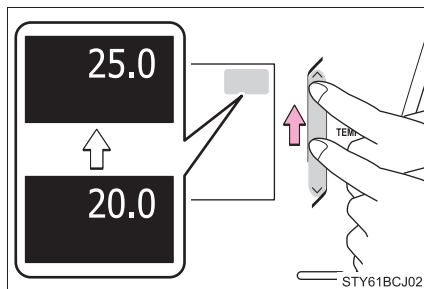
STY61BCJ01

■ 温度を調整する

センサーにタッチしながら、指を上または下にスライドする

センサーにタッチしても温度を調整することができます。設定温度が変わるとブザーが鳴ります。

AUTO のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。



STY61BCJ02

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは (増) を、減らすときは (減) を押す

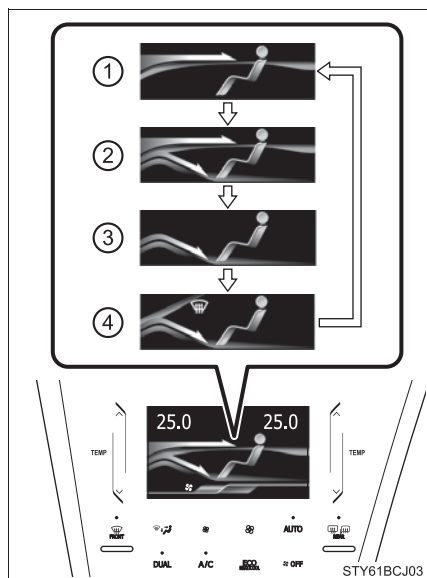
**** OFF** を押すと、ファンがとまります。

■ 吹き出し口を切りかえる

 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元とフロントウインドウガラスへ送風



■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる（→ P. 288）
- フロントウインドウガラスの曇りを取る（→ P. 288）
- リヤウインドウの曇りやミラーの霜をとる（→ P. 289）

オート設定で使用する

- 1 **AUTO** を押す
- 2 温度を設定する
- 3 **A/C** を押す

スイッチを押すたびに冷房・除湿機能の ON・OFF が切りかわります。

- 4 ファンをとめたいときは、***OFF** を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スwitchの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

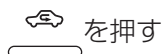
次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- エアコン操作パネルの **DUAL** を押す
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

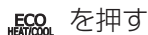
その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには



内気循環のときは作動表示灯が点灯します。

■ エコ空調モードを使用するには



エアコン画面に **ECO** が表示され、燃費を優先した空調制御をします。**ECO** を長押しするとエアコン画面に **ECO HI** が表示され、さらに燃費を優先した空調制御をします。（空調はさらに控えめの作動となります）

エコ空調モードを解除する場合は再度 **ECO** を押す。

ECO HI は、他のエアコン操作スイッチを押した際に解除される場合があります。

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには



除湿機能が作動し、風量が変わります。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇

りが取れたら再度 **FRONT** を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。



を押す

リヤウインドウデフォグガーおよびミラーヒーターが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォグガーおよびミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

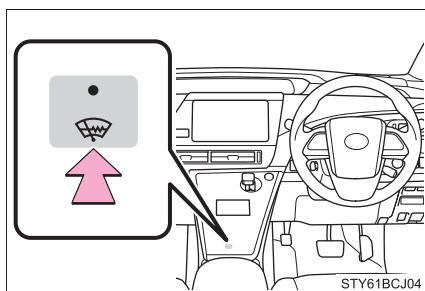
■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

 を押す

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

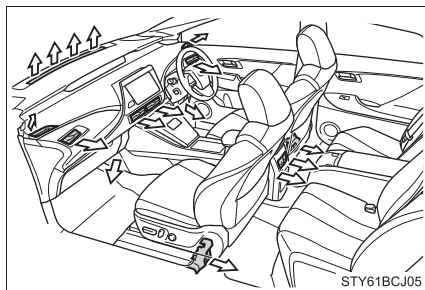


★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

吹き出し口について

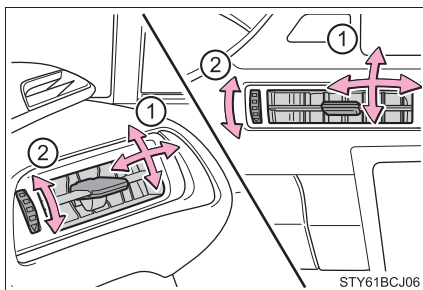
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。(→ P. 287)

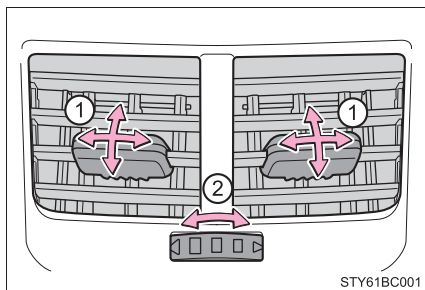


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント



▶ リヤ



- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口の開閉

 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気などの状態により自動で調整されるため、FC システム始動時や **AUTO** を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、**A/C** を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- **A/C** を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ フロントウインドウガラスの曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー（→ P. 295）でフロントウインドウガラスの曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ エコ空調モードのエアコン作動について

- エコ空調モードは燃費を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・ 水加熱ヒーターやコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ 設定温度や風量を調整する。
 - ・ **ECO HI** のときは、 を押して **ECO** にするかエコ空調モードを解除する。
 - ・ **ECO** のときは、 を押してエコ空調モードを解除する。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

ECO MODE スイッチを押すとエコ空調モードに切りかわります。（→ P. 181）

■「ナノイー」※¹について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席右側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします※²。

- ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動し、エアコン画面に「nanoe」表示が表示されます。
- 「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
 - ・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のとき
 - ・運転席右側の吹き出し口が開いているとき
- 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※¹ 「nanoe」、「ナノイー」、および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※² 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 374

■ エアコン操作パネルのスイッチの反応を変更するには

次の操作により、スイッチにタッチしてから反応するまでの時間を変更できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

- 1  (増) と **DUAL** を約 3 秒間タッチする

モニター内の助手席側温度部に「01」～「05」が表示されます。

- 2  にタッチするたびに、反応するまでの時間が次のように切りかわります。

01 (約 0.06 秒) → 02 (約 0.08 秒) → 03 (約 0.10 秒) →
04 (約 0.12 秒) → 05 (約 0.14 秒)

お好みの設定を表示した状態のまま、画面が切りかわるまで約5秒間タッチ操作を行わないか、パワースイッチを OFF にすると設定が完了します。

■ エアコン操作パネルのスイッチ操作音を ON/OFF するには

次の操作により、スイッチにタッチした時の操作音を ON/OFF できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

- 1 **AUTO** と **DUAL** を約 3 秒間タッチする

モニター内の助手席側温度部に「ON」または、「OFF」と表示されます。

- 2  にタッチするたびに、ON/OFF が切りかわります。

「ON」または、「OFF」を表示した状態のまま、画面が切りかわるまで約5秒間タッチ操作を行わないか、パワースイッチを OFF にすると設定が完了します。

■ エアコン操作パネルのスイッチ操作時のポップアップ表示を ON/OFF するには

次の操作により、スイッチを操作する時のポップアップ表示を ON/OFF できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

- 1  と **DUAL** を約 3 秒間タッチする

モニター内の助手席側温度部に「ON」または、「OFF」と表示されます。

- 2  にタッチするたびに、ON/OFF が切りかわります。

「ON」または、「OFF」を表示した状態のまま、画面が切りかわるまで約5秒間タッチ操作を行わないか、パワースイッチを OFF にすると設定が完了します。

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを ON にしたとき、外気導入と内気循環を自動で切りかえるかなどの設定ができます。

(カスタマイズ一覧→P. 455)

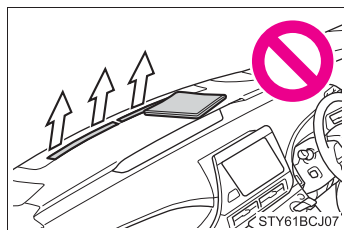
⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させていると

きは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■リアウインドウデフォグガー&ミラーヒーター／ウインドシールドデアイサー★作動

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

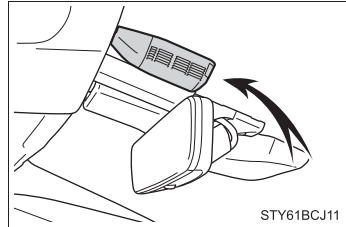
 注意**■「ナノイー」の損傷を防ぐために**

運転席右側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■湿度センサーについて

フロントウインドウガラスの曇り検知(→ P. 291)のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐために、次のことをお守りください。



- 湿度センサーを分解しない
- ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- 湿度センサーにシールなどを貼らない

■補機バッテリーあがりを防ぐために

FC システム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

ステアリングヒーター／シートヒーター

ハンドルの左右のグリップ部やシートを暖めることができます。

警告

■ やけどについて

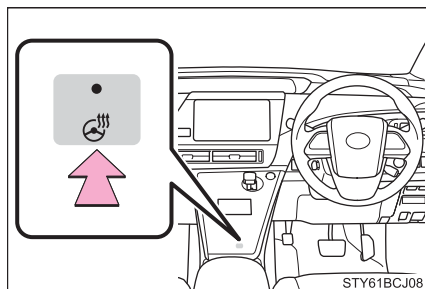
- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続使用しない
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しない

注意

- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、FC システムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

システムの ON/OFF を切りかえる
作動中はインジケーターが点灯します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モード

■ タイマー制御

約 30 分後に自動で OFF になります。

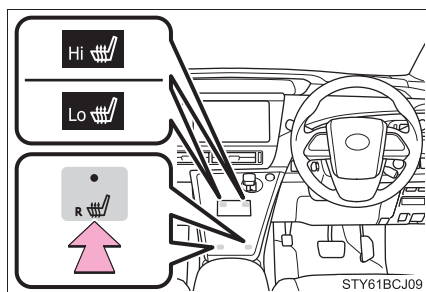
シートヒーター

■ フロントシート

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

Hi (強) → Lo (弱) → OFF

作動中は作動状態が表示されます



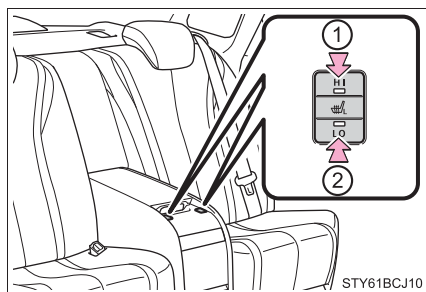
■ リヤシート

① HI (強)

インジケーターが点灯します。

② LO (弱)

インジケーターが点灯します。



 知識

■ 作動条件

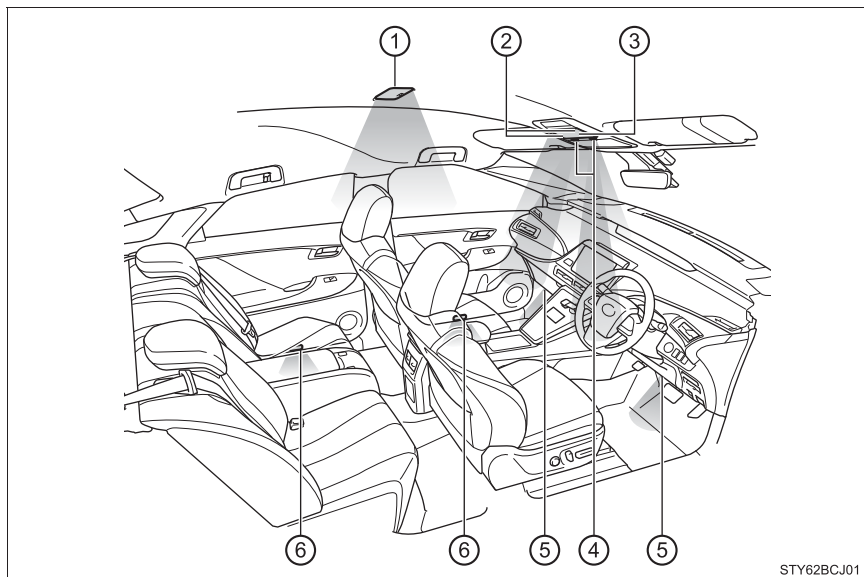
パワースイッチが ON モード

■ 使用しないときは（リヤシート）

スイッチを中立の位置にしてください。

インジケーターが消灯します。

室内灯一覧



- | | |
|------------------------------|--------------|
| ① リヤインテリアランプ
(→ P. 300) | ④ シフト照明 |
| ② パーソナルランプ
(→ P. 300) | ⑤ 足元照明 ※1, 2 |
| ③ フロントインテリアランプ
(→ P. 300) | ⑥ ドアカーテシランプ |

※1 パワースイッチが ON モードのとき、足元照明が常時点灯します。ただし、インストルメントパネル照度をもっとも暗く調整すると、足元照明が消灯します。(→ P. 104)

※2 シフトポジションが P 以外のとき、足元照明の明るさが暗くなります。

インテリアランプ

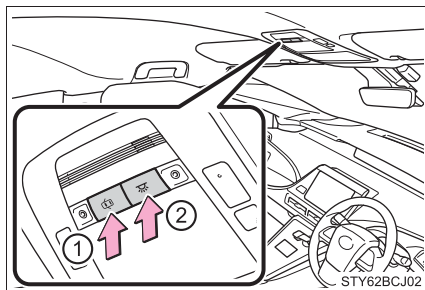
■ フロント

- ① スイッチを押して、押し込まれた位置にすると、ドア連動になる

ドアの開閉により、ランプが点灯・消灯します。

- ② スイッチを押すと、ランプが点灯する

もう一度スイッチを押すと、消灯します。

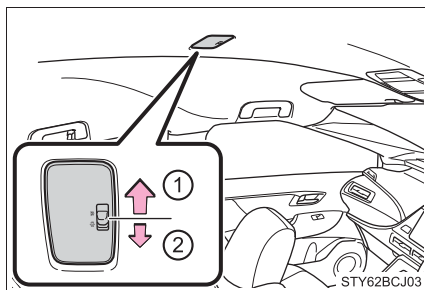


■ リヤ

- ① ランプが点灯する

- ② ドア連動になる

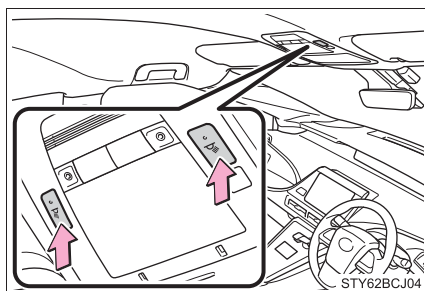
フロントインテリアランプをドア連動にしているとき、リヤドアの開閉により、ランプが点灯・消灯します。



パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する

スイッチを押して、押し込まれた状態になると点灯になります。



 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチが OFF の場合、次の室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

- フロントインテリアランプ
- リヤインテリアランプ
- パーソナルランプ
- ドアカーテシランプ
- バニティランプ
- トランクランプ

■ カスタマイズ機能

イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。

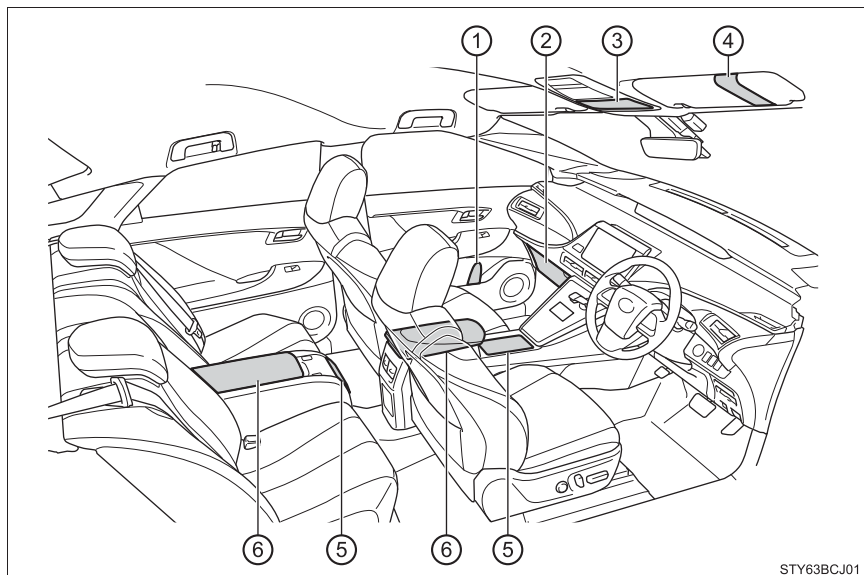
(カスタマイズ一覧：→ P. 454)

 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



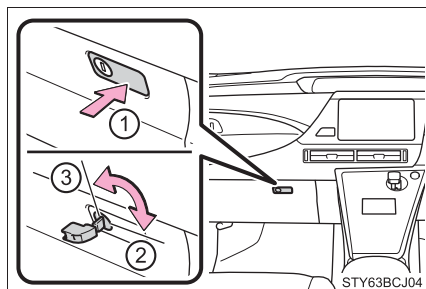
- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ① ボトルホルダー (→ P. 306) | ④ カードホルダー (→ P. 307) |
| ② グローブボックス (→ P. 303) | ⑤ カップホルダー (→ P. 305) |
| ③ 小物入れ (→ P. 307) | ⑥ コンソールボックス (→ P. 303) |

⚠ 警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 運転中や収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

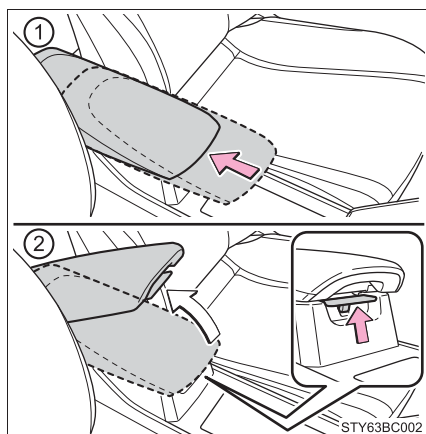
- ① ボタンを押して開ける
- ② メカニカルキーで施錠
- ③ メカニカルキーで解錠



コンソールボックス

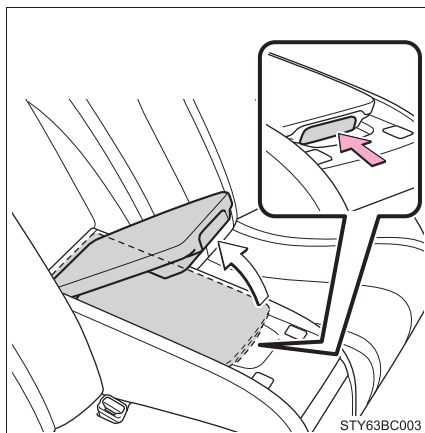
■ フロント

- ① アームレストをいちばんうしろまでスライドさせる
- ② ノブを握ってロックを解除し、開く



■ リヤ

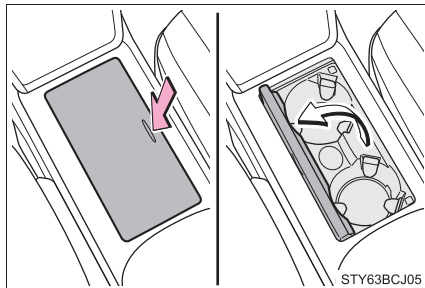
ボタンを押しながらフタを持ち上げる



カップホルダー

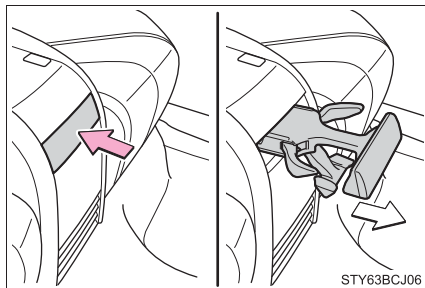
■ フロント

カップホルダーのフタを押して開ける



■ リヤ

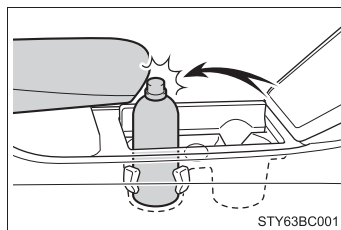
アームレストのカップホルダーを押して開ける



知識

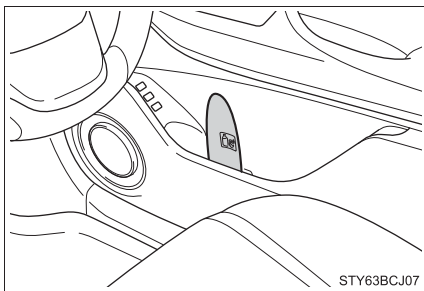
■ ペットボトルを収納するとき（フロント）

アームレスト側のカップホルダーにペットボトルを収納した際、アームレストをスライドさせると、ペットボトルと干渉しアームレストの動きをさまたげる場合があります。



⚠ 警告**■ 収納してはいけないもの**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
また、フタを閉じているときでも、中にものを収納しないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー**📖 知識****■ ボトルホルダーについて**

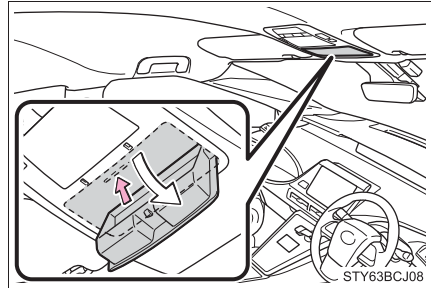
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 注意**■ 収納してはいけないもの**

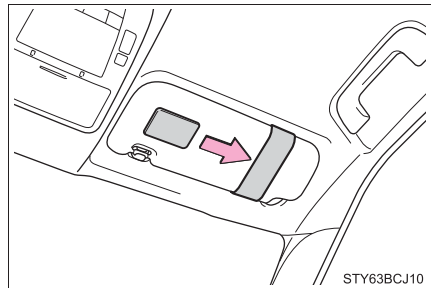
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

フタを押して開ける

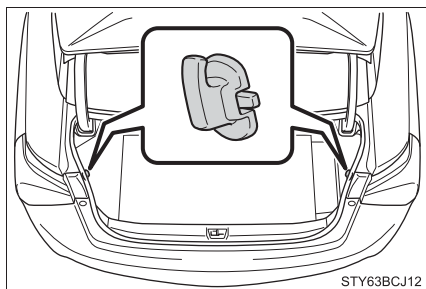


カードホルダー



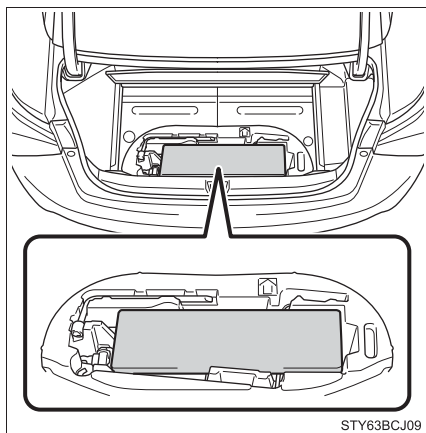
トランク内装備

買い物フック



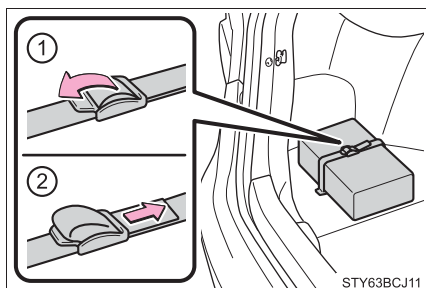
停止表示板収納スペース

ラゲージマットの下に停止表示板を収納することができます。



救急箱等固定用バンド

- ① ベルトをゆるめる
- ② ベルトを締める



 知識

■ 停止表示板の収納について

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

 注意

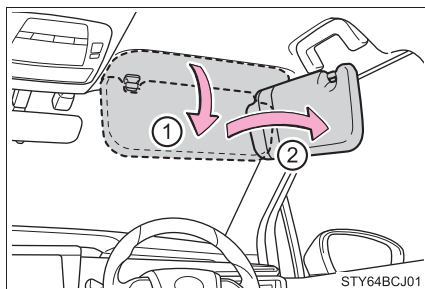
■ 買い物フックの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

その他の室内装備

サンバイザー

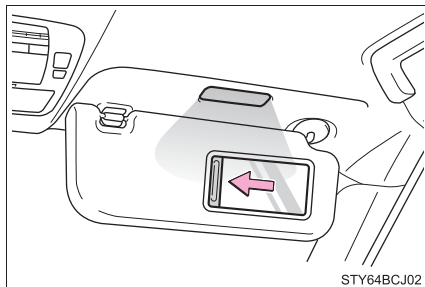
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティランプが点灯します。



⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

マルチインフォメーションディスプレイの  「設定」(→ P. 107) で時刻を調整することができます。

◆ 正時合わせ

メーター操作スイッチ (→ P. 108) の  または  を押し、 を選択して  を押す

時計の分が 00 になります※。

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00

1:30 ~ 1:59 → 2:00

◆ 時刻調整

- 1 メーター操作スイッチ (→ P. 108) の  または  を押し、 を選択して  を押す
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して “時”、“分” または “12/24 時間表示” を選択し、メーター操作スイッチの  または  を押して調整する
- 3 調整が終わったら  を押し、時刻を確認する

知識

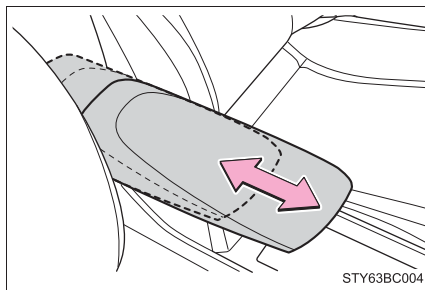
■ 時刻が表示されるとき

パワースイッチが ON モードのとき

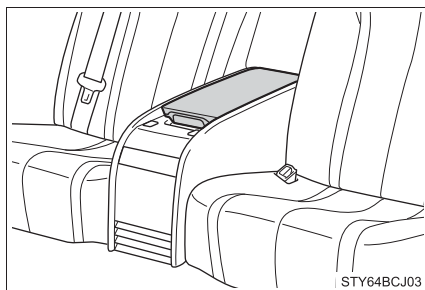
アームレスト

■ フロント

アームレストをスライドする



■ リヤ

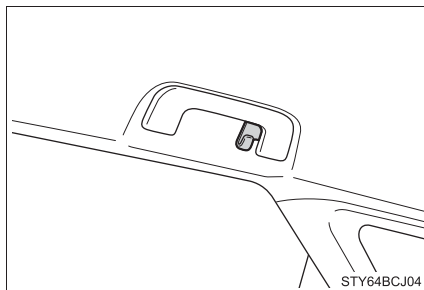


⚠ 注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

コートフック

コートフックは、リヤ席のアシストグリップに付いています。



⚠ 警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

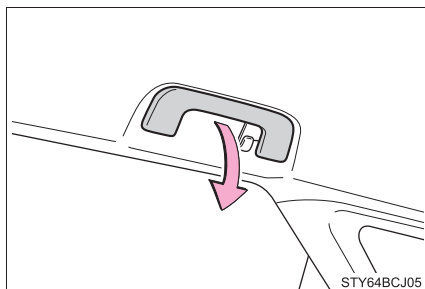
⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。
アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

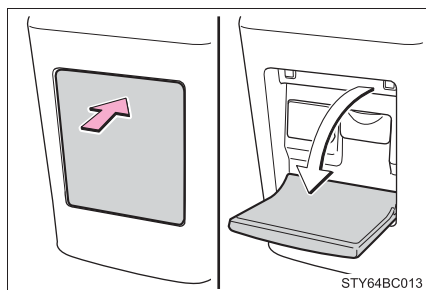
■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

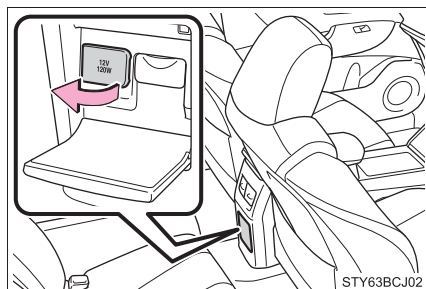
アクセサリースOCKET

DC12V/10A(消費電力 120W) 未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

- 1 フロントコンソールボックス背面のフタを押す



- 2 フタを開けて使用する



知識

■ 作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モード

⚠ 注意

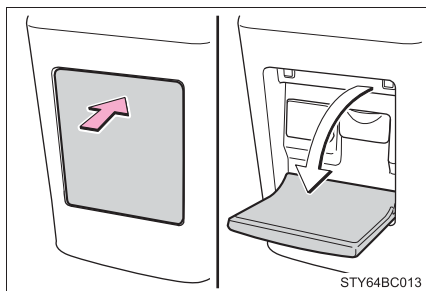
- ショートや故障を防ぐために、アクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、FC システムが停止した状態で、アクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

アクセサリコンセント

AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

マルチインフォメーションディスプレイの  「設定」(→ P. 107) で ON(作動) ・ OFF(停止) を切りかえる

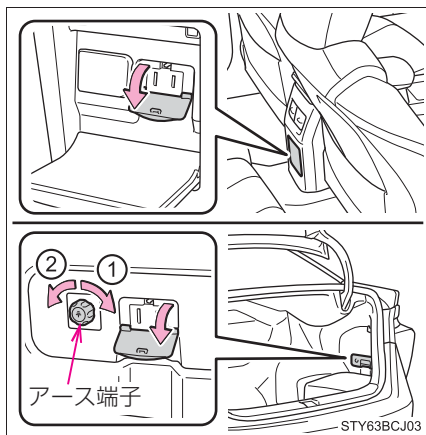
- 1 メーター操作スイッチ (→ P. 108) の  または  を押して **AC 100V** を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  を押し ON にする
ON を選択すると、AC100V 表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。
 を押すたびに ON/OFF が切りかわります。
- 3 フロントコンソール：
フロントコンソールボックス背面のフタを押す



トランクルーム：
トランクを開ける (→ P. 127)

- 4 フタを開けて使用する
コンセントは、コンソールとトランクの2か所にあります。
アース線のある電気製品を使用するときは、トランクのコンセントを使用し、アース線を接続してください。

- ① 締まる
- ② ゆるむ



■ 割り込み表示

FC システムを停止した時にアクセサリーコンセントを ON にしていた場合、次に FC システムを始動する時にアクセサリーコンセントの使用を選択できるように、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示させる設定ができます。(カスタマイズ一覧:→ P. 456)

知識

■ 使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■ アクセサリーコンセントについて

- AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。
- AC100V 電源を ON にした状態で、アクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては挿入時に大きな電流が流れ瞬間電力が 1500W をこえることがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、自動で AC100V 電源が OFF になることがあります。電気製品プラグ挿入後、再度 AC100V 電源を ON にしてください。
- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- アクセサリーコンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- 電源周波数の切りかえ (50/60Hz) のある機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器や医療機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■使用できないとき

AC100V 表示灯が消灯して、コンセントから AC 電源が出力されない場合、再度 AC100V 電源を ON にしても復帰しないときは、保護機能が作動していることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品のプラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかどうかを確認し、再度 AC100V 電源を ON にしてください。
- 電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V 電源を ON にしてください。
- 炎天下に駐車した直後など車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度 AC100V 電源を ON にしてください。

以上の処置を行っても復帰しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■寒冷地で使用するとき

外気温がー 15℃以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリコンセントが使用できないことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。

電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50Hz/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不十分な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーマーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停止した状態で窓を開けて使用してください。
- 故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- めれた手で電気製品のプラグを抜き挿ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに挿したりしないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
- アクセサリーコンセントの改造や分解・修理などはしないでください。また、車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに組みかえないでください。思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。修理については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 使用する電気製品の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

 警告**■ 駐車中または停車中に使用するとき**

駐車中または停車中に使用するとき、次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをPにしてください。
- 車庫内や雪が積もった場所など換気の悪い場所では使用しないでください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- 排気排水管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。
- 車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の浸入などに注意してください。アクセサリーコンセントに雨水などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。また、電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- アクセサリーコンセントは、照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

■ 接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。

なお、次のような機器は使用しないでください。

- 医療用機器
車両の状態によっては、一時的に AC 電源出力が断たれることがあります。
- 計量器・計測器など
AC 電源電圧を基準にした計測機器の場合は、精度が不安定になるおそれがあります。

 注意**■ ショートや故障を防ぐために**

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損したりするおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- アクセサリーコンセントには、AC100V 以外の電気製品を使用しないでください。また、最大消費電力の合計が 1500W を超えないようにしてください。
- アクセサリーコンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、使用中に AC アダプターが脱落したりするおそれがあります。
- お子さまに、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。
- アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。
- アクセサリーコンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 駆動用電池の残量によっては、アクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）

ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。

ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

「Qi」および「Qi」マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の登録商標です。



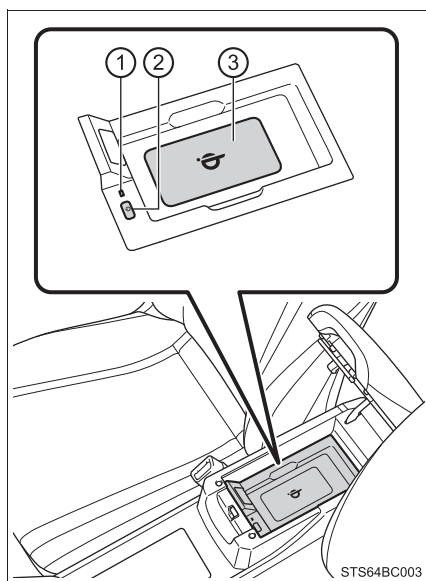
■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



■ 各部の名称

- ① 作動表示灯
- ② 電源スイッチ
- ③ 充電エリア



■ 充電する

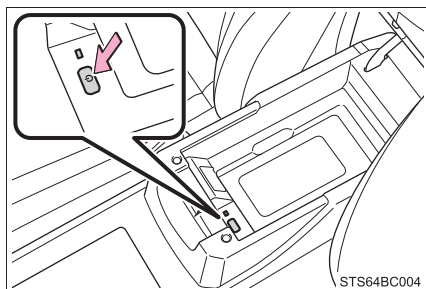
- 1 コンソールボックスのフタを開ける (→ P. 303)

- 2 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態 (ON/OFF) は、FC システムのパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

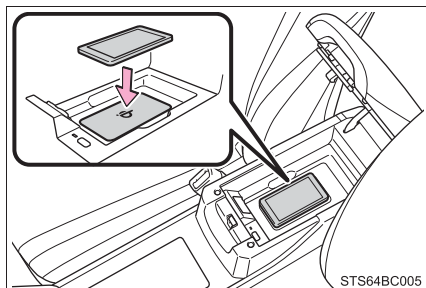


- 3 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。



充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

● 再充電機能

- ・ 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- ・ 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時 ※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）	車両とワイヤレス充電器の通信不良	トヨタ販売店へお問い合わせください。
3 回連続の点滅をくり返す（橙色）	異物検知 携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。
4 回連続の点滅をくり返す（橙色）	ワイヤレス充電器内の温度上昇	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

 知識

■ 使用条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ 使用できる携帯機器について

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。
- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■ スマートエントリー&スタートシステムの使用について

スマートエントリー&スタートシステムが作動中は、一時的に充電が停止することがありますが、異常ではありません。

■ 携帯機器にカバーやアクセサリを付けるとき

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリをはずしてください。

■ 充電中に、AM ラジオにノイズが入るとき

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。

また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■ 充電についての留意事項

- 車室内で電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。
- 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。
充電中に携帯機器が温くなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■ 作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は “ジー” と作動音がしますが、異常ではありません。

■ 清掃について

→ P. 355

 警告**■ 車両走行中はコンソールボックスのフタを必ず閉じてください**

急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、携帯機器が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 運転中

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ 故障や火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 布などをかぶせて充電しない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ワイヤレス充電器に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、コンソールボックスのフタを閉めておく
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 強い力や衝撃をかけない

 注意**■機能が正常に働かないおそれのある状況**

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電
- 充電エリアと携帯機器の間に異物がある
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- 携帯機器の充電面を上にして置いた
- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われず、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けしないでください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

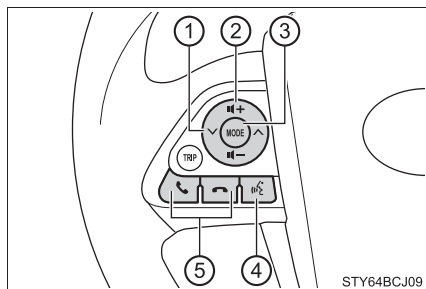
■補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各取扱書をご覧ください。

- ① TUNE/TRACK スイッチ
CD、ラジオなどの操作
- ② 音量調整スイッチ
音量を調整する
- ③ MODE (モード切り換え) スイッチ
電源を入れる、モードの切り換え
- ④ トークスイッチ
音声認識モードの操作
- ⑤ 電話スイッチ
ハンズフリー機能の操作



電源を入れる

Ⓒを押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

装備されたオーディオにより “ピッ” と音が鳴ることがあります。

モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき、Ⓒを押す

押すごとにモード (CD、ラジオなど) が切りかわります。

音量を調整する

音量を大きくするときはⒶ、小さくするときはⒷを押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

音声認識モードを開始する

を押す

ハンズフリー機能の操作

■ 着信時の機能

着信時に 、スイッチで次の操作ができます。

- 電話をとる

スイッチを押す

- 応答を保留にする

スイッチを押す

- 着信を拒否する

スイッチを長押しする

■ 発信中、通話中の機能

- 電話を切る

スイッチを押す

■ 発信機能

- 電話をかける

スイッチを押す

警告

■ 事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

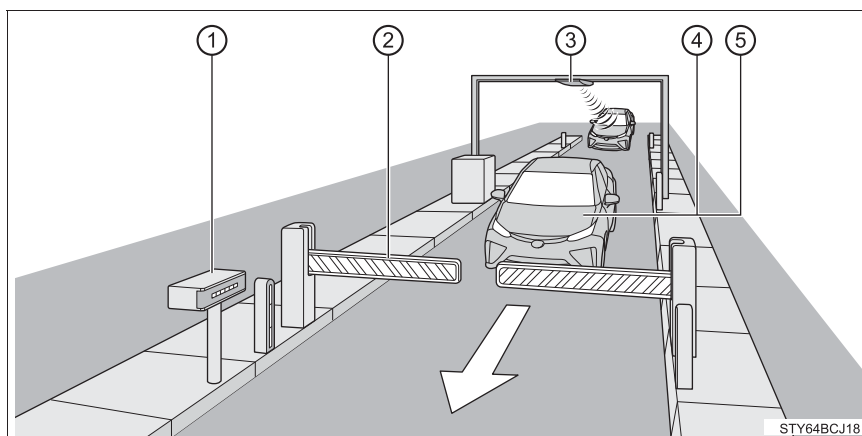
ETC2.0 ユニット (VICS 機能付)

装着されているナビゲーションシステムによっては、ETC2.0 サービスを利用することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

ITS スポット対応 DSRC ユニット (ETC・VICS 機能付) 装着車の場合は、ETC2.0 ユニット (VICS 機能付) を、ITS スポット対応 DSRC ユニット (ETC・VICS 機能付) と読み替えて本書をご使用ください。

ETC システム

ETC (エレクトロニックトールコレクション) システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。路側無線装置と車両の ETC2.0 ユニットとのあいだで通信を行い、料金はお客様が登録された ETC カードの引き落とし口座から後日引き落とされます。



① 路側表示器

料金所の ETC レーンに設置されています。
進入車両に対し、メッセージを表示します。

② 発進制御装置 (開閉バー)

料金所の ETC レーンに、必要に応じて設置されています。
通過車両の発進・停止を制御するもので、通信が正常に行われると開きます。

③ 路側無線装置

料金所の ETC レーンに設置されています。

料金精算のため、車両の ETC2.0 ユニットとの通信を行うためのアンテナです。

④ ETC2.0 ユニット

車両に装着されています。

ETC カードに格納されている、料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

⑤ ETC カード

ETC2.0 ユニットに装着する、IC チップを搭載した ETC2.0 ユニット用カードです。

IC チップに、料金精算に必要なデータを保持します。

警告

■ ご利用の前に

安全のため、運転者は走行中に ETC カードの抜き差し、および ETC2.0 ユニットの操作を極力しないでください。

走行中の操作は、ハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

■ 料金所を通過するとき

- ETC レーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約 20km/h 以下の安全な速度で進入してください。
- ETC レーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。

 注意**■ その他のサービス（スマート IC など）ご利用時**

その他、ETC2.0 ユニットを用いたサービス（スマート IC など）には、さまざまな制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

■ ETC カードを挿入する前に

ETC カードの有効期限切れにご注意ください。ETC カードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。お手持ちの ETC カードに記載された、有効期限をあらかじめ確認してください。

■ ETC カードを挿入したあとに

- ETC を利用する際は、あらかじめ ETC カードが確実に ETC2.0 ユニットに挿入されていることと、ETC2.0 ユニットが正常に作動していることを確認してください。
- ETC2.0 ユニットが ETC カードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前での ETC カードの挿入はエラーの原因となる場合があります。

■ 料金所を通過するとき

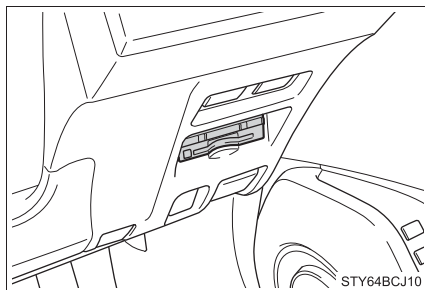
ETC レーンに設置されている開閉バーは、ETC2.0 ユニットと路側無線装置のあいだの通信、あるいは ETC2.0 ユニットと ETC カードとの通信が正常に行われなかった場合は、開かないことがありますのでご注意ください。

ETC2.0 ユニットについて

■ 取り付け位置

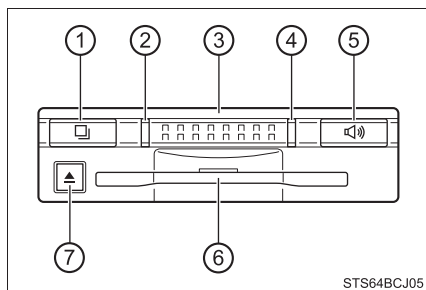
運転席右下にあります。

パワースイッチをアクセサリモード、または ON モードにすると、ETC2.0 ユニットの電源が入ります。



■ 各部の名称

- ① 利用履歴確認スイッチ
- ② 緑ランプ
- ③ スピーカー部
- ④ 橙ランプ
- ⑤ 音量調整スイッチ
- ⑥ ETC カード挿入口
- ⑦ イジェクトスイッチ



 知識**■ ETC を利用する前に**

はじめて ETC システムを利用するときは、あらかじめ ETC2.0 ユニットのセットアップ手続きが必要です。

- 詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- セットアップ手続きには、別途費用が必要です。

■ 適合シールについて

本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼り付けられているシールはその証明ですので、はがさないでください。

また、本製品を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

■ フロントウィンドウガラスの汚れや積雪がひどい場合は

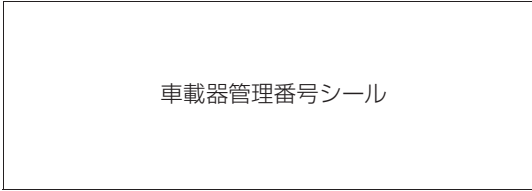
それらを取り除いてください。

■ お車のナンバープレートが変更になった場合は

再度 ETC2.0 ユニットのセットアップ手続きが必要になりますので、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 車載器管理番号について

車載器管理番号は、19桁の固有の番号で ETC の各種割引サービスを受ける場合、あるいは今後の新たなサービスを受けるにあたって必要な番号です。「ETC 車載器セットアップ申込書・証明書（お客様保存用）」を大切に保管していただくと共に、車載器管理番号シールを下記に貼り、保管してください。



車載器管理番号シール

■ 障害者割引制度について

ETC 無線走行で障害者割引の適用を受けるには、事前に福祉事務所等での手続きと、併せて有料道路事業者が設置する窓口への登録が必要になります。両方の手続きがなされていない場合、ETC 無線走行での障害者割引の適用がされません。

■電波干渉について

ETC2.0 ユニットのアンテナ（インストルメントパネル中央付近に内蔵されています）の近くに電波を発する電子機器を設置しないでください。無線通信が干渉して、開閉バーが開かない、料金決済サービスが正しく受けられない原因となる可能性があります。

●干渉の可能性がある主な機器

- ・ Wi-fi を搭載した機器（モバイルルータ、携帯電話等）
- ・ トヨタ純正品以外の無線機器

●干渉が発生したときは

- ・ ETC2.0 ユニットのアンテナからできるだけ遠ざけるか、干渉する機器を取りはずしてください
- ・ Wi-fi を搭載した機器は、2.4GHz ワイヤレスネットワークを選択してください（選択可能な場合）

⚠ 警告

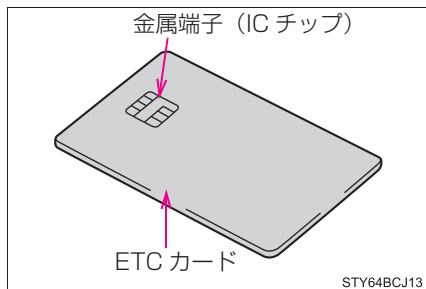
車両 1 台に対して複数の ETC または ETC2.0 ユニットを取り付けると、ゲートの開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 路側無線装置との通信のさまたげにならないよう、ETC2.0 ユニットのアンテナ（インストルメントパネル中央付近に内蔵されています）上方にはものを置かないでください。
- ETC2.0 ユニットの内部に異物などを入れないでください。ETC2.0 ユニットが故障するおそれがあります。
- ETC2.0 ユニットに衝撃を与えないでください。ETC2.0 ユニットが故障、破損するおそれがあります。
- めれた手で ETC2.0 ユニットにふれたり、水（液体など）を付着させないでください。ETC2.0 ユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。
- 汚れたときは、やわらかい乾いた布で汚れをふき取ってください。ワックス・シンナー・アルコールなどは絶対に使用しないでください。ETC2.0 ユニットが変形・故障する場合があります。

ETC カードについて

ETC カードの取得には、お客様自身による、別途申し込みが必要です。



⚠ 警告

ETC カードには有効期限があります。
有効期限内の ETC カードをご利用ください。有効期限切れ ETC カードでは、開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ETC カードの取り扱いについては、ETC カード発行会社の提示する注意事項に従ってください。
- セロハンテープ・シールなどが貼ってある ETC カードや金属端子 (IC チップ) が汚れている ETC カードは使用しないでください。
ETC2.0 ユニットが正常に作動しなくなったり、ETC カードが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

ETC カードを挿入する

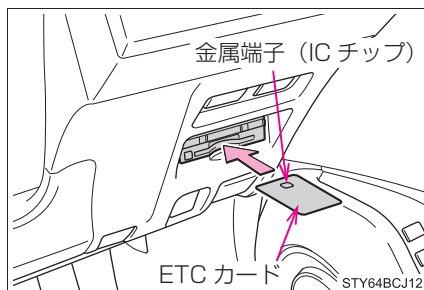
1 FC システムを始動する

ETC2.0 ユニットの電源が入り、緑ランプと橙ランプが同時に点灯し、しばらくすると消灯します。

2 ETC カードを ETC2.0 ユニットに挿入する

図のように正しい向きでしっかりと挿し込みます。

「ピッ」とブザーが鳴り、緑ランプが点滅します。



3 ETC カードが認証される

正しく認証された場合：

音声案内	「ボーン ETC カードが挿入されました。」
ETC2.0 ユニット	緑ランプが点灯したまま

ETC システムは、この状態でご利用ください。

正しく認証されなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコード（→ P. 345）を音声でお知らせします。

知識

■ 橙ランプが点灯しているときは

ETC2.0 ユニットのセットアップ手続きができていないので使用できません。

■ 有効期限切れ・解約済みの ETC カードを挿入したとき

- エラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。
- ETC と連動するナビゲーションシステム※を装着されている場合、有効期限切れ通知機能が働きます。（→ P. 339）

※ 装着されたナビゲーションシステムの機種によっては、通知が行われない場合があります。

 注意**■ 緑ランプが点滅しているとき**

ETC カードを抜かないでください。
ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

■ エラーが発生したとき

ETC2.0 ユニットや ETC カードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」(→ P. 345) の記載に従って対処してください。

■ FC システム始動時にエラーが発生したとき

いったん FC システムを停止させ、再度始動してみてください。
エラーが解消しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ETC カード挿入時にエラーが発生したとき

いったん ETC カードを抜き、挿入方向を確認して、再度挿し込んでみてください。エラーが解消しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ETC カードを抜き取る

1 安全な場所に停車する

2 FC システムを停止する前に  を押す

ETC カードを抜き取る前に FC システムを停止すると、「カード抜き忘れ警告」でお知らせします。

3 ETC2.0 ユニットから ETC カードを抜き取る

有効期限切れ通知

ETCと連動するナビゲーションシステム※¹を装着されている場合、ETCカードを挿入したとき、または ETC カード挿入状態で次の操作をしたとき、下表のように有効期限切れ通知が行われます。

パワースイッチをアクセサリモード、または ON モードにしたとき

ETC カードの状態	音声案内 ※ ²	画面表示 ※ ²
有効期限まで 1ヶ月以内の場合	「ポーン ETC カードの有効期限は今月末です カードをお確かめください」	「ETC カードの有効期限は今月末です カードをお確かめください」
有効期限切れの場合	「ポーン ETC カードの有効期限が切れています」	「ETC カードの有効期限が切れています」

※¹ 装着されたナビゲーションシステムの機種によっては、通知が行われない場合があります。

※² FC システム始動後、すぐに ETC カードを挿入すると、音声案内および画面表示がされないことがあります。

知識

■ ETC カードの盗難を防ぐために

ETC カードを残したまま、お車から離れないでください。

■ カード抜き忘れ警告

ETC カードを抜き取る前に FC システムを停止すると、「ピー カードが残っています」という音声でお知らせします。

- この機能を働かないようにする（OFF にする）ことができます。

■ カード抜き忘れ警告の設定変更

ETC カードが挿入され、緑ランプが点灯している状態で  と  を同時に押し続けてください。（約 2 秒間）

- 操作をするごとに「ピッピッ」と音がし、機能の ON/OFF が切りかわります。
- ON/OFF の切りかえ設定後、設定内容が音声にて通知されます。
- 操作は、安全な場所に停車した上で行ってください。

⚠ 注意

■ お車から離れるとき

ETC カードを車内に残したままにしないでください。車内の温度上昇により、ETC カードが変形したり、ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

車両走行中のランプ表示と通知音について

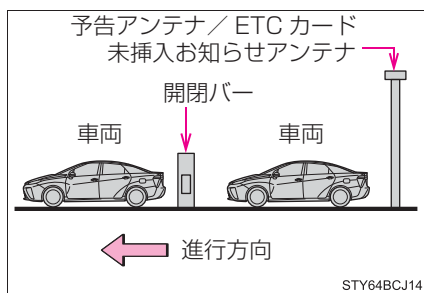
車両走行中は、状況に応じて ETC2.0 ユニットのランプ表示がかわり、併せて音で通知されます。

■ ETC ゲート（入口）・検札所・予告アンテナ・ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したとき

通信が正常に行われた場合：

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音 ※	「ピンポン」

※ ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したときは、通知されません。



通信が正常に行われなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音でお知らせします。

「統一エラーコード一覧」（→ P. 345）の記載に従って対処してください。

■ ETC ゲート（出口／精算用）を通過したとき

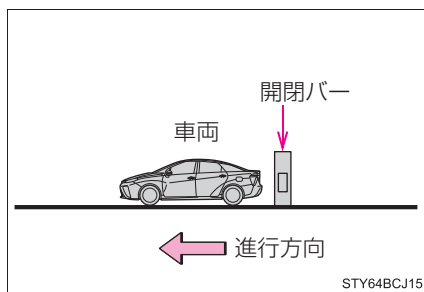
通信が正常に行われた場合：

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音	「ピンポン」
音声案内	通行料金を通知

通信が正常に行われなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音でお知らせします。

「統一エラーコード一覧」（→ P. 345）の記載に従って対処してください。



 知識

■ 通知音について

道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1つのETCゲートで2回通知されることがあります。

■ 道路設備について

- 予告アンテナは、料金所の手前に設置され、ETC2.0ユニットと通信し、ETCゲートを利用できるかどうかをETC2.0ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- ETCカード未挿入お知らせアンテナは、料金所の手前などに設置され、ETC2.0ユニットと通信し、ETC2.0ユニットに正しくETCカードが挿入されていない場合に、ETC2.0ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- 予告アンテナ・ETCカード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と設置されていない場合があります。

■ ETCカードを挿入しないまま走行したとき

ETCカードが未挿入の状態、予告アンテナやETCカード未挿入お知らせアンテナを通過した場合は、橙ランプが点滅し、「**ポーン ETCゲートを通過できません**」または「**ポーン ETCカードが挿入されていません**」という音声でお知らせします。これは、ETCシステムが利用できないことを通知するもので、ETC2.0ユニットの故障ではありません。

■ 通行料金の通知について

通知される通行料金は、割引きなどにより実際と異なる場合があります。

■ ETC無線通信ができなかったとき

再度無線通信を行うためのリカバリーアンテナが設置されている料金所があります。対応方法については、料金所係員の指示に従ってください。

 警告**■ 走行時**

- ETC ゲート進入時は、十分減速してください。進入速度が速すぎると、ETC レーンに設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ETC ゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示に従ってください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ 走行時**

- 走行中、運転者は ETC2.0 ユニットのランプ表示を見ないでください。
- ETC ゲート通過時は、ETC ゲート付近に表示されている案内に従って走行してください。
- その他、道路事業者の発行する利用方法に従ってください。
- 必ず、ETC ゲート（入口）で使用した ETC カードで、ETC ゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。
- ETC カード未挿入お知らせアンテナ・ETC ゲート・検札所・予告アンテナ付近では、ETC カードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

利用履歴の確認

有料道路の利用日および通行料金を音声で確認できます。

停車中で、ETC カードが挿入され、緑ランプが点灯しているときに利用できます。

1 を押す

最新の利用履歴が案内されます。

2 履歴をさかのぼるときは再度 を押す

押すごとに古い利用履歴に切りかわります。

最も過去の履歴の次は、最新の履歴にもどります。

利用履歴発話中は、緑ランプが点滅します。

案内終了後、約 1 秒以上たってから  を押した場合は、最新の利用履歴から案内されます。

知識

■ 利用履歴について

- 利用履歴はETCカードに記録されるため、記録件数は使用するETCカードにより異なります。(最大 100 件)
- 利用履歴は消去することができません。ただし、利用履歴の最大記録件数をこえた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。
- 利用履歴がない場合は、「**利用履歴はありません**」と案内されます。
- 利用日の情報が正しくない場合は、「**利用日付は不明です**」と案内されます。
- 通行料金の情報が正しくない場合は、「**料金は不明です**」と案内されます。

警告

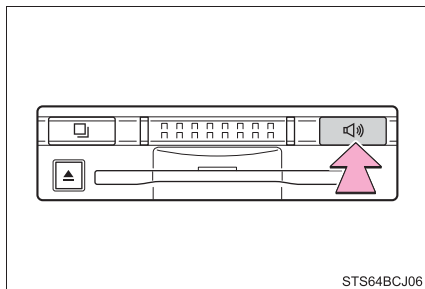
ETC ゲート付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるなど、ETC レーンに設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

音量調整

 を押す

調整結果が音声で案内されます。

音量	音声案内
1 ～ 4	「音量〇〇です」
0	「音声案内を中止します」



 知識

■ 音量調整について

- 音量調整は、次のような案内に有効です。
 - ・ 未セットアップ状態の通知
 - ・ エラー発生時のブザー音
 - ・ カード抜き忘れ警告
 - ・ 利用履歴の確認
 - ・ 音量調整時の案内
- 音声案内を中止（音量 0）、または音量 1 に設定してあっても、エラー発生時には音量 2 で出力されます。
- ETC2.0 ユニットが未セットアップ状態（セットアップ手続きをしていない状態）の通知は、ETC2.0 ユニットの消音（音量 0）にすると出力されません。

ETC2.0 ユニットでセットアップ情報を確認する

ETC2.0 ユニットでのセットアップ情報を音声で確認できます。

- カード未挿入状態で、ETC2.0 ユニットの電源を入れ、緑ランプと橙ランプが点灯中に  を押し続けると、セットアップ情報通知モードが起動します。
- セットアップ情報通知モードに入ると、車載器管理番号を通知します。その後、 を押すごとに、型式登録番号、型式、ETC セットアップカード発行年月日、DSRC セットアップカード発行年月日の順に通知します。DSRC セットアップカード発行年月日の通知の後に  を押すと、車載器管理番号の通知の戻ります。
- セットアップカード情報通知モード起動後は、以下の操作を行うことにより、モード状態を抜け、ETC2.0 ユニットは通常の動作となります。
 - ・ ETC カード挿入
 - ・ パワースイッチの操作
 - ・ セットアップ情報通知の発話終了から約 1 分後

記録された統一エラーコードの確認

ETC2.0 ユニットは、最後に発生した統一エラーコード（→ P. 345）を記録しています。次の手順で確認できます。

- 1 ETC カードを抜く（カードが挿入されている場合のみ）
- 2  を押し続ける（約 2 秒以上）

最後に発生した統一エラーコードを音声でお知らせします。

統一エラーコード一覧

ETC の利用中にエラーが発生したときは、問題の概要と共に、統一エラーコード（エラー 01 ～ 07）を音声でお知らせします。

次の表に従って、それぞれ対処してください。

統一エラーコード	異常の内容	異常の原因	対処方法
01	ETC カード挿入異常	・ 通信時に ETC カードが挿入されていない ・ ETC カードの挿入状態が悪い	ETC カードの挿入状態をご確認の上、再度挿入してください。
02	データ処理異常	・ ETC カードへの読み出し、書き込みエラー ・ ETCカードとETC2.0ユニットの接点不良（ETC カードアクセス中の瞬断） ・ 読み出し中、書き込み中カードのイジェクト	ETC カード挿入時： 挿入された ETC カードのデータが読み出せませんでした。再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。 ETC ゲート通過前： 料金所にて車両の停止が案内されることがあります。車両停止後、料金所係員の指示に従ってください。 ETC ゲート通過後： 次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。料金所係員のいる一般レーン（ETC /一般共用レーンを含む）へ進入してください。

統一エラーコード	異常の内容	異常の原因	対処方法
03	ETC カード異常	・ ETC カードが故障している ・ ETC カード以外のカードが挿入され、通信しない ・ ETC カードの誤挿入（裏面、挿入方向違い）	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認の上、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
04	ETC2.0 ユニット故障	自己診断の結果、ETC2.0ユニットの故障と判断された	再度 FC システムを始動してみてください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
05	ETC カード情報の異常	・ ETC カードとの認証エラー ・ ETC カード以外の IC カードが挿入 ・ 認証中 ETC カードのイジェクト ・ 未セットアップ状態で ETC カードの挿入	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認の上、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。

統一エラーコード	異常の内容	異常の原因	対処方法
06	ETC2.0 ユニット情報の異常	路側無線装置との認証エラー	ETC2.0ユニットと料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。
07	通信異常	路側無線装置との通信が途中で終了した	料金所係員の指示に従ってください。
	アンテナ接続異常	ETC アンテナの結線が外れている場合	カードを抜くと異常警告が止まります。ETC の利用を中止してトヨタ販売店へお問い合わせください。

知識

■この場合は異常ありません

- ETC カード未挿入お知らせアンテナ等と通信した際、統一エラーコード（07）と通知されることがありますが、ETC2.0 ユニットの故障ではありません。
- ETC2.0 ユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムなどが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、統一エラーコード（01）または（07）と通知されることがありますが、ETC2.0 ユニットの故障ではありません。

■ETC ゲート通過後にエラーが発生した場合

ETC カードを抜くと、エラー音が停止します。再度、ETC カードを挿入すると、「ポーン ETC カードが挿入されました」の音声と同時に緑ランプが点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。

お手入れのしかた

7

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	350
内装の手入れ.....	354

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	357
ガレージジャッキ	360
ウォッシャー液の補充	362
タイヤについて	363
タイヤの交換.....	366
タイヤ空気圧について	372
エアコンフィルターの 交換	374
電子キーの電池交換	376
ヒューズの点検・交換	378
電球（バルブ）の交換	381

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ セルフリストアリングコートについて

お車のボデー（樹脂部品を除く）には、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から 5 ～ 8 年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。
- パワースイッチを OFF にしてください。

■スマートエントリー & スタートシステムについて

- 電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2m 以上離れた場所にて保管して、洗車などをしてください。(電子キーの盗難に注意してください)。
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー & スタートシステムの作動を停止する (→ P. 133)

■アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します (→ P. 152) が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

- 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す
- 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす
- 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す
- 4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る
- 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
(汚れの量や種類により、回復時間は異なります)

⚠ 警告

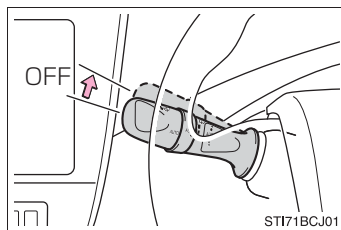
■ 洗車をするとき

モータールーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。
(→ P. 195)

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ ブラインドスポットモニターについて

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

 注意**■ ランプの清掃**

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 洗車をするとき

燃料充てん口のキャップをはずして、直接充てん口に水をかけないでください。充てん口に水が入ると、故障するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。(→ P. 195)
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するとき

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ FC スタック
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% にうすめて使用してください。
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

 警告

■ 車両への水の浸入

- 床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→ P. 77)

駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 34)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- おくだけ充電(ワイヤレス充電器)(→ P. 322)をぬらさないでください。発熱によるやけど、または感電により重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするとき(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウィンドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するとき

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。(→ P. 204)

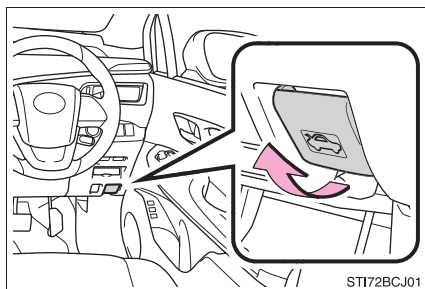
■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するとき

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

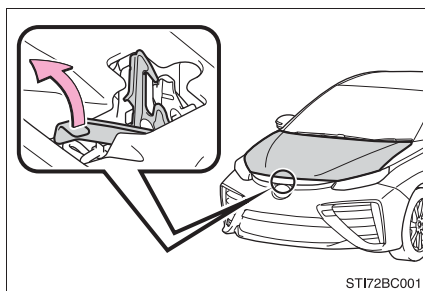
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

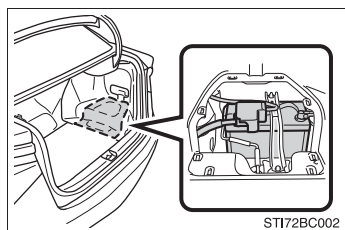


知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはトランク（運転席側）のカバー内にあり、モータールームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）

補機バッテリーがあがってしまったときは、モータールーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 433）



警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合

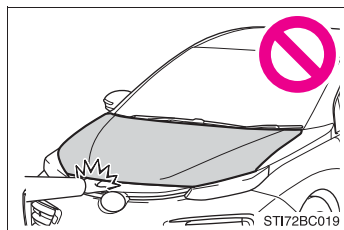
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ モータールーム点検後の確認

モータールーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをモータールーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、モータールーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**■ 補機バッテリーの交換について**

交換する際はこの車両専用品もしくは同等品をご使用ください。専用品または同等品以外を使用すると、補機バッテリーから発生するガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

 注意**■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために**

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

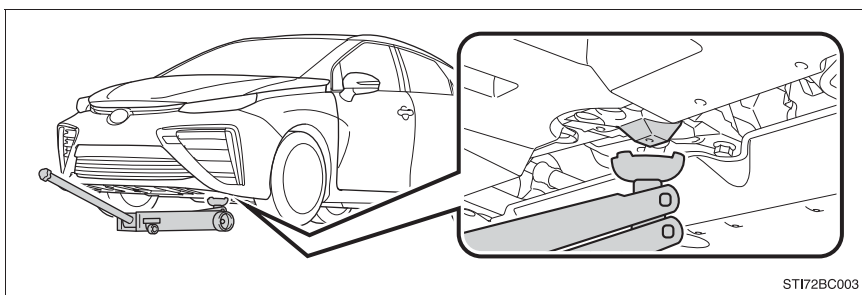
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

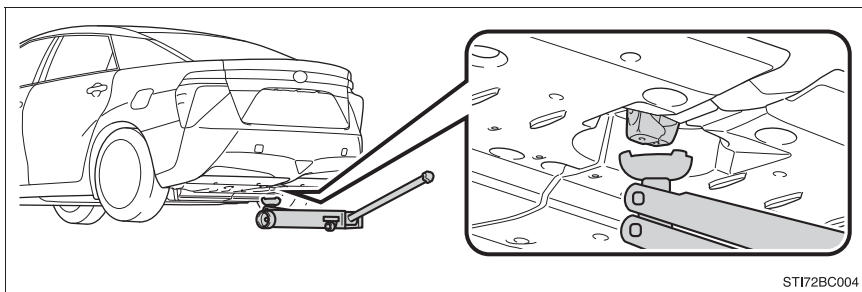
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側

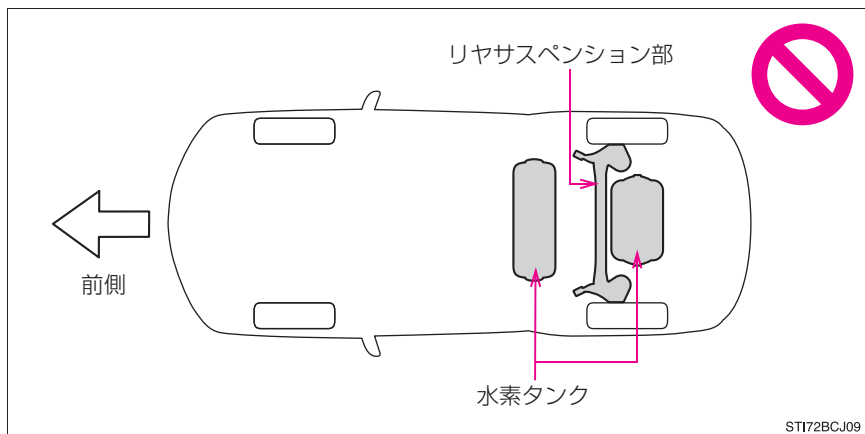


◆ リヤ側



⚠ 警告**■ 車両を持ち上げるとき**

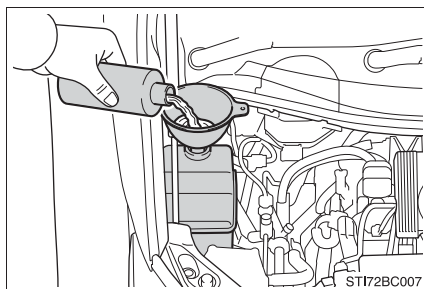
- ガレージジャッキを使用するときに、誤った位置でセットし車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 水素タンクやリヤサスペンション部などでジャッキアップしない



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

タンク側面から液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けてウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

FC システムが熱いときや FC システム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、FC システムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水や不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

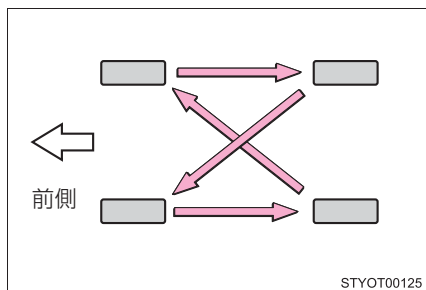
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



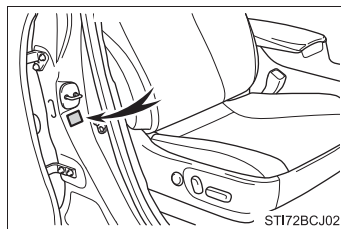
知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧 ※ kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪
215/55R17 94W	230 (2.3)	230 (2.3)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ 点検・交換するとき

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

⚠ 警告

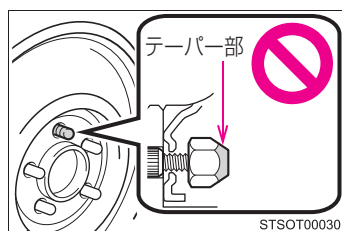
■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの交換

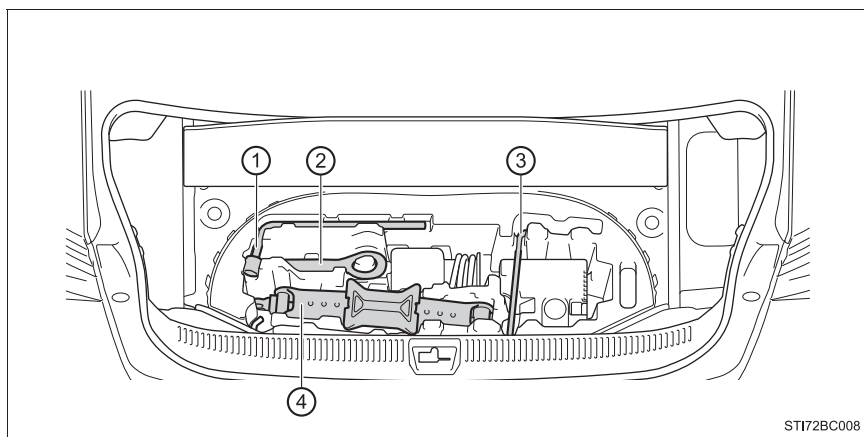
ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりとける
- Pポジションスイッチを押して、シフトポジションをPにする
- FCシステムを停止する

工具とジャッキ位置



① ホイールナットレンチ

③ ジャッキハンドル

② けん引フック

④ ジャッキ

警告**■ ジャッキの使用について**

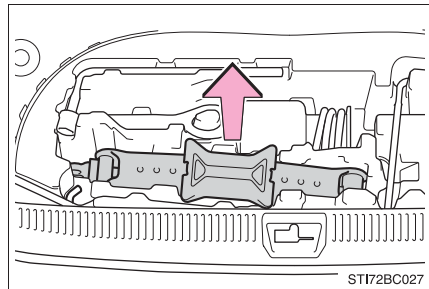
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使
用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に
使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、FC システムを始動したり車を走らせ
ない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけ
てから下げる

ジャッキの取り出し方

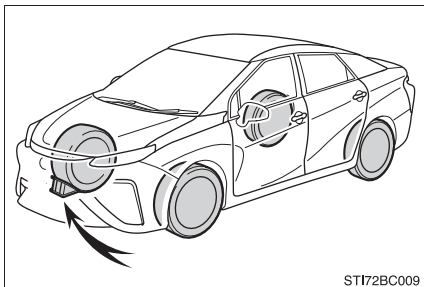
- 1 ラゲージマットを取りはずす
- 2 ジャッキを取り出す



タイヤの交換

1 輪止め※をする

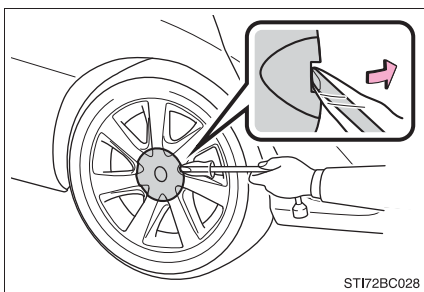
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。



ST172BC009

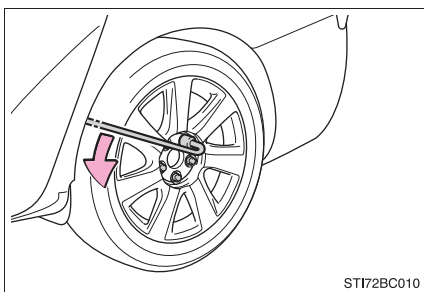
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 センターオーナメントを取りはずす



ST172BC028

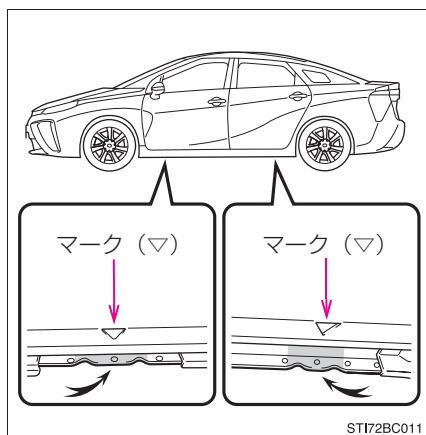
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



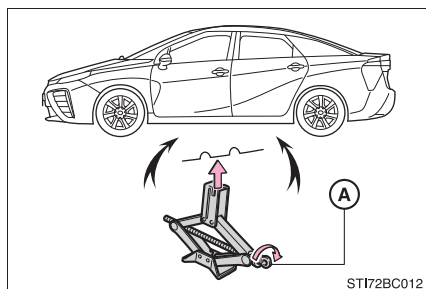
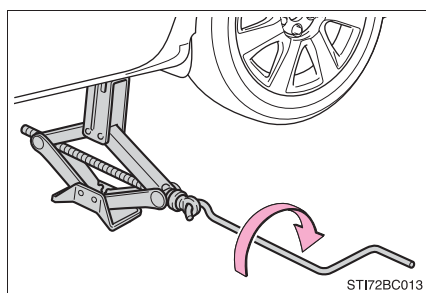
ST172BC010

4 ジャッキセット位置を確認する

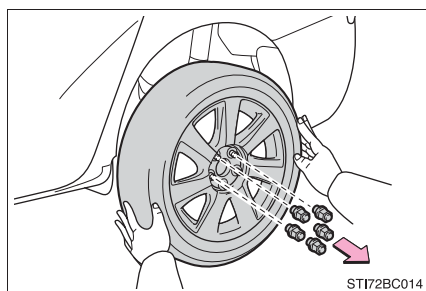
ジャッキセット位置を示すマーク (▽) がサイドマッドガード下側に付いています。

**5** ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

ジャッキが挿入しにくいときは、横向きにして挿入してください。

**6** タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる**7** ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

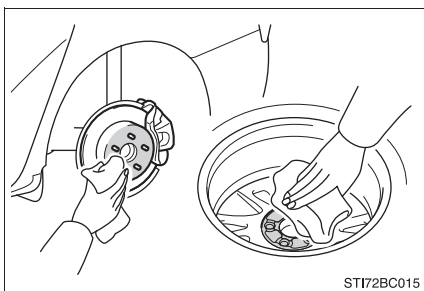
■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパ部を内側にして取り付ける (→ P. 365)

タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れを拭き取る

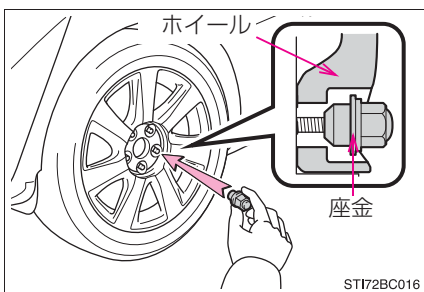
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



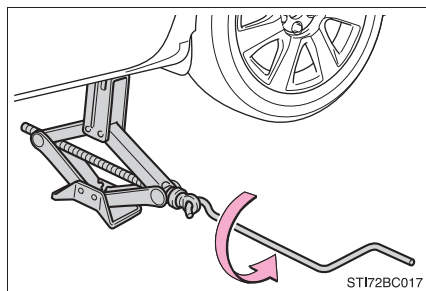
STI72BC015

2 タイヤを取り付け、タイヤがたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールにあたるまで仮締めする。

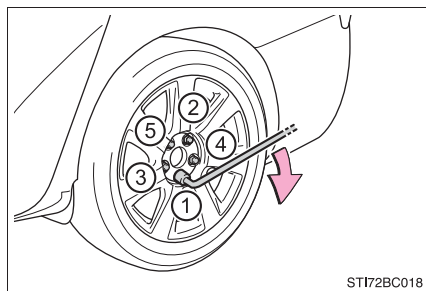


STI72BC016

3 車体を下げる**4** 図の番号順でナットを 2、3 度
しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

**5** センターオーナメントを取り付ける**6** すべての工具・ジャッキを収納する**⚠ 警告****■ ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

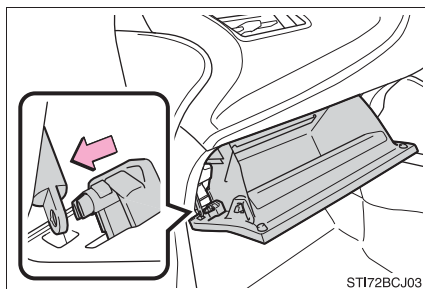
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

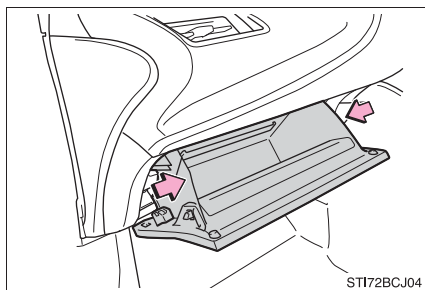
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

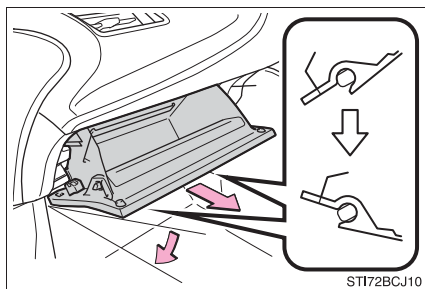
- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



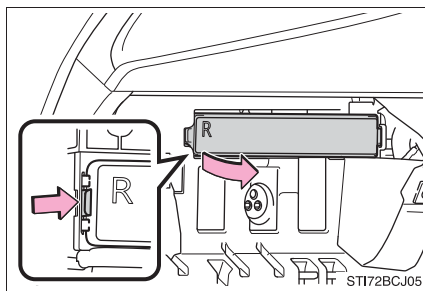
- 3 グローブボックス右側面を内側に押して右上部のツメをはずし、左側面を内側に押して左上部のツメをはずす



- 4 グローブボックスを全開位置からさらに下げて、下部のツメをはずして取りはずす

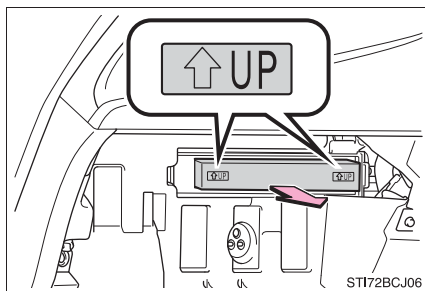


5 フィルターカバーを取りはずす



6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したとき

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

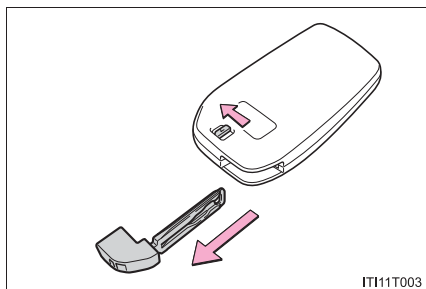
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

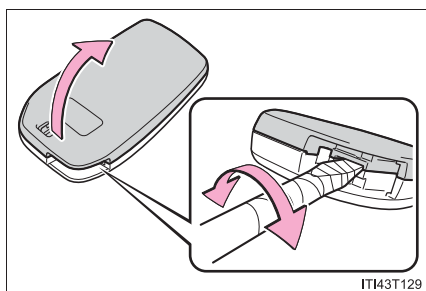
電池交換のしかた

- 1 メカニカルキーを抜く(→P. 118)



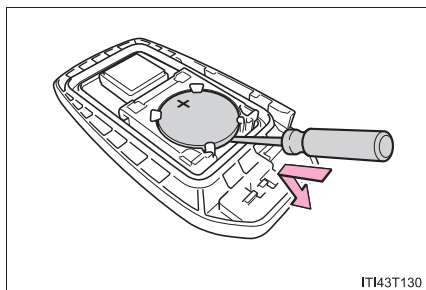
- 2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



- 3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

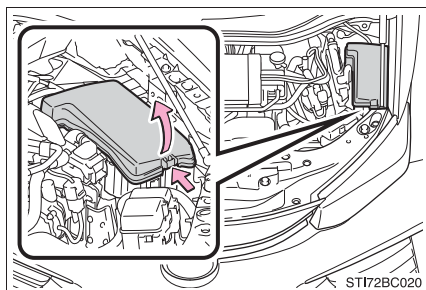
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

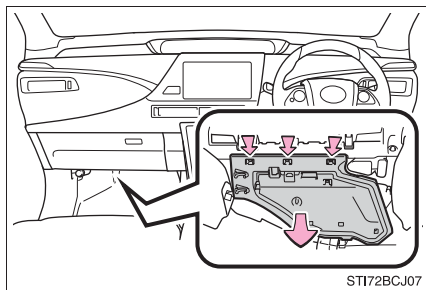
▶ モータールーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

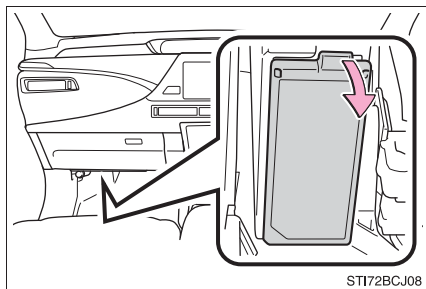


▶ 助手席足元

足元のカバーを取りはずす

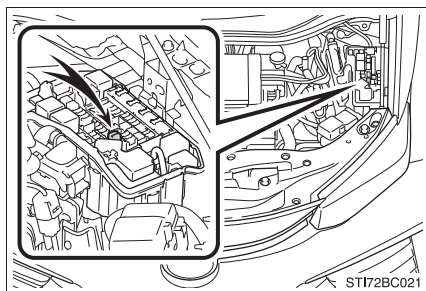


ヒューズボックスカバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

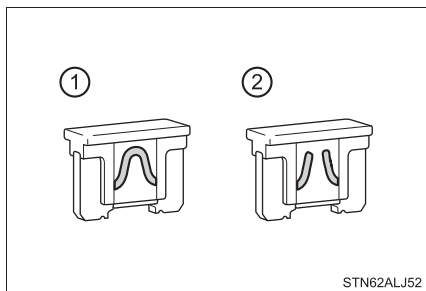
ヒューズは必ずヒューズを引き抜くことができます。

**4** ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 381)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

リヤフォグランプ★の電球交換は車両下側から行うことになるため、無理な姿勢で作業しないように、十分な広さのある場所で行ってください。また、狭いところに手を入れて作業するため、確実に取りつけることができない場合があります。トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

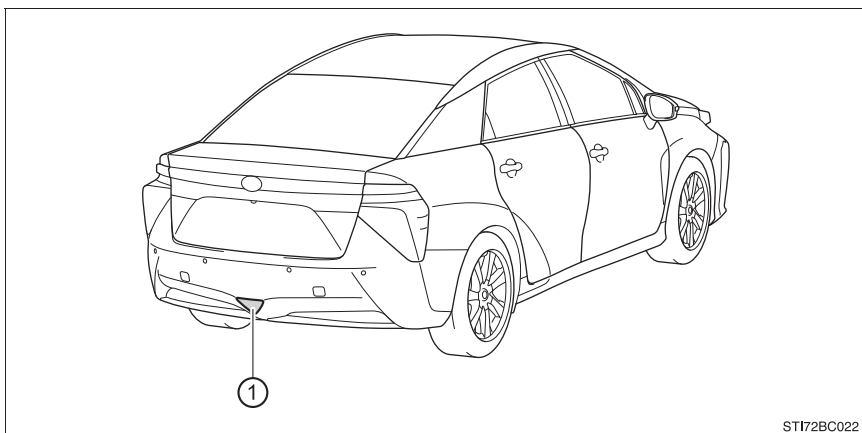
電球を交換するとき

- ランプ類が完全に冷えた状態で作業してください。
- けが防止のため、手袋など保護具を使用することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 450）

バルブ位置



① リヤフォグランプ★

ST172BC022

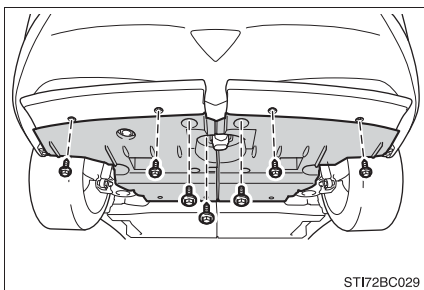
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

電球交換のしかた

■ リヤフォグランプ★

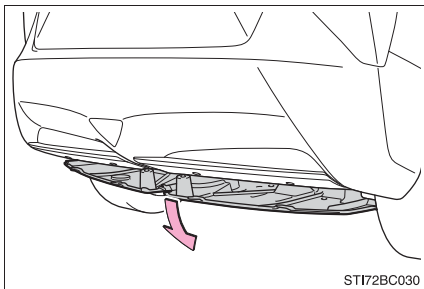
リヤバンパー裏側の狭い場所に取り付けられているため、車の部品などでけがをしないように、手袋など保護具を使用してください。
(→ P. 385)

- 1 リヤフォグランプ下側のアンダーカバー固定スクリュー（7本）をはずす



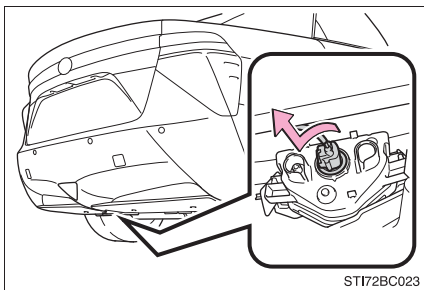
STI72BC029

- 2 アンダーカバーをめくる



STI72BC030

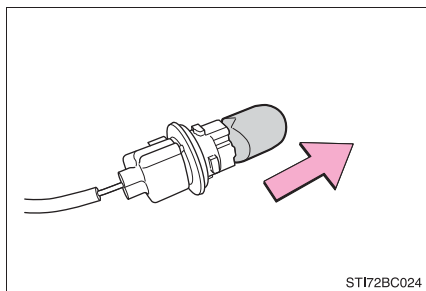
- 3 ソケットを取りはずす
リヤバンパー下部から手を入れてソケットを取りはずす



STI72BC023

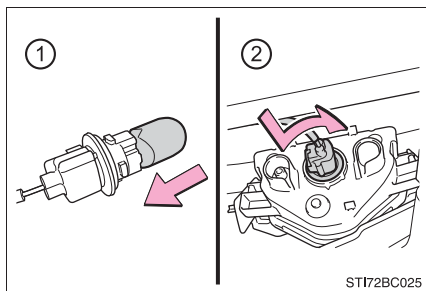
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

4 電球を取りはずす

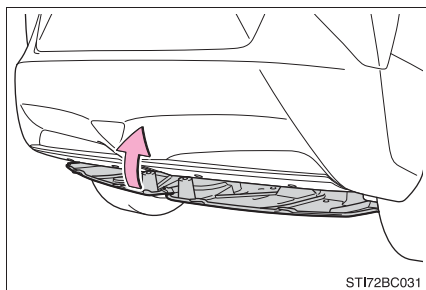


5 新しい電球を取り付け、ソケットを取り付ける

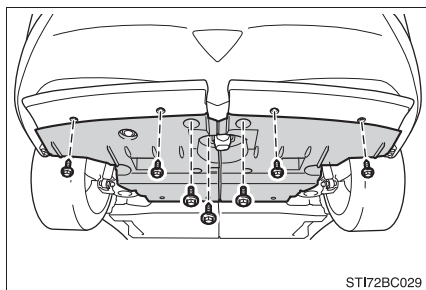
- ① 新しい電球を取り付ける
- ② ソケットを取り付ける



6 アンダーカバーをもとにもどす



7 アンダーカバー固定スクリュー（7本）を取り付ける



■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム
- ヘッドランプハイビーム
- 車幅灯／LED デイライト
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯
- 後退灯

知識

■ LED ランプについて

リヤフォグランプ以外のランプは、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

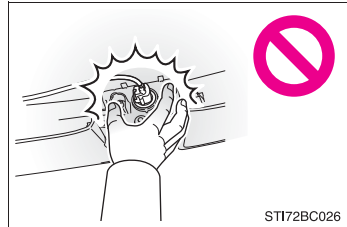
- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 379

警告**■ リヤフォグランプ★の電球を交換するとき**

- 必ずFCシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 車の部品などでけがをしないように手袋など保護具を使用してください。
部品の端などでけがをするおそれがあり危険です。

**■ お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

8

8-1. まず初めに

故障したときは.....	388
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	389
発炎筒	390
車両を緊急停止するには	392
水没したときは.....	393

8-2. 緊急時の対処法

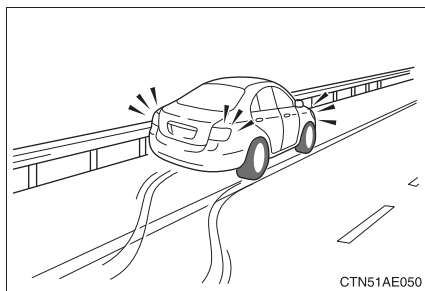
けん引について.....	394
警告灯がついたときは	400
警告メッセージが 表示されたときは	404
パンクしたときは.....	412
FC システムが 始動できないときは	426
正常に給電できないときは ...	428
電子キーが正常に 働かないときは	430
補機バッテリーが あがったときは	433
オーバーヒートしたときは ...	439
スタックしたときは	444

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 389）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

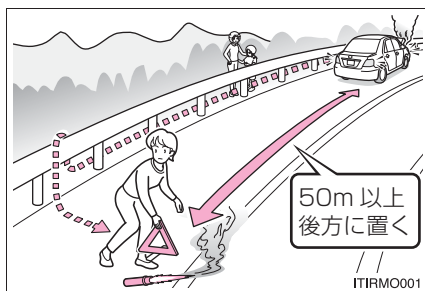
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



CTN51AE050

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 390）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

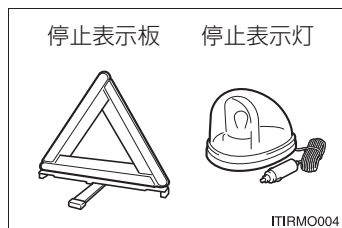


ITIRMO001

知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、トヨタ販売店で購入することができます。



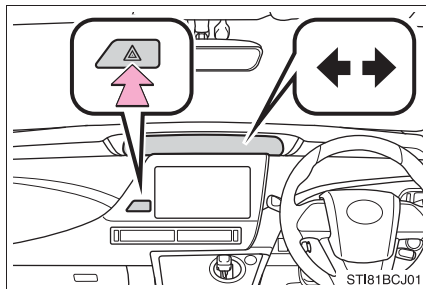
ITIRMO004

非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

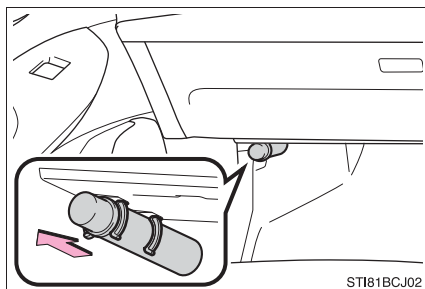
■ 非常点滅灯について

FC システム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

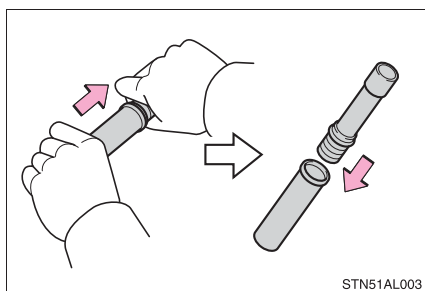
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

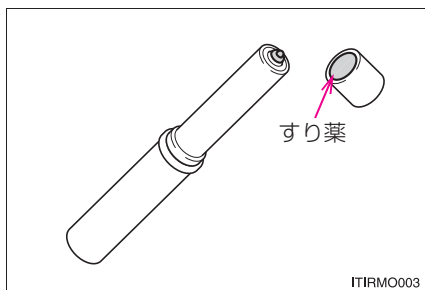
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く
- 水素がもれている可能性がある車両の近く

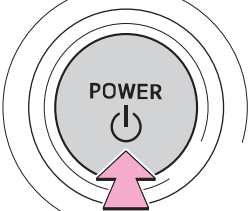
■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
 - 2 シフトポジションを N にする
 - ▶ シフトポジションが N になった場合
 - 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
 - 4 FC システムを停止する
 - ▶ シフトポジションが N にならない場合
 - 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
 - 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押して FC システムを停止する
- 

2 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す

ST181BC001
- 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ 走行中にやむを得ず FC システムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。FC システムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没したときは

万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウィンドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

警告

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のリヤウィンドウガラスは緊急脱出用ハンマー※で割ることはできませんが、フロントウィンドウガラス・フロントドアガラス・リヤドアガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※：詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■ 窓から車外に出るときは

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→ P. 408）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→ P. 63）
- スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき（→ P. 430）
- 補機バッテリーがあがったとき（→ P. 433）

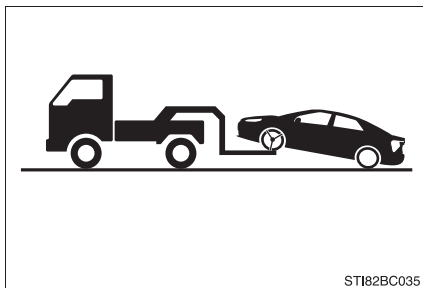
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- 警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

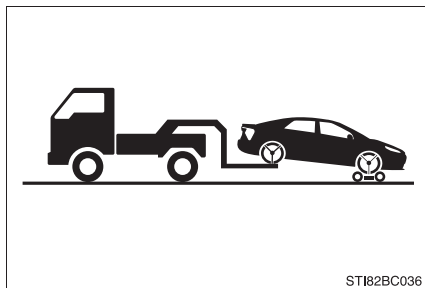
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

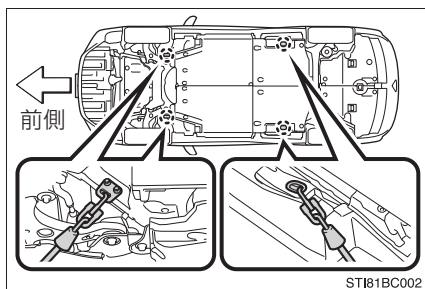
▶ うしろ向きにけん引するときは



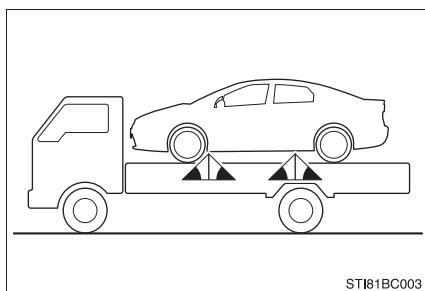
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の
場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両
を固縛する場合は図に黒く示す角
度が 45° になるように固縛する



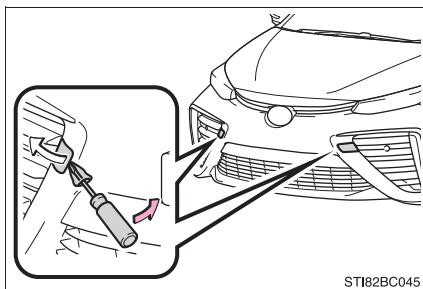
他車にけん引してもらおうとき

1 けん引フックを取り出す (→ P. 366, 414)

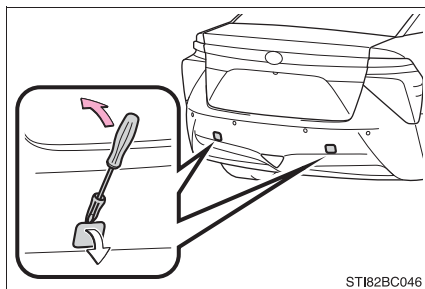
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

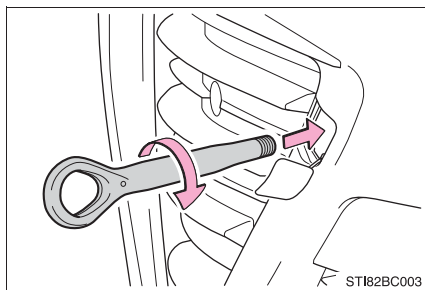
▶ フロント



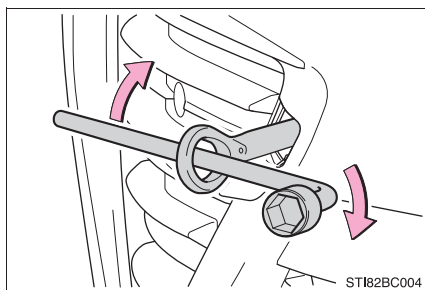
▶ リヤ



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



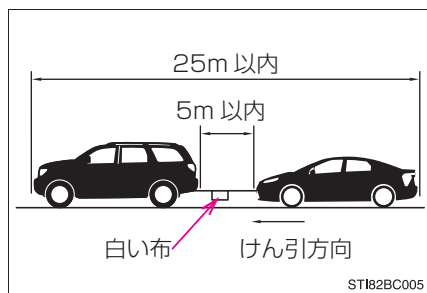
5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前方方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上

**7** 運転者はけん引される車両に乗り、FC システムを始動する

FC システムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

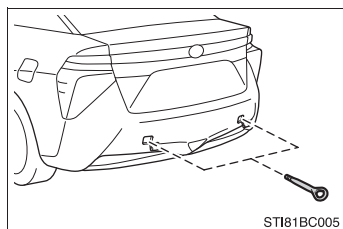
FC システムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重たくなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トランクに搭載されています。(→ P. 366, 414)

■リヤ側フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

**■氷点下地域へ輸送、けん引する前に**

FC システムが、凍結により始動ができなくなる場合があります。直前にウォーターリリースを実施してください。(→ P. 174)

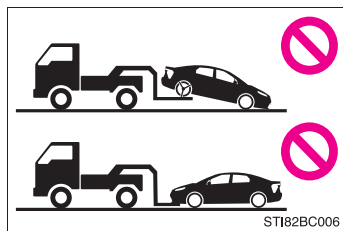
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

**■ 他車にけん引してもらうときの運転について**

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
パーキングロックにより、前輪が固定され思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

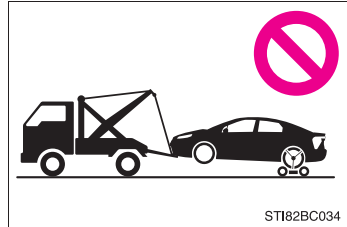
■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐため図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等で過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するとき

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	H₂ 警告灯（警告ブザー） 水素ガスもれを検知したときに、ブザーと共に点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P. 77
 (赤色)	ブレーキ警告灯（警告ブザー ※¹） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
	高水温警告灯 冷却水の高温異常 → P. 439 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
 (黄色)	電子制御ブレーキ警告灯 ・ 回生ブレーキシステムの異常 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (赤色／黄色)	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (点滅または点灯)	PCS 警告灯 ・ 警告ブザーが鳴った場合： ブリクラッシュセーフティの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ・ 警告ブザーが鳴らない場合： ブリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 207, 404） ブリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。（→ P. 218）
 (点滅)	PKSB OFF 表示灯 ・ 警告ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 → トヨタ販売店で点検を受けてください。 ・ 警告ブザーが鳴らない場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できないときに点滅します。 → P. 272 補機バッテリーの脱着直後、システムが初期化されていないときに点滅します。 → P. 272
	スリップ表示灯 ・ S-VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ABS・VSC・TRC システム作動時は点滅します。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	パーキングブレーキ警告灯（警告ブザー ※2） パーキングブレーキが解除されていない → パーキングブレーキを再度操作してください。 解除後、消灯すれば正常です。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	半ドア警告灯（警告ブザー ※3） いすれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていない → 全ドアおよびトランクを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 1.1kg 以下になった → 燃料を充てんする
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※4） 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
 (黄色)	LDA 表示灯（警告ブザー） LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 229）
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P. 404
 ※5	ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール／PKSB 警告灯 ・ ブレーキオーバーライドシステム作動時 ・ ブレーキオーバーライドシステムの異常（警報ブザー） ・ ドライブスタートコントロール作動時（警報ブザー） ・ ドライブスタートコントロールの異常（警報ブザー） ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した（→ P. 268） → 表示された画面の指示に従ってください。

※1 ブレーキ警告ブザー：
 ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

※2 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
 → P. 184

※3 半ドア走行時警告ブザー：
 → P. 126

※4 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
 運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。そのあとも運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

※⁵ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

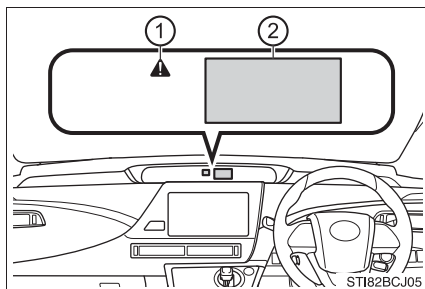
警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

① マスターワーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	—	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

- アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき
PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロールなどの走行支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。
- ドライブスタートコントロール・ブレーキオーバーライドシステム・パーキングサポートブレーキが作動したときに、警告メッセージが表示されます（→ P. 402, 272）。画面の指示に従って対処してください。
- パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき 正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。画面の指示に従って操作し直してください。
- シフト操作に関するメッセージが表示されたとき 誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり（→ P. 180）、シフト操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。
- 各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■「FC 高温出力制限中です 注意しながら走行してください」が表示されたときは

- ① 安全を確認しながら、速度を低下させ数分間走行をする
- ② 表示が消えた場合は一時的な過熱のため、そのまま走行可能です

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

■「凍結によりシステム停止 安全な場所に停車して販売店に連絡」が表示されたときは

→ P. 173

■「駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを販売店で受けてください」が表示されたときは

フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。トヨタ販売店で駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを受けてください。

■「駐車時はPレンジに入れてください」が表示されたときは

シフトポジションがP以外でパワースイッチをOFFにせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時はPにしてください。

■「N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに切替えてください」が表示されたときは

シフトポジションがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをDまたはRにしてください。

■「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとFCシステムが過熱するおそれがあります。

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「アクセルが踏まれています アクセルペダルを確認してください」が表示されたときは

アクセルペダルが引っかかっている可能性があります。

アクセルペダルから足を離しても表示が消えないときは、アクセルペダルが引っかかっていないか確認してください。

■「イオンフィルタの交換時期です 販売店で交換してください」が表示されたときは

イオンフィルタの交換が必要です。トヨタ販売店へご連絡ください。

■「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください」が表示されたときは

●数秒後※に表示が消えたときは

約15分以上、FCシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

●表示が消えないときは

「補機バッテリーがあがったときは」（→P. 433）の手順でFCシステムを始動してください。

※ 約6秒間表示されます。

■「シフト系故障 安全な場所に停車して 取扱書を確認」が表示されたときは

シフトポジションを切りかえられない可能性があります。安全な場所に停車してください。

ただちにトヨタ販売店へ連絡してください。

■「シフト系故障 シフト切替えできません 取扱書を確認」が表示されたときは

シフトポジションをPからP以外に切りかえられない可能性があります。

ただちにトヨタ販売店へ連絡してください。

■「シフト系故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」が表示されたときは

- パーキングロック機構が作動しない可能性があります。
- パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合はパーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。
- FC システムを始動できない可能性があります。

駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■「シフト系通信故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」が表示されたときは

- 自動 P ポジション切りかえ機能 (→ P. 175) が作動しない可能性があります。
- パワースイッチを OFF にする前に確実に P ポジションスイッチを押し、シフトポジション表示灯または P ポジションスイッチの作動表示灯で、シフトポジションが P であることを必ず確認してください。
- FC システムを始動できない可能性があります。

駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■「[P] スイッチ故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」が表示されたときは

P ポジションスイッチを押してもシフトポジションが P に切りかわらない可能性があります。

駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■「シフト系故障 取扱書を確認」が表示されたときは

放置するとシステムが正しく作動せず思わぬ危険や故障を招くおそれがあります。

ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■「補機バッテリー充電不足 駐車時パーキングブレーキをし 取扱書を確認」が表示されたときは

- パーキングロック機構が作動しない可能性があります。
- パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合はパーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。
- 補機バッテリー充電後もシフトポジションを P から P 以外に切りかえるまで警告メッセージが表示され続ける場合があります。
- FC システムを始動できない可能性があります。

駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。
補機バッテリーを充電、または交換してください。

- 「補機バッテリー充電不足 シフト切替できません 取扱書を確認」が表示されたときは
補機バッテリーの電圧が低下した状態で、シフトポジションを切りかえようとしたときにメッセージが表示されます。
補機バッテリーを充電、または交換してください。
- 「シフト切替一時不可 しばらくしてから 再度操作してください」が表示されたときは
シフトレバーと P ポジションスイッチの操作を短時間にくり返したときにメッセージが表示されます。
しばらく時間をおいてから、シフトポジションを切りかえてください。
- 「[Bs] モードにできません 切替える場合は [D] にしてからシフト操作」が表示されたときは
シフトポジションが P、または N のときに Bs モードに切りかえようとするときにメッセージが表示されます。
シフトポジションを D にしてから Bs モードに切りかえてください。
- 「[N] レンジに切替えました [Bs] にする場合は [D] にしてからシフト操作」が表示されたときは
シフトポジションが R のときに Bs モードへ切りかえようとするときにメッセージが表示されます。
シフトポジションが N に切りかわります。
シフトポジションを D にしてから Bs モードにしてください。
- 「駆動レンジにできません FC システム始動後に操作」が表示されたときは
パワースイッチが ON モードのとき (READY インジケーター消灯中) に、シフトポジションを R、D または Bs モードに切りかえようとするときにメッセージが表示されます。
FC システムを始動後、シフトポジションを R、D、または Bs モードに切りかえてください。
- 「シフト切替不可 切替える場合は ブレーキを踏みシフト操作」が表示されたときは
ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションを切りかえようとしたときにメッセージが表示されます。
シフトポジションを P から切りかえるときは、ブレーキペダルを踏んで切りかえてください。
- 「[N] レンジに切替えました [D] にする場合は 停車しシフト操作」が表示されたときは
車両が後退しているときに、シフトポジションを D へ切りかえようとするときにメッセージが表示されます。
シフトポジションが N に切りかわります。
車両を停車させてから、シフトポジションを切りかえてください。

■「[N] レンジに切替えました [R] にする場合は 停車しシフト操作」が表示されたときは

車両が前進しているときに、シフトポジションを R へ切りかえようとするメッセージが表示されます。

シフトポジションが N に切りかわります。

車両を停車させてから、シフトポジションを切りかえてください。

■「[N] レンジに切替えました [P] にする場合は 停車し [P] スイッチ操作」が表示されたときは

車両が動いているときに、P ポジションスイッチを操作し、シフトポジションを P へ切りかえようとするメッセージが表示されます。

シフトポジションが N に切りかわります。

車両を完全に停車させてから、P ポジションスイッチを操作してください。

■「前方カメラ一時使用不可 取扱書を確認ください」または「前方カメラ一時使用不可 しばらくお待ちください」が表示されたとき

次のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。(要因および対処方法: → P. 207, 400)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き])
- RSA (ロードサインアシスト)
- レーダークルーズコントロール
- 先行車発進告知機能

■「クルーズコントロール 一時使用不可 取扱書を確認ください」

レーダークルーズコントロールのシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。(要因および対処方法→ P. 207)

■「クルーズコントロール現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロールのシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロールを再度設定してください。

■警告メッセージが表示され、シフトポジションを変更できなかったり、パワースイッチを操作してOFFにしようとしてもアクセサリーモードになったりするとき

補機バッテリーが充電不足になったり、シフト制御システムが故障してしまったりした場合、次のような現象が起こる場合があります。

- シフトポジションを P に切りかえられない可能性があります。駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- FC システムを始動できない可能性があります。
- パワースイッチを操作して OFF にしようとしても、アクセサリーモードになることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると、OFF にすることができます。
- 自動 P ポジション切りかえ機能(→ P. 175)が働かない可能性があります。パワースイッチを OFF にする前に、確実に P ポジションスイッチを押し、シフトポジション表示灯または P ポジションスイッチの作動表示灯で、シフトポジションが P であることを必ず確認してください。

■警告ブザーについて

→ P. 403

 注意

■「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください」がひんばんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは

この車両にはスペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ パンクしたままの走行について

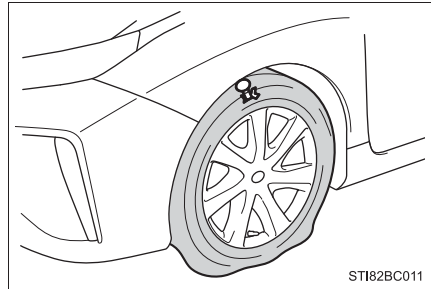
タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールやその他の部品が修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- P ポジションスイッチを押して、シフトポジションをPにする
- FC システムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。



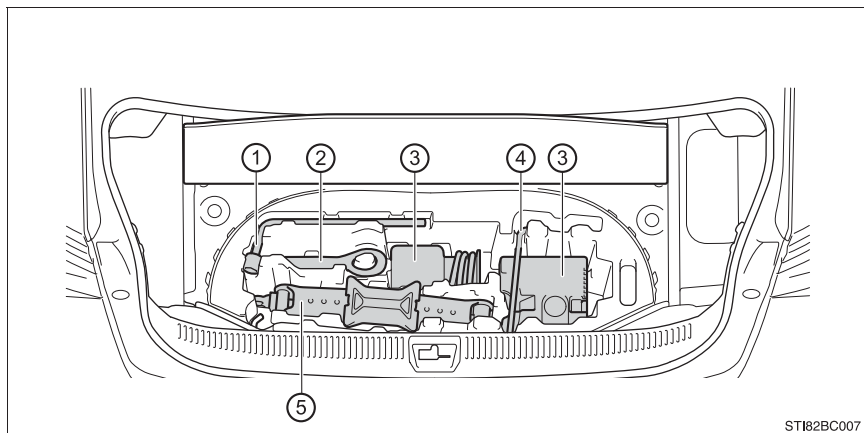
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

① ホイールナットレンチ

④ ジャッキハンドル

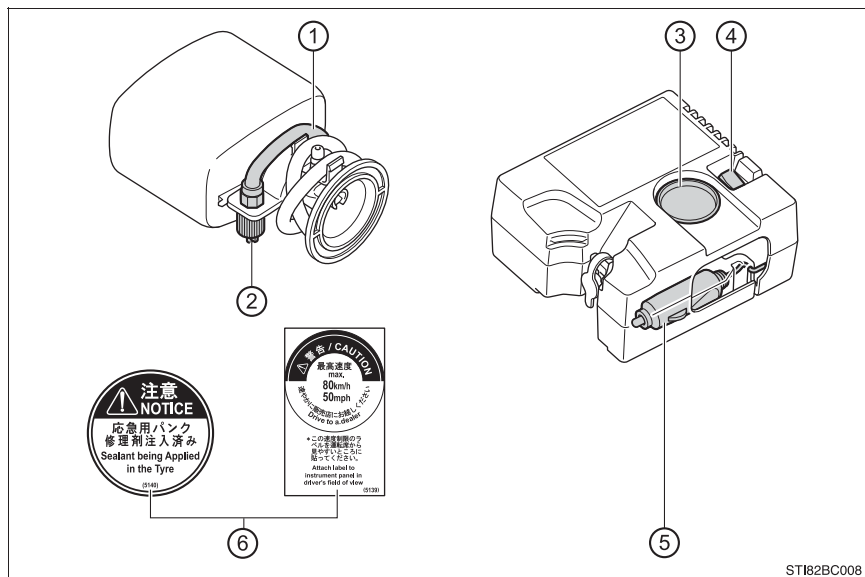
② けん引フック

⑤ ジャッキ ※

③ タイヤパンク応急修理キット

※ ジャッキの使い方 (→ P. 368)

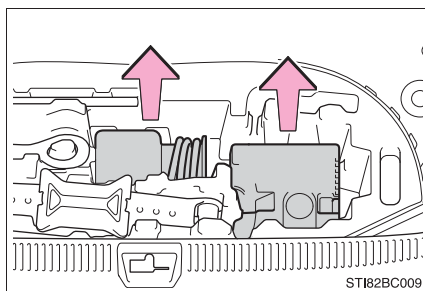
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



- | | |
|-------------|----------|
| ① ホース | ④ 電源スイッチ |
| ② 空気逃がしキャップ | ⑤ 電源プラグ |
| ③ 空気圧計 | ⑥ ラベル |

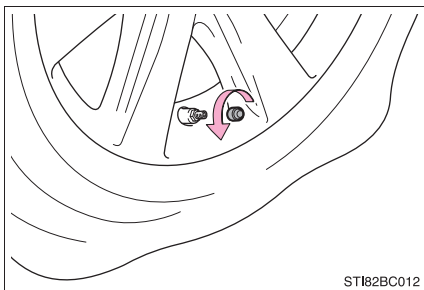
応急修理キットの取り出し方

- 1 ラゲージマットを取りはずす
- 2 ジャッキハンドルを取りはずす
- 3 応急修理キットを取り出す



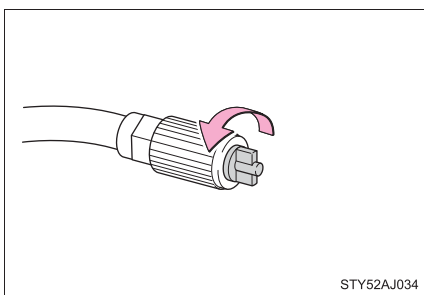
応急修理するとき

- 1 応急修理キットを取り出す
- 2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



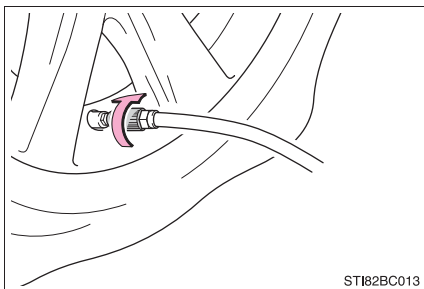
- 3 ボトルのホースをのばし、ホースから空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

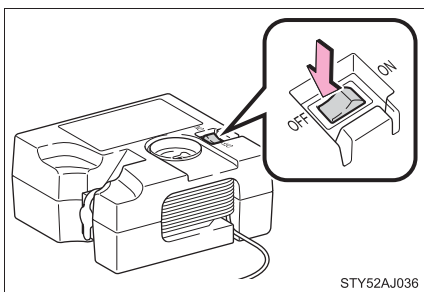


- 4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

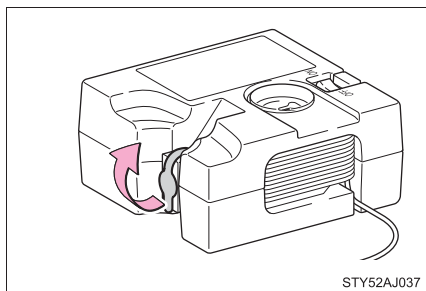
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。



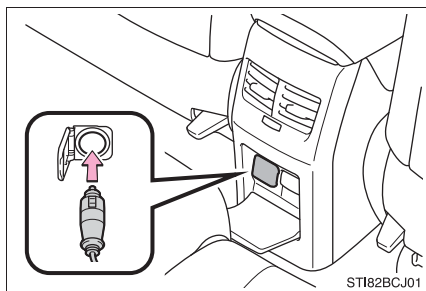
- 5 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認する



- 6 コンプレッサーのゴム栓をはずす

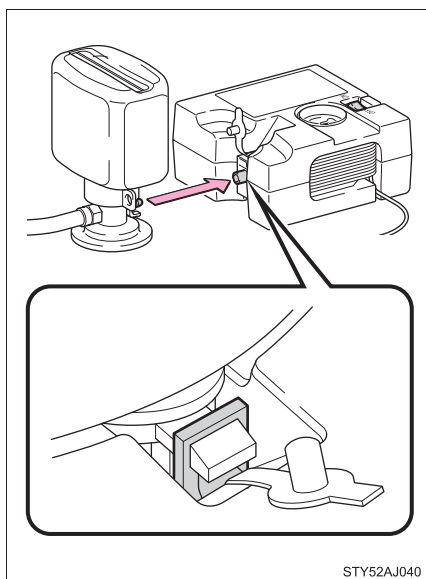


- 7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む (→ P. 315)



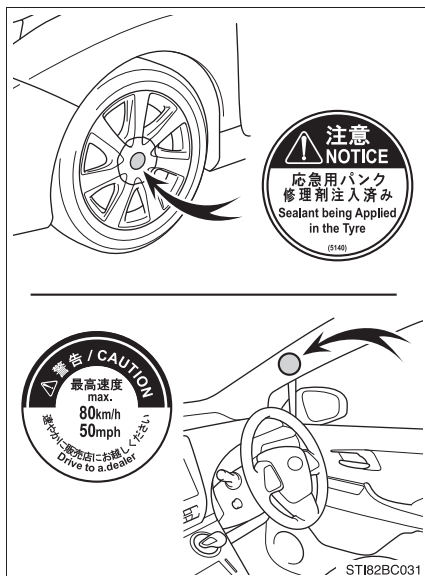
- 8 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿し込み、しっかりと接続されているか確認してください。

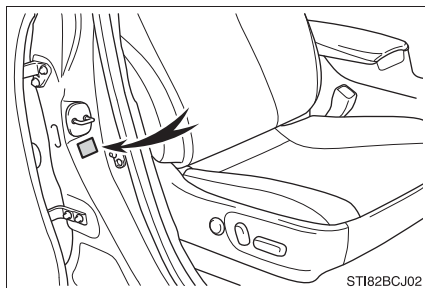


- 9 付属のラベル2枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。

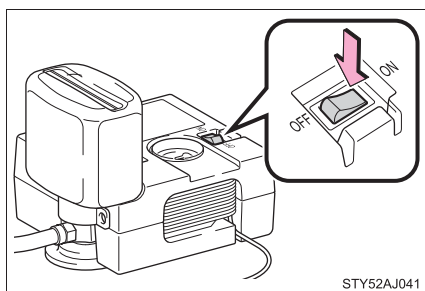


- 10 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 364)



- 11 FCシステムを始動する (→ P. 170)

- 12 コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、パンク補修液と空気を充填する

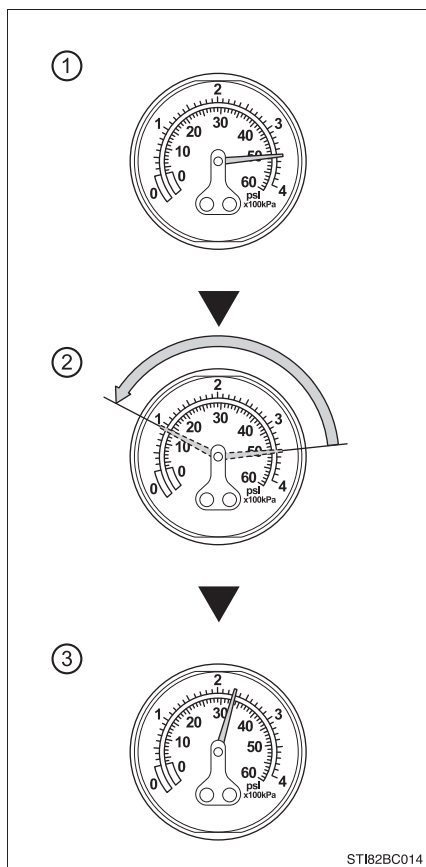


13 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

- ① スイッチ “ON” 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が 300 ~ 400 kPa (3.0 ~ 4.0 kg/cm²) まで上昇する
- ② 1 分程度 (低温の場合は 15 分程度) で実際の空気圧表示になる
- ③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを “OFF” にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

40 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。



ST162BC014

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→ P. 364, 450)

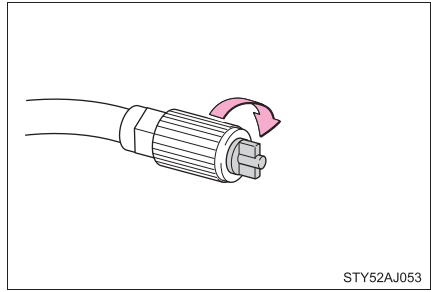
14 コンプレッサーのスイッチが “OFF” であることを確認した上で、アクセサリースOCKETから電源プラグを抜き、バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 16** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

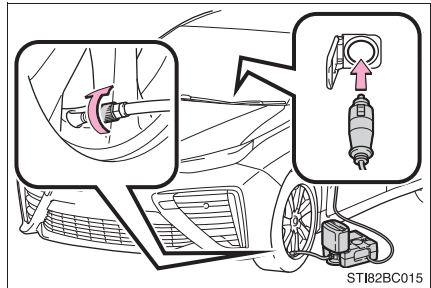
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



- 17** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

- 18** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5 km、速度 80 km/h 以下で安全に走行する

- 19** 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する



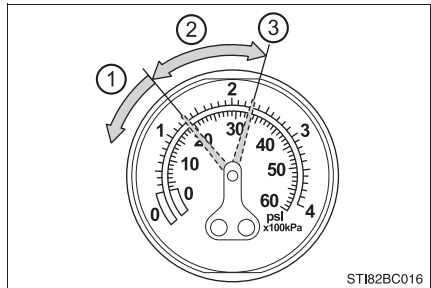
- 20** コンプレッサーのスイッチを数秒間“ON”にし、“OFF”にしてから空気圧を確認する

- ① 空気圧が130 kpa (1.3 kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- ② 空気圧が130 kpa (1.3 kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：**21**へ

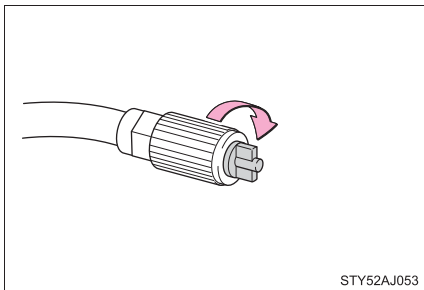
- ③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 364）の場合：**22**へ

- 21** コンプレッサーのスイッチを“ON”にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて **19** から実施する



- 22** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



- 23** ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納します
- 24** 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80 km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

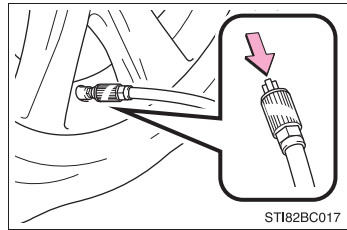
有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気圧充填用です。
- 応急修理キットのパンク補修液は、1本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 外気温度が -40°C ~ 60°C のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからボトルのホースを取りはずす
- 2 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして数秒間経過後、スイッチを“OFF”にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

⚠ 警告

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告**■パンク補修液について**

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを“OFF”にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

 警告**■ 補修液を均等に広げるための運転について**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130 kPa (1.3 kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにベンジン・ガソリンなどの有機溶剤がかかると、劣化するおそれがあります。有機溶剤がかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

FC システムが始動できないときは

FC システムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認ください、適切に対処してください。

正しい FC システムの始動方法 (→ P. 170) に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。※ (→ P. 431)
 - 燃料が入っていない可能性があります。
燃料を充てんしてください。(→ P. 200)
 - 燃料充てん扉が開いている可能性があります。(→ P. 201)
 - 給電口に給電コネクタが接続されている可能性があります。
(→ P. 91)
 - 給電口のキャップが開いている可能性があります。(→ P. 91)
 - イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。※ (→ P. 63)
 - シフト制御システムに異常がある可能性があります。※
 - 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、FC システムを一時的な処置でかけることができます。(→ P. 427)
 - 電子キーが節電モードになっている可能性があります。(→ P. 132, 133)
- ※ P ポジションから切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 433)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
(→ P. 357)

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 433)
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
(→ P. 357)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても FC システムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常の FC システム始動操作で FC システムが始動しないときは、次の手順で FC システムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 パワースイッチをアクセサリモードにする
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法で FC システムが始動しても、FC システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

正常に給電できないときは

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合や、給電作業後にエラーを伝えるメッセージが表示された場合は、次の事項をご確認ください。

給電作業時に問題が発生した

次の記載を参照してそれぞれ必要な処置を行ってください。

エラーの状況	原因	対処方法
給電が開始しない	外部給電器がエラー表示	外部給電器の取扱説明書に従って、適切な処置を行ってください。
	外部給電器の電源がOFFになっている	
	燃料が少ない	燃料が少なくなると給電できなくなります。 燃料充てん後に再度給電操作(→P. 89)を行ってください。
	給電コネクタが給電口に確実に接続されていない	給電コネクタが給電口に確実に接続されているか確認してください。
	駆動用電池の温度が極端に低いまたは高い	FCシステムを始動し、エアコンで車室内の温度を十分に暖めるか冷ましてから、再度給電操作(→P. 89)を行ってください。 車を走行させてFCシステムを暖機することで暖めることもできます。
	前回給電時に正常終了していない	FCシステムを一度始動(→P. 170)し、パワースイッチをOFFにしてから、再度給電操作(→P. 89)を行ってください。
	その他	「給電作業をする前に」(→P. 88)の手順より、再度給電操作を行ってください。

上記の対処をしても給電が開始できない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちに給電作業を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

エラーの状況	原因	対処方法
給電が途中で停止する	外部給電器の電源が何らかの理由で OFF になっている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切な処置を行ってください。
	駆動用電池の温度が極端に低いまたは高い	しばらく待ってから再度給電操作 (→ P. 89) を行う。または FC システムを始動し、エアコンで車室内の温度を十分に暖めるか冷ましてから、再度給電操作 (→ P. 89) を行ってください。 車を走行させて FC システムを暖機することで、暖めることもできます。
	外部給電器がエラーになっている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切な処置を行ってください。
給電終了後、FC システムが始動しない	車両に外部給電器が接続されている	外部給電器の取扱説明書に従って、給電コネクタを取りはずしてください。
	給電口のキャップが開いている	給電口のキャップとカバーを閉めてから、再度 FC システムを始動 (→ P. 170) してください。
	外部電源供給システムが故障している	トヨタ販売店にご連絡ください。
給電終了後、給電コネクタがはずれない	給電コネクタが何らかの理由でロックされている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切な処置を行ってください。

電子キーが正常に働かないときは

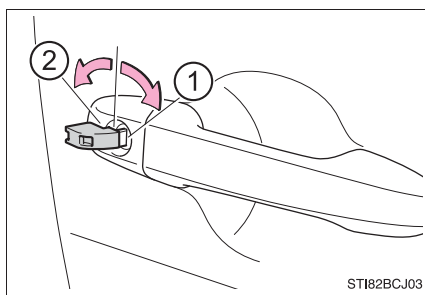
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→ P. 133)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートFC システムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、FC システムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠

■ ドア

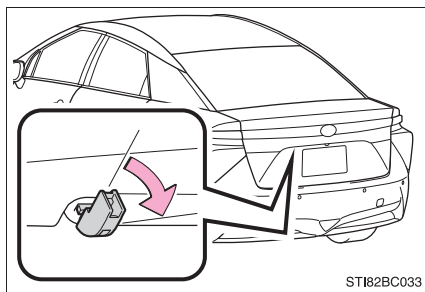
メカニカルキー (→ P. 118) を使って次の操作ができます。(運転席ドアのみ)

- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠



■ トランク

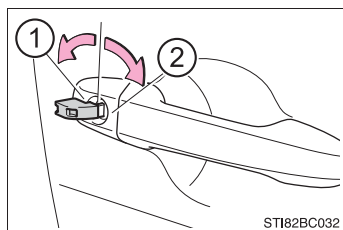
メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける



知識

■キーの連動機能

- ① ドアガラスが開く（まわし続ける）※
 - ② ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※
- ※ トヨタ販売店ででの設定が必要です。
（→ P. 453）

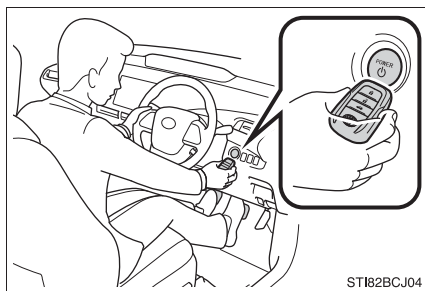


FC システム始動の方法

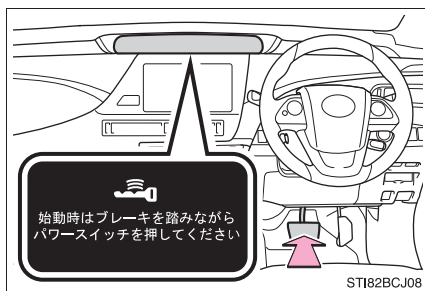
- 1 ブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのトヨタエンブレム面を手前に向けた状態で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリモードへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されていることを確認する。



- 4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

 知識

■ FC システムの停止方法

通常の FC システムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてパワースイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明している FC システムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 376)

■ オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。

■ 電子キーが正常に働かない場合について

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 453)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→ P. 133)

■ パワースイッチのモードの切りかえについて

FC システム始動方法の手順[3]で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、FC システムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 172)

 警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

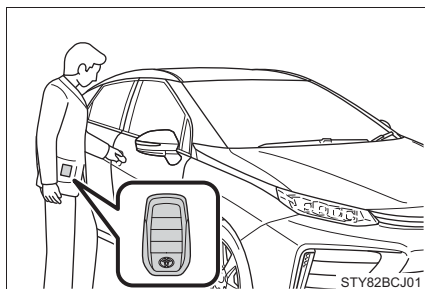
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順で FC システムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、FC システムを始動させることができます。

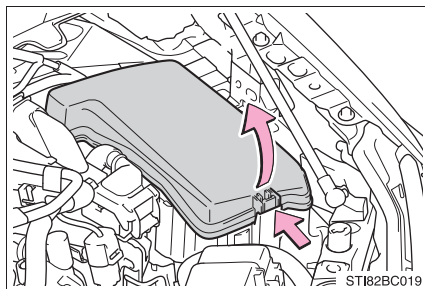
- 1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P. 65)



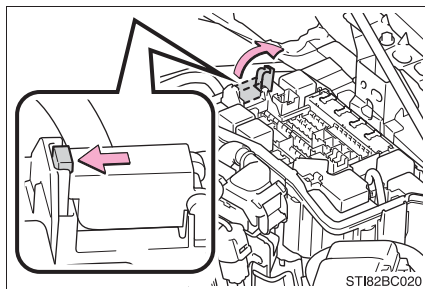
- 2 ボンネットを開けて(→P. 357)、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながら、フタを持ち上げてはずします。

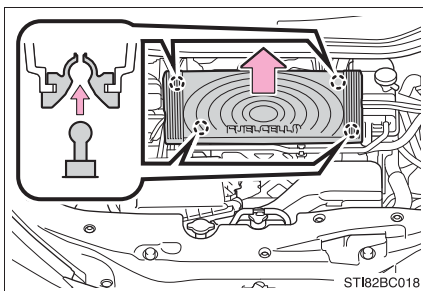


- 3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける

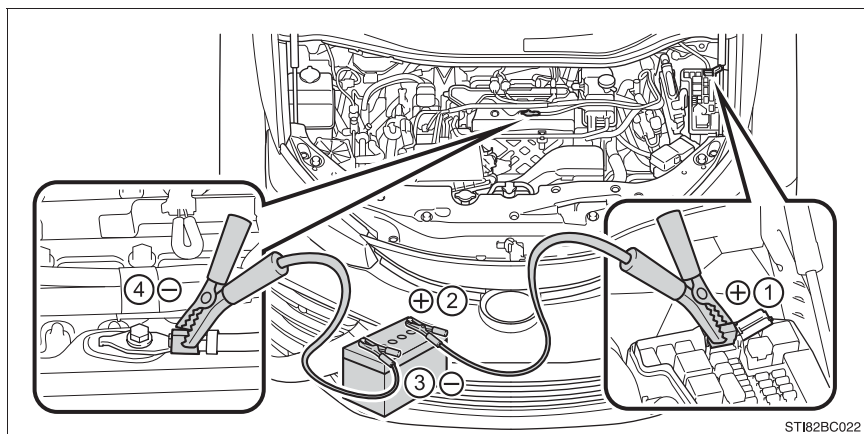
ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。



- 4 モータールーム中央のカバーをはずす



- 5 ブースターケーブルを次の順につなぐ



- ① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

- 6 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する
- 7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON モードにしてから FC システムを始動する
- 8 READY インジケーターが点灯することを確認する
点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。
- 9 FC システムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
- 10 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバー・モータールーム中央のカバーをもとどおりに取り付ける
FC システムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識**■補機バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- FC システムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーについて

→ P. 357

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがって FC システムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーは FC システムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

- 補機バッテリーがあがった直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初の FC システム始動は失敗することがあります。2 回目以降の FC システム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。
- シフトポジションが P の状態で補機バッテリーがあがった場合は、シフトポジション P から切りかえることができません。この場合パーキングロックにより前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
- 補機バッテリーを再接続したときは、FC システムを始動させ、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションがすべてのポジションに切りかえられることをシフトポジション表示灯で確認してください。
- 補機バッテリーを充電・交換する場合は、車内にキーがないことを確認してください。オートアラームが作動するとキーが車内に閉じ込められるおそれがあります。（→ P. 64）
- 氷点下地域で、バッテリーを取り外して放置する場合、FC システムが凍結により始動ができなくなる場合があります。直前にウォーターリリースを実施してください。（→ P. 174）

■補機バッテリーを交換するとき

一括排気タイプの補機バッテリー（JIS 規格）を使用してください。また、交換前と同一のケースサイズ、かつ 20 時間率容量（20HR）が同等以上の補機バッテリーを使用してください。

- ・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
- ・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、FC システムの始動ができなくなるおそれがあります。

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

 警告**■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあと**

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーを交換するとき

交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、補機バッテリーから発生するガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーの交換について

→ P. 358

 注意**■ 救援用端子について**

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

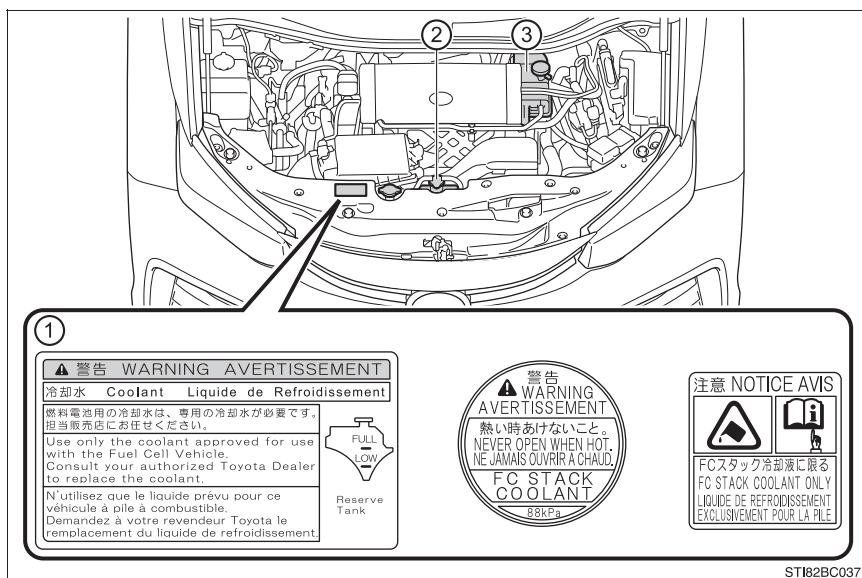
■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

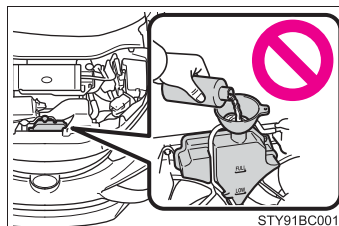
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 400）が点滅または点灯する
- マルチインフォメーションディスプレイに「FC システム高温出力制限中です」（→ P. 404）が表示される
- モータールームから蒸気が出る



⚠ 注意

FC スタックの冷却水は、FC スタック専用品です。水や他の種類の冷却水を入れると、故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。FC スタック用冷却水が不足している場合は、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。



対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

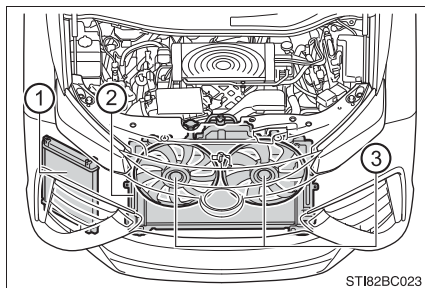
- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、FC システムを停止する
- 2 蒸気の発生や冷却水もれがある場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気の発生や冷却水もれがない場合：
注意してボンネットを開ける

- 3 FC システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

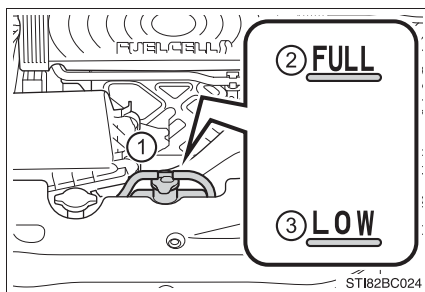
- ① サブラジエーター
- ② ラジエーター
- ③ ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



- 4 FCスタック用冷却水の量がFCスタック用リザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する

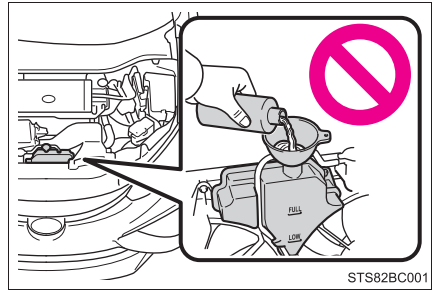
- ① FCスタック用リザーバータンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）



FC スタック用冷却水量が減っている場合：
トヨタ販売店に連絡する

FC スタック用冷却水量が減っていない場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

FC スタック用冷却水が減っていても絶対に補充しないでください



■ マルチインフォメーションディスプレイに「FC システム高温出力制限中です」が表示されたとき

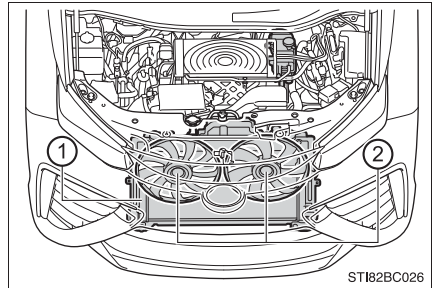
- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、FC システムを停止する
- 2 蒸気の発生や冷却水もれがある場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気の発生や冷却水もれがない場合：
注意してボンネットを開ける

- 3 FC システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

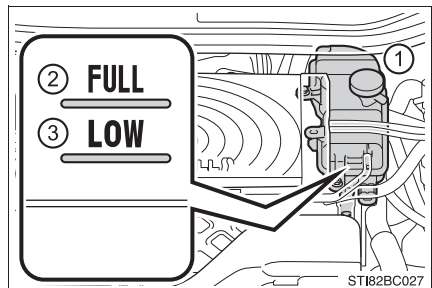
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



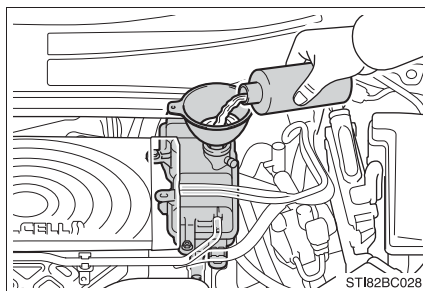
- 4 インバーター用冷却水の量がインバーター用リザーバタンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① インバーター用リザーバタンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）



- 5 インバーター用冷却水が不足している場合は、インバーター用冷却水を補充する

インバーター用冷却水がない場合は、応急措置として水を補充してください。



- 6 FC システムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

FC システムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：
 すぐに FC システムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
- ファンが作動している場合：
 最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■モータールームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- モータールームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。モータールーム内が高温になっています。
- FC システムを停止したときは、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
 FC システムが作動していると、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- FC システムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップやラジエーターキャップを開けないでください。
 高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

 注意**■ インバーター用冷却水を入れるとき**

FC システムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

FC システムが熱いときに急に冷たいインバーター用冷却水を入れると、FC システムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- インバーター用冷却水に冷却水用添加剤を使用しない
- FC スタック用冷却水の補充は、トヨタ販売店におまかせください。
- FC スタック用冷却水には、水や他の冷却水を補充しないでください。また、冷却水用添加剤は使用しないでください。

スタックしたときは

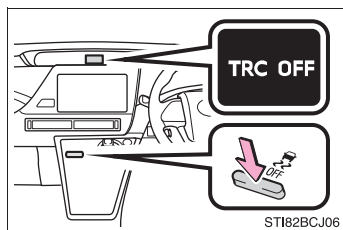
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

- 1 パーキングブレーキをかけシフトポジションをPにして、FC システムを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 FC システムを再始動する
- 5 シフトポジションをD または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■ 脱出しにくいとき

 を押してTRCをOFFにしてください。



警告

■ 脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ トランスミッション（動力伝達装置）やその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**9****9-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
（指定燃料・液量など）448

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....451

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目459

メンテナンスデータ（指定燃料・液量など）

使用する液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものを
使用ください。

燃料

指定燃料	容量（参考値）
圧縮水素ガス	122.4L（約 5kg）※

※ 水素タンク容量は 122.4L で、約 5kg の圧縮水素ガスが貯蔵可能です。ただし、充てん時のガス温度上昇によるガス密度低下により、充てん圧力が 70MPa の水素ステーションで充てんした場合、使用可能水素量は約 4.3kg で 5kg より少なくなります。

なお、2016 年度以降の水素ステーションでは、充てん圧力を 82MPa まで上昇させることができるため、ガス密度低下分が減少し、使用可能水素量は約 4.6kg まで増加予定です。

ラジエーター

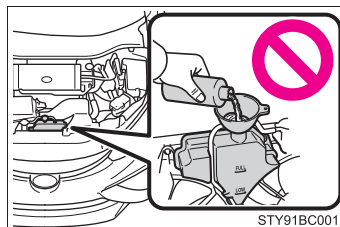
指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
トヨタ純正 FC スタッククーラント 凍結保証温度 濃度 50% - 35℃	FC スタック	19.6
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50% - 35℃	インバーター	4.7

■ FC スタック用冷却水について

- 高電圧である FC スタックを安全に冷却するために、FC スタック用冷却水は絶縁性の高い専用品です
- 水や他の種類の冷却水は故障の原因になりますので、絶対に入れないでください
- 冷却水の交換は不要です
- ラジエーターから抜き取った冷却水は、再使用しないでください
- 冷却水は無色です
- FC スタック用冷却水の補充・交換は、トヨタ販売店にご相談ください

⚠ 注意

FC スタックの冷却水は、FC スタック専用部品です。水や他の種類の冷却水を入れると、故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。冷却水が不足している場合は、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。



トランスミッション（動力伝達装置）

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルード WS	4.2

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード BF-5

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	84

※ READY インジケータが点灯している状態で、196N（20kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（31kgf）のときのノッチ※ 数	7 ~ 10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
3.0

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
215/55R17 94W	17×7J	230 (2.3)	230 (2.3)

電球 (バルブ) ※

電球		W (ワット) 数
車外	リヤフォグランプ★	21
車内	バニティランプ	8
	フロントインテリアランプ/パーソナルランプ	8
	リヤインテリアランプ	8
	ドアカーテシランプ	5
	トランクリンプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	駆動方式
MIRAI	JPD10	前輪駆動

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定変更のしかた

操作するときは、安全な場所に停車してシフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけた状態で行ってください。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチ (→ P. 108) の **<** または **>** を押して
「設定」 (→ P. 107) を選択する
- 2 **^** または **v** を押して変更する項目を選択し、**⊙** を押す
設定を終了する場合は、**➡** を押します。



車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

- ① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- ② 車両のスイッチ操作で設定変更可能
- ③ トヨタ販売店で設定変更可能

■ ドアロック (→ P. 121, 430)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキーによる解錠	1 回で 全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○
車速感应オートドアロック	あり	なし	—	—	○
シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり	—	—	○
シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし	—	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠	なし	あり	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→ P. 121, 131)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅	あり	なし	—	—	○
ドアを施錠・解錠したときの作動確認ブザー音量	音量 5	消音	—	—	○
		音量 1 (小) ～音量 7 (大)			
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 131)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	—	—	○
解錠ドアの選択	全席	運転席	—	○	○
連続してできる施錠操作の回数	2回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 121, 127)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
ワイヤレスリモコンのドア解錠ボタン操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	—	—	○
ワイヤレスリモコンのトランク開ボタン操作	1回押し続ける(短)	1回押し	—	—	○
		2回押し			
		1回押し続ける(長)			
		OFF			

■ パワーウィンドウ (→ P. 155)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
窓開警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ マイコンプリセットドライビングポジションシステム (→ P. 139)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
降車時の運転席シート移動量	標準	なし	—	—	○
		少なめ			
		多め			
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全席(助手席)	—	—	○

■ ドアミラー (→ P. 151)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
オート電動格納作動	ドアの 施錠・解錠 と連動	なし	—	—	○
		パワースイッチ と連動			
リバース連動作動	あり	なし	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 186)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度	標準	－2 ～ 2	—	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○

■ イルミネーション (→ P. 299)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアの開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間	15 秒	OFF	—	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	—	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○
電子キーを携帯して車両に近づいたときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○
車室内足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
シフト照明の点灯	あり	なし	—	—	○

■ エアコン (→ P. 286)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
エアコンスイッチにタッチしたときの反応	05 (遅い)	01 (速い) ～ 05 (遅い)	—	○	—
エアコンスイッチにタッチしたときの操作音	あり	なし	—	○	—
エアコンスイッチを操作したときのポップアップ表示	あり	なし	—	○	—
AUTO スイッチが ON のとき、外気導入と内気循環が自動的に切りかわる	する	しない	—	—	○

■ メーター (→ P. 102)

機能の内容		初期設定	変更後	①	②	③
言語		日本語	英語	○	—	—
イオンフィルタの交換時期		—	初期化する	○	—	—
割込表示	インストール メントパネル 照度調整	する	しない	○	—	—
	ア ク セ サ リーコンセ ントの使用	する	しない	○	—	—
初期設定にもどす		—	する	○	—	—
燃費履歴の月別履歴		—	消去する	○	—	—
エコダイアリーの日別履歴		—	消去する	○	—	—
エコダイアリーの月別履歴		—	消去する	○	—	—
カレンダーの年月日		—	調整する	○	—	—
画面を消す		—	消す ※	○	—	—

※ メーター操作スイッチ (→ P. 108) の⓪を押すと、マルチインフォメーションディスプレイに画面表示をもどすメッセージが表示されます。

■ 車両接近通報装置 (→ P. 76)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
通報の音量	音量小	消音	—	—	○
		音量大	—	—	○

■ LDA (レーンディパーチャーアラート／ステアリング制御機能付き) (→ P. 219)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
操舵支援	あり	なし	○	—	—
警報感度	高	普通	○	—	—
ふらつき検知	あり	なし	○	—	—
ふらつき検知感度	普通	高	○	—	—
		低			

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→ P. 208）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
PCS（プリクラッシュセーフティ）	あり	なし	○	—	—
警報タイミング	中間	早い	○	—	—
		遅い			

■ RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 230）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
RSA（ロードサインアシスト）	あり	なし	○	—	—
制限速度超過警告	なし	警告表示のみ	○	—	—
		警告表示とブザー			
制限速度超過の警告タイミング	2km/h	10km/h	○	—	—
		5km/h			
追い越し禁止警告	警告表示のみ	なし	○	—	—
		警告表示とブザー			
その他の警告（進入禁止警告）	警告表示のみ	なし	○	—	—
		警告表示とブザー			

■ 先行車発進告知機能（→ P. 246）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
先行車発進告知	あり	なし	○	—	—
告知距離	普通	近	○	—	—
		遠			

■ パーキングサポートブレーキ (→ P. 263)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
パーキングサポートブレーキ (静止物)	あり	なし	○	—	—

■ クリアランスソナー (→ P. 255)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
クリアランスソナー	あり	なし	○	—	—
リヤセンサーが感知する距離	遠い	近い	—	—	○
クリアランスソナー作動時のブザー音量	音量 2 (中)	音量 1 (小)	○	—	—
		音量 3 (大)			

知識

■ 車両カスタマイズについて

- 「車速感应オートドアロック」と「シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。
 - ・シフトポジションを P 以外にすると全ドアが施錠されます。
 - ・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感应オートドアロックは作動しません。
 - ・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感应オートドアロックが作動します。
- 「スマートエントリー&スタートシステム」の設定が「なし」の場合、「解錠されるドアの選択」の設定はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図 (非常点滅灯)」・「作動の合図音量 (ブザー音量調整)」の設定に依存します。

■ マルチインフォメーションディスプレイについて

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ画面は一時中断されます。

- カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された。
- カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーウィンドウ	正常に働かないとき	P. 156
ハンドル位置調整	補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 148
イオンフィルタ	イオンフィルタを交換したあと	P. 456

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....462

車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....465

アルファベット順さくいん.....467

五十音順さくいん.....469

燃料電池車さくいん.....486

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 119）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 120）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 376）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→ P. 172）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 133）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 124）



誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができません。キーを取り出してください。（→ P. 128）

故障かな？と思ったら



FC システムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 170）
- シフトポジションは P になっていますか？（→ P. 174）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 131）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法で FC システムを始動することができます。
（→ P. 431）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 433）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 155）



パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたは ON モード（FC システムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。
（→ P. 172）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 465）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 400、404 をご確認ください。



メモリーコール機能が作動しない（→ P. 143）

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、ドライビングポジションが既に呼び出された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しはしません。その場合は登録したドライビングポジションのボタンを押してドライビングポジションを呼び出してください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 412）



立ち往生した

- めかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 444）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 64
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 404
	シフトポジションが P 以外になっている	P. 404
	窓が開いている（FC システム停止中のみ）	P. 157
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 64
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P. 128
FC システムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 376
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 132
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 404
	シフトポジションが P 以外になっている	

※ ドアまたはトランクを解錠するか、パワースイッチをアクセサリモード、または ON モードにするか、FC システムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 126
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 184
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※ ¹	P. 402
シフトポジションの切りかえをしたとき	無効なシフト操作した※ ²	P. 180
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 165
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P. 241
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 208
車線からはずれそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P. 219
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P. 232
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
メーターに H ₂ 警告灯が点灯したとき	水素ガスがもれているおそれがあります	P. 400

※¹ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

※² シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 286

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 275, 401

DSRC

(デディケイテッドショートレンジコミュニケーション) 330

ECB

(エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム) 275

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング) 275

FC

(フューエルセル) 70

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィックス) 43

LDA

(レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き])... 219

PCS

(プリクラッシュセーフティ) 208, 401

PKSB

(パーキングサポートブレーキ) 263

RSA

(ロードサインアシスト) 230

S-VSC

(ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール)... 275

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム)..... 34, 400

Toyota Safety Sense

LDA

(レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き])... 219

PCS (プリクラッシュセーフティ) 208

RSA (ロードサインアシスト) 230

オートマチックハイビーム 189

先行車発進告知機能 246

レーダークルーズコントロール 234

TRC
 (トラクションコントロール)275

VSC
 (ビークルスタビリティコントロール)275

五十音順さくいん

あ

アースポイント	
（バッテリーあがりの処置）.....	433
アームレスト	312
RSA	
（ロードサインアシスト）.....	230
アウターミラー（ドアミラー）... ..	151
格納のしかた	151
操作	151
ブラインドスポット	
モニター（BSM）.....	249
ミラーヒーター	289
リバース連動機能	152
アクセサリーコンセント	316
アクセサリーソケット	315
アクセサリーモード	172
アシストグリップ	314
足元照明	299
アラーム	64
オートアラーム	64
音さくいん	465
警告ブザー	400, 404
アンチロックブレーキシステム	
（ABS）.....	275
アンテナ（スマートエントリー& スタートシステム）.....	131

い

ETC カード	
カードについて	336
挿入のしかた	337
取り出し方	338
有効期限切れ通知	339

ETC システム

ETC カード	336
ETC システムについて	330
ETC2.0 ユニット	333
統一エラーコード一覧	345
利用履歴の確認	342

ETC2.0 ユニット

（VICS 機能付）.....	330
ETC カード	336
ETC システムについて	330
ETC2.0 ユニット	333
音量調整	343
各部の名称	333
装着位置	333
統一エラーコード一覧	345
統一エラーコードの確認	344
ランプ表示と通知音	340
利用履歴の確認	342

イオンフィルタ

イグニッションスイッチ

（パワースイッチ）.....	170
----------------	-----

位置交換

（タイヤローテーション）.....	363
-------------------	-----

イベントデータレコーダー

（EDR）.....	8
------------	---

イモビライザーシステム

イルミネーテッドエントリー

システム	301
------------	-----

インジケーター

FC システム

インジケーター	110
表示灯	100
READY	170

インストルメントパネル

照度調整スイッチ	104
----------------	-----

インテリアランプ

インナーミラー

う

ウインカー (方向指示灯)	183
電球 (バルブ) の交換	384
方向指示レバー	183
ウインドウ	155
ウォッシャー	195
パワーウインドウ	155
リヤウインドウ	
デフォッガー	289
ウインドウロックスイッチ	155
ウォーターリリース	171
ウォーニングランプ	
(警告灯)	99, 400
ウォッシャー	195
液の補充	362
スイッチ	195
タンク容量	450
冬の前の準備・点検	281
動けなくなったときは	
(スタック)	444
雨滴感知式ワイパー	195
運転	160
運転を補助する装置	275
寒冷時の運転	281
正しい運転姿勢	28
手順	160
燃料電池車運転の	
アドバイス	86
運転席シートポジション	
メモリー	139

え

AC100V 電源	316
エアコン	
オートエアコン	286
「ナノイー」	292
フィルターの交換	374
エアコン・デフォッガー	288
エアバッグ	34
SRS エアバッグ警告灯	400
お子さまのための注意	42
改造・廃棄	37
作動条件	38
正しい姿勢	28
配置	34
H ₂ O スイッチ	171
エネルギーモニター	109
FC システム	
寒冷時	173
警告灯	99, 400
始動方法	170
注意	74
停止方法	171
特徴	70
表示灯	100
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	107
冷却水	448
FC システムインジケーター	110
FC スタック	78
LED デイライト	187
エレクトリック	
パワーステアリング (EPS)	275
機能	275
パワーステアリング警告灯 ...	401

お

オートアラーム.....	64
オートエアコン.....	286
オートドアロック・	
アンロック機能.....	124
オートマチックハイビーム.....	189
オートレベリングシステム	
(ヘッドランプ).....	187
オーバーヒート.....	439
オーバーヘッドコンソール.....	307
オープナー	
トランク.....	127
燃料充てん扉.....	200
ボンネット.....	357
おくだけ充電	
(ワイヤレス充電器).....	322
お子さまを乗せるとき.....	42
ウインドウロックスイッチ....	155
エアバッグ.....	35
お子さまの安全のために.....	42
キーの電池.....	377
シートベルトの着用.....	31
ステアリングヒーター／	
シートヒーターに関する	
警告.....	296
チャイルドシート.....	43
チャイルドシートの取り付け...	43
チャイルドプロテクター.....	124
トランクに関する警告.....	129
発炎筒の取り扱いに関する	
警告.....	391
バッテリーに関する警告.....	437
パワーウインドウに関する	
警告.....	157

オドメーター.....	102
機能.....	102
表示の切りかえ・	
リセットボタン.....	103

か

カーテシランプ	
装着位置.....	299
ワット数.....	450
カーテンシールドエアバッグ.....	34
カードホルダー.....	307
カーペット.....	355
洗浄.....	355
フロアマットの取り付け方.....	26
外気温度表示.....	102
回生ブレーキ.....	73
外装の電球（バルブ）.....	381
交換要領.....	381
ワット数.....	450
外部電源供給システム.....	88
買い物フック.....	308
カスタマイズ機能.....	451
型式.....	450
カップホルダー.....	305
カメラ	
白線認識用カメラ（LDA）....	219
ガラスの曇り取り（リヤ	
ウインドウデフォッガー）.....	289
ガレージジャッキ.....	360
冠水路走行.....	168
寒冷時の運転.....	281

き

キー	118
FC システムが	
始動できない	431
キーナンバープレート	118
キーの構成	118
キーレスエントリー	121, 127
キーをなくした	119, 120
正常に働かない	430
施錠・解錠ができない	430
電子キー	118
電池が切れた	376, 430
メカニカルキー	118
ワイヤレスリモコン	121
キーレスエントリー	131
スマートエントリー&	
スタートシステム	131
ワイヤレスドアロック	121
きしみやひっかき音が聞こえる	
(ブレーキパッドウェア	
インジケーター)	165
救急箱等固定用バンド	308
給油 (燃料補給)	198
給油 (燃料補給) のしかた	198
メンテナンスデータ	448
緊急時シートベルト固定機構	31
緊急始動機能 (FC システム)	427

緊急時の対処

FC システムが	
始動できない	426
オーバーヒートした	439
キーの電池が切れた	376, 430
キーをなくした	119, 120
警告灯がついた	400
警告メッセージが	
表示された	404
けん引	394
故障したときは	388
車両を緊急停止する	392
水没したときは	393
スタックした	444
電子キーが正常に働かない	430
発炎筒	390
パンクした	412
補機バッテリーがあがった	433
緊急停止システム	76
緊急ブレーキシグナル	275

<

空気圧 (タイヤ)	450
区間距離計	
(トリップメーター)	102
機能	102
切りかえ・リセットボタン	103
駆動用電池	80
警告メッセージ	404
充電について	73
搭載位置	70, 75
冷却用吸入口	77

曇り取り

フロントガラス	288
ミラーヒーター	289
リヤウインドウ	
デフォッガー	289
クラクション（ホーン）	147
クリアランスソナー	
警告メッセージ	260
操作	256
クリアランスランプ（車幅灯） ...	186
スイッチ	186
電球（バルブ）の交換	384
クリップ	
フロアマット	26
クルーズコントロール	
レーダークルーズ	
コントロール	234
グローブボックス	303
グローブボックスランプ	303

け

警告器（ホーン）	147
計器類（メーター）	102
照度調整	104
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	107
メーター	102
警告灯	99
ABS & ブレーキアシスト	401
H ₂	400
SRS エアバッグ	400
高水温	400

シートベルト非着用	402
充電	400
スリップ表示灯	401
電子制御ブレーキ	400
ドライブスタート	
コントロール	402
燃料残量	402
パーキングブレーキ	401
パワーステアリング	401
半ドア	402
PCS	401
PKSB OFF 表示灯	265
ブレーキ	400
ブレーキオーバーライド	
システム	402
マスターウォーニング	402
警告ブザー	
H ₂	400
シートベルト非着用	402
接近警報（レーダークルーズ	
コントロール）	241
先行車発進告知機能	246
パーキングブレーキ	
未解除走行時	184
パワーステアリング	403
半ドア	122, 132
半ドア走行時	126
ブレーキ	402
窓開	157
リバース	181
警告メッセージ	404
化粧ミラー（バニティミラー） ...	310
けん引	394
けん引のしかた	394
フック	396

こ

交換	
エアコンフィルターの交換	374
キーの電池	376
タイヤ	366
電球（バルブ）	381
ヒューズ	378
工具（ツール）	366, 414
航続可能距離	102
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換	384
高電圧部位	75
コーションラベル	74, 75, 439
コートフック	313
子供専用シート	43
選択方法	45
取り付け方	47
小物入れ	307
コンソールボックス	303
コンライト	
（自動点灯・消灯装置）	186

さ

サービスプラグ	75, 83
サイドエアバッグ	34
サイド方向指示灯	183
電球（バルブ）の交換	384
方向指示レバー	183
サイドミラー（ドアミラー）	151
格納のしかた	151
操作	151
ブラインドスポットモニター	
（BSM）	249
ミラーヒーター	289
リバース連動機能	152
サンバイザー	310

し

シート	137
シートクッション	
エアバッグ	34
正しい運転姿勢	28
チャイルドシート	43
調整	137
手入れ	354
パワーイージーアクセス	
システム	139
ヘッドレスト	144
ポジションメモリー	140
マイコンプリセット	
ドライビングポジション	
システム	139
メモリーコール機能	142
シートヒーター	297
シートベルト	30
お子さまの着用	31, 32
緊急時シートベルト固定機構	31
シートベルト非着用警告灯	402
高さ調整	30
正しく着用するには	30
着け方・はずし方	30
手入れ	355
妊娠中の方の着用	32
シートベルト非着用警告灯	402
シートベルトプリテンショナー	31
機能	31
プリテンショナー警告灯	400
シートポジションメモリー	139
事故が発生したとき	
（燃料電池車の注意）	84
室内灯（インテリアランプ）	299
始動のしかた	170

シフトポジション	178
シフトレバー	177
シフトポジションの	
切りかえ	177
操作	177
リバース警告ブザー	181
締め付けトルク（ホイール）	370
ジャッキ	
ガレージジャッキ	360
車載ジャッキ	366, 414
ジャッキハンドル	366, 414
車幅灯	186
電球（バルブ）の交換	384
ランプスイッチ	186
車両型式	450
車両仕様（スペック）	448
車両接近通報装置	76
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	392
収納装備	302
仕様（車両仕様）	448
衝撃感知ドアロック	
解除システム	125
照度調整	
インストルメントパネル	
照度調整スイッチ	104
初期設定	459
助手席シートベルト	
非着用警告灯	402
侵入センサー	
（オートアラーム）	66

す

水素関係部位	74
水素ステーションでの情報	488
水素ディテクタ（検知器）	79
水素タンク	78
搭載位置	74
容量	448
スイッチ	
イグニッション	170
ウインドウロック	155
ウインドシールド	
デアイサー	289
ウォッシャー	195
エコ空調	288
H ₂ O	171
ECO MODE	179
LDA	219
オーディオ	328
オートマチックハイビーム	189
オドメーター／	
トリップメーター	103
クルーズコントロール	234
シート調整	137
シートヒーター	297
シートポジションメモリー	139
車間距離切りかえ（レーダー	
クルーズコントロール）	239
車両接近通報一時停止	76
侵入センサー OFF	66
ステアリング	
スイッチ	328
ステアリングヒーター	297
DC OUT	89
電話	328
ドアミラー	151

ドアロック	123
トーク	328
ドライビングポジション	
メモリー	140
トランクオープナー	127
トランクオープナーメイン	128
燃料充てん扉オープナー	200
ハザードランプ	389
パワーウィンドウ	155
パワースイッチ	170
POWER MODE	179
ハンドル位置調整	147
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	389
VSC OFF	276
フォグランプ	194
方向指示レバー	183
ホーン (警音器)	147
メーター操作スイッチ	108
メーター表示切りかえ	103
ランプ	186
リヤウインドウ	
デフォッガー	289
リヤフォグランプ	194
レーダークルーズ	
コントロール	234
ワイパー	195
スタック	444
ステアリングヒーター	297

ステアリングホイール	
(ハンドル)	147
位置調整	147
ステアリング	
スイッチ	328
ステアリングヒーター	297
ドライビングポジション	
メモリー	139
ストップランプ (制動灯)	
緊急ブレーキシグナル	275
電球 (バルブ) の交換	384
スノータイヤ (冬用タイヤ)	281
スピードメーター	102
スペック (車両仕様)	448
スマートエントリー&	
スタートシステム	131
アンテナの位置	131
FC システムの始動	170
カスタマイズ設定	451
緊急始動機能	427
警告ブザー	132, 404
警告メッセージ	404
作動範囲	131
正常に働かないとき	430
節電機能	132
電波がおよぼす	
影響について	136
ドアの解錠・施錠	121
トランクの解錠	127
スモールランプ (車幅灯)	186
電球 (バルブ) の交換	384
ランプスイッチ	186

せ

清掃	350, 354
アルミホイール	351
外装	350
シートベルト	355
内装	354
レーダーセンサー	204
制動灯	
緊急ブレーキシグナル	275
電球（バルブ）の交換	384
積算距離計（オドメーター）	102
機能	102
表示の切りかえ・	
リセットボタン	103
セキュリティ	
インジケーター	63, 64
先行車発進告知機能	246
接近警報（レーダークルーズ	
コントロール）	241
センサー	
インナーミラー	150
雨滴感知センサー	196
侵入センサー	66
ライトセンサー	187
レーダーセンサー	204
洗車	350
前照灯（ヘッドランプ）	186
電球（バルブ）の交換	384
ライトセンサー	187
ランプ消し忘れ防止機能	187
ランプスイッチ	186

そ

走行モード	
（ドライブモード）	179
速度計（スピードメーター）	102

た

ターンシグナルランプ	
（方向指示灯）	183
電球（バルブ）の交換	384
方向指示レバー	183
タイヤ	363
空気圧	372, 450
交換	366
締め付けトルク	370
チェーン	281
点検	363
パンク応急修理キット	412
パンクしたときは	412
ホイールサイズ	450
ローテーション	
（位置交換）	363
タイヤが空まわりする	
（スタックした）	444
タイヤチェーン	281

ち

チェーン (タイヤチェーン)	281
チャイルドシート	43
ISOFIX バーでの	
取り付け	56
シートベルトでの固定	51
選択方法	45
チャイルドプロテクター	124
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	184
警告メッセージ	184
操作	184
未解除走行時警告ブザー	184
メンテナンスデータ	449

つ

ツール (工具)	366, 414
----------------	----------

て

停止表示板収納スペース	308
手入れ	350, 354
アルミホイール	351
外装	350
シートベルト	355
内装	354
レーダーセンサー	204
テールランプ (尾灯)	186
電球 (バルブ) の交換	384
ランプスイッチ	186
デフォッガー (リヤウインドウ	
デフォッガー)	289
電気モーター	70, 75
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	381
ワット数	450
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	448
電子キー	118
作動範囲	131
正常に働かないとき	430
節電機能	132
電池が切れた	430
電池交換	376
電池交換 (キー)	376
電話スイッチ	328

と

ドア	121
オートドアロック・	
アンロック機能	124
警告メッセージ	132, 404
衝撃感知ドアロック解除	
システム	125
スマートエントリー&	
スタートシステム	131
チャイルドプロテクター	124
ドアガラス	155
ドアロックスイッチ	123
半ドア警告灯	402
半ドア走行時警告ブザー	126
ロックレバー	123
ワイヤレスリモコン	121
ドアカーテシランプ	299
位置	299
ワット数	450
ドアミラー	151
格納のしかた	151
操作	151
ブラインドスポット	
モニター (BSM)	249
ミラーヒーター	289
リバース連動機能	152
盗難防止装置	
イモビライザーシステム	63
オートアラーム	64
トークスイッチ	328
時計	311

トップテザーアンカー	61
Toyota Safety Sense	203
RSA	
(ロードサインアシスト)	230
LDA	
(レーンディパーチャー	
アラート [ステアリング	
制御機能付き])	219
オートマチックハイビーム	189
先行車発進告知機能	246
PCS (プリクラッシュ	
セーフティ)	208
レーダークルーズ	
コントロール	234
ドライビングポジション	
メモリー	140
ドライブインフォメーション	
(マルチインフォメーション	
ディスプレイ)	109
ドライブスタート	
コントロール	162
トラクションコントロール	
(TRC)	275
トランク	127
オープナー	127
キー閉じ込み防止機能	128
警告メッセージ	404
電子キーが正常に	
働かないとき	430
トランク内の装備	308
ワイヤレスリモコン	127
トランクランプ	128
トランスミッション	
(動力伝達装置)	177
操作	177
メンテナンスデータ	449

トリップメーター	102
機能	102
切りかえ・リセットボタン	103

な

内装

収納装備	302
手入れ	354
「ナノイー」	292

に

ニーエアバッグ	34
荷物	
積むときの注意	169
トランク	127, 308

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	444
---------------------------	-----

ね

燃費

1 分間燃費	111
5 分間燃費	111
月別燃費	111
平均燃費	112
燃料	448
種類	448
燃料残量警告灯	402
燃料充てん	198
容量	448
燃料切れになったとき	77
燃料計	102

燃料電池車

ウォーターリリース	171
運転のアドバイス	86
オーバーヒート	439
回生ブレーキ	73
緊急始動機能	427
緊急時の停止方法	392
緊急停止システム	76
駆動用電池冷却用吸入口	77
警告メッセージ	404
高電圧部位	75
サービスプラグ	83
事故が発生したとき	84
始動できないときは	426
始動方法	170
車両接近通報装置	76
充電	73
出力制限	80
水素安全	82
水素ガス	81
水素関係部位	74
注意	74
特徴	70
特有の音と振動	72
燃料	448
燃料切れになったとき	77
燃料充てん口	198
パワー (イグニッション) スイッチ	170
補機バッテリーがあがった	433
メンテナンス・ 修理・廃車するとき	73

は

パーキングサポートブレーキ	263
警告灯	400
操作	265
表示灯	100
パーキングブレーキ	184
警告メッセージ	404
操作	184
パーキングブレーキ警告灯	401
未解除走行時警告ブザー	184
メンテナンスデータ	449
パーソナルランプ	300
排気排水管	79
ハイビーム (ヘッドランプ)	186
オートマチックハイビーム	189
電球 (バルブ) の交換	384
ランプスイッチ	186
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	384
ハザードランプ (非常点滅灯) ...	389
スイッチ	389
電球 (バルブ) の交換	384
挟み込み防止機能	
パワーウィンドウ	155
発炎筒	390
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	384
バッテリー (駆動用電池)	70, 75
充電について	73
搭載位置	70, 75
冷却用吸入口	77
バッテリー (補機バッテリー) ...	357
搭載位置	357
補機バッテリーがあがった	433
補機バッテリーを	
交換するとき	358

バニティ (化粧用) ミラー	310
バニティミラーランプ	310
装備について	310
ワット数	450
バルブ (電球)	
交換要領 (外装のバルブ)	381
ワット数	450
パワーイージーアクセス	
システム	139
パワー (イグニッション)	
スイッチ	170
パワーウィンドウ	155
ウィンドウロックスイッチ	155
閉めることが	
できないときは	156
操作	155
ドアロック連動ドアガラス	
開閉機能	156
挟み込み防止機能	155
パワーコントロールユニット	75
パワーステアリング	275
警告メッセージ	404
パワーステアリング警告灯	401
パンクした	
タイヤパンク	
応急修理キット	412
番号灯	
(ライセンスプレートランプ) ...	186
電球 (バルブ) の交換	384
ランプスイッチ	186
ハンドル	
(ステアリングホイール)	147
位置調整	147
ステアリングヒーター	297
ポジションメモリー	140

ひ

Bs モード	179
ビークルスタビリティ コントロール (VSC)	275
ヒーター エアコン・デフォグガー	289
オートエアコン	286
シートヒーター	297
ミラーヒーター	289
非常点滅灯 (ハザードランプ) ...	389
スイッチ	389
電球 (バルブ) の交換	384
尾灯 (テールランプ)	186
電球 (バルブ) の交換	384
ランプスイッチ	186
ヒューズ	378
表示灯	100
日よけ (サンバイザー)	310
ヒルスタートアシスト コントロール	275

ふ

ブースターケーブルの つながり方	433
フォグランプ	194
スイッチ	194
電球 (バルブ) の交換	382

ブザー

RSA (ロードサインアシスト)	230
シートベルト非着用警告	402
接近警報 (レーダークルーズ コントロール)	241
先行車発進告知機能	246
パーキングブレーキ未解除 走行時警告	184
半ドア走行時警告	126
ブレーキ警告	400
リバース警告	181

フック

買い物フック	308
けん引フック	396
コートフック	313
フロアマット固定フック	26

フューエルメーター (燃料計) ... 102

フューエルリッド

(燃料充てん口)	198
燃料充てんのしかた	198

冬の前の準備 (寒冷時の運転) ... 281

冬用タイヤ 281

ブラインドスポットモニター

(BSM)	249
-------------	-----

プリクラッシュセーフティ

(PCS)	204
機能	204
警告メッセージ	400
PCS 警告灯	401

ブレーキ

回生ブレーキ	73
緊急ブレーキシグナル	275
警告ブザー	400
パーキングブレーキ	184
ブレーキ警告灯	400
メンテナンスデータ	449

ブレーキアシスト.....	275
ABS & ブレーキアシスト	
警告灯.....	401
機能.....	275
ブレーキ付近からキーキー音が	
聞こえる.....	165
ブレーキフルード.....	449
フロアマット.....	26
フロントアームレスト.....	312
フロントシート.....	137
シートヒーター.....	297
シートポジションメモリー....	139
正しい運転姿勢.....	28
調整.....	137
手入れ.....	354
パワーイージーアクセス	
システム.....	139
ヘッドレスト.....	144
ポジションメモリー.....	140
マイコンプリセット	
ドライビングポジション	
システム.....	139
メモリーコール機能.....	142
フロント方向指示灯.....	183
電球（バルブ）の交換.....	384
方向指示レバー.....	183

へ

ヘッドランプ.....	186
電球（バルブ）の交換.....	384
ライトセンサー.....	187
ランプ消し忘れ防止機能.....	187
ランプスイッチ.....	186
ヘッドランプオートレベリング	
システム.....	187
警告メッセージ.....	404
ヘッドレスト.....	144

ほ

ホイール

交換（タイヤ）.....	363, 366
メンテナンスデータ.....	450
方向指示灯.....	183
電球（バルブ）の交換.....	384
方向指示レバー.....	183
ホーン（警告器）.....	147
補機バッテリー.....	357
交換するとき.....	358
搭載位置.....	357
補機バッテリーがあがった....	433
保証.....	9
ボトルホルダー.....	306
ボンネット.....	357
開け方.....	357
警告メッセージ.....	404

ま

マイコンプリセット

ドライビングポジション	
システム.....	139
マスターウォーニング.....	402, 404
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	107
エネルギーモニター.....	109
FC システム	
インジケーター.....	110
警告メッセージ.....	404
ドライブ	
インフォメーション.....	109

み

ミラー

インナーミラー	149
ドアミラー	151
バニティミラー	310
ミラーヒーター	289

め

メインディスプレイ	102
分割表示	104
メーター (計器類)	102
警告灯	99, 400
照度調整	104
表示切りかえボタン	103
表示灯	100
マルチインフォメーション ディスプレイ	107
メインディスプレイ	102
メーター	102
メカニカルキー	118
メモリーコール機能	142
メンテナンスデータ	448

も

モーター (電気モーター)	70, 75
モーターフード (ボンネット) ...	357
開け方	357
警告メッセージ	404
モータールーム モータールームから 蒸気が出ている	439

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	451
雪道ですべて動けない (スタックした)	444
油脂類	448

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	186
電球 (バルブ) の交換	384
ランプスイッチ	186
ラゲージルーム (トランク)	127, 308
ラジエーター オーバーヒート	439
メンテナンスデータ	448
ランプ オートマチックハイビーム	189
室内灯	299
電球 (バルブ) の交換	381
パーソナルランプ	300
非常点滅灯 (ハザードランプ)	389
ヘッドランプ (前照灯)	186
方向指示灯 (ターンシグナル ランプ/ウインカー)	183
ライトセンサー	187
ランプ消し忘れ防止機能	187
リヤフォグランプ	194
ワット数	450
ランプ消し忘れ防止機能	187

り

リバース連動機能	
ドアミラー	152
リヤアームレスト	312
リヤウインドウデフォッガー	
スイッチ	289
リヤフォグランプ	194
スイッチ	194
電球（バルブ）の交換	384
リヤ方向指示灯	183
電球（バルブ）の交換	384
方向指示レバー	183

る

ルームミラー	
（インナーミラー）	149
ルームランプ（室内灯）	299

れ

冷却水	448
メンテナンスデータ	448
冷却装置（ラジエーター）	448
オーバーヒート	439
メンテナンスデータ	448
レーダークルーズ	
コントロール	234
警告メッセージ	410
接近警報	241
レーダーセンサー	204
レーンディパーチャーアラート	
（LDA）	219
警告メッセージ	410
操作	226

レバー

シフト	177
方向指示	183
ボンネット解除	357
ロック（ドア）	123

ろ

ロードサインアシスト	
（RSA）	230
ロック	
ウインドウロック	155
スマートエントリー&	
スタートシステム	131
チャイルドプロテクター	124
ドア	121
ワイヤレスリモコン	121

わ

ワイパー & ウォッシャー	195
ウインドシールド	
デアイサー	289
ウォッシャー液の補充	362
ワイヤレス充電器	
（おくだけ充電器）	322
ワイヤレス	
リモコン	118, 121, 127
作動の合図	122
操作	118, 121, 127
電池の交換	376
半ドア警告ブザー	122
ワックス	350
ワット数	450

燃料電池車さくいん

燃料電池車についての解説

燃料電池車の特徴 P. 70

燃料電池車についての注意事項

水素関係部位 P. 74

高電圧部位 P. 75

駆動用電池冷却用吸入口 P. 77

燃料充てんについて

充てんする前に P. 198

燃料充てん口の開け方 P. 200

燃料充てん口の閉め方 P. 201

運転のしかた

運転にあたって P. 160

FC システムの始動方法 P. 170

トランスミッション（動力伝達装置） P. 177

外部電源供給システム

給電作業をする前に P. 88

給電を開始する P. 89

給電状態表示 P. 90

給電を停止する P. 91

環境に配慮した経済的な運転

燃料電池車運転のアドバイス..... P. 86

事故が起きたときは

事故が発生したときの警告 P. 84

燃料電池車特有の説明がある項目

燃料電池車特有の音と振動 P. 72

車両接近通報装置 P. 76

水素ガスもれやその他の異常に気付いたとき P. 82

警告灯／表示灯 P. 98

計器類 P. 102

ドライブインフォメーション P. 109

ウォーターリリース (H₂O スイッチ) P. 171

寒冷時について P. 173

ボンネット P. 357

発炎筒 P. 390

けん引について P. 394

警告メッセージ P. 404

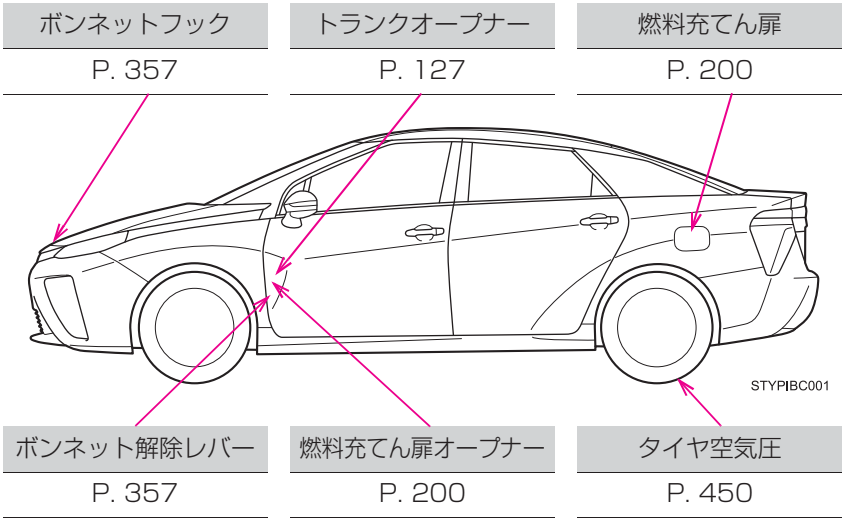
FC システムが始動できないときは P. 426

補機バッテリーがあがったときは P. 433

オーバーヒートしたときは P. 439

水素ステーションでの情報

燃料充てんなどの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	122.4L（約 5kg）※ ※ 水素タンク容量は 122.4L で、約 5kg の圧縮水素ガスが貯蔵可能です。ただし、充てん時のガス温度上昇によるガス密度低下により、充てん圧力が 70MPa の水素ステーションで充てんした場合、使用可能水素量は約 4.3kg で 5kg より少なくなります。 なお、2016 年度以降の水素ステーションでは、充てん圧力を 82MPa まで上昇させることができるため、ガス密度低下分が減少し、使用可能水素量は約 4.6kg まで増加予定です。		
燃料の種類	圧縮水素ガス P. 448		
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ：		
	タイヤサイズ	前輪 kPa (kg/cm ²)	後輪 kPa (kg/cm ²)
	215/55R17 94W	230 (2.3)	230 (2.3)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載して
おります。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>

